

科目名	人間発達学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	佐藤 久美			
開講期	前期			
授業概要	人は生涯にわたって発達を続けます。成人後も老年期も、人間として成長し、円熟し、次の世代を育てて、いのちのバトンをつないでいきます。また、子どもの成長と発達は、様々な発見と驚きに満ちた、奥深い世界です。この授業では、発達心理学の基本的な知識を学ぶと同時に、最新の話題と情報を取り入れながら、人間の発達と成長について考えていきます。担当教員の医療・福祉分野における心理臨床の実務経験を活かし、訓練用構成事例や視聴覚教材を駆使して、子どもや大人の姿が目浮かぶように伝えます。☑ 授業は毎回、双方向型対話形式を活用しながら進めていきますので、活発な質問や意見を歓迎します。ディスカッションやグループワークも行いますので、学んだことや感じたことを多い語り合ってください。☑ レポート提出（あるいは試験実施）後は、添削やコメントを各学生にフィードバックします。☑ 位置づけ・水準 HL2203☑ 担当教員の実務経験経歴：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。			
達成目標	【達成目標】☑ ①エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェなど、主要な発達理論を理解する。☑ ②子どもの成長の過程（身体、運動機能、認知、感情、知能、精神）を理解する。☑ ③愛着理論や母子関係の理論、子ども虐待、愛着障害など重要な概念を理解し、専門用語を正しく使うことができる。☑ 単位認定の最低基準：上記の内容について、7割を理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任			
受講資格	人間生活学科 2年生☑ （生活総合コースは必修）	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80％）☑ 発言内容・受講態度、普段のレポート（20％）	
教科書	授業でレジュメや資料を配布する。			
参考書	テーマ別に授業で紹介する。			
学生への要望	授業では、理解を深め、身近なものとして感じることでできるよう、できるだけグループ討論や・ワークやディスカッションを多く取り入れたいと思います。積極的に参加して、おおいに意見を交わしてください。			
オフィスタイム	水曜Ⅳ限、木曜Ⅰ限、No.2(臨床心理学)研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法などについて。☑ 発達心理学とは何か。	次回授業内容（発達理論）について、参考書等にあたり、キーワードを調べておく。	30
2	発達理論	代表的な理論家たち（フロイト、ハヴィガースト、エリクソン等）の発達理論を紹介します。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	子どもの発達Ⅰ	発達心理学のはじまり、昔の「子ども観」、発達の評価、遺伝か環境か。☑ 赤ちゃんの力。生理的早産、視覚・聴覚・嗅覚、原始反射、新生児模倣、言葉の準備などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	子どもの発達Ⅰ 乳児期（0～1歳）	はいはいから歩行へ。言葉の獲得。睡眠の変化。嘔む力と離乳食など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	子どもの発達Ⅱ 幼児期（2～3歳）の発達	自我のめざめと反抗期。言葉の発達。認識の広がりと「ごっこ」遊びなど。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	子どもの発達Ⅲ 幼児期（4～5歳）の発達	子どもの思考能力（ピアジェ）、自己中心性、子どもの描く絵、言葉と文法、ルールの学習など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	子どもの発達Ⅳ 児童期の発達	ギャングエイジ、兄弟の影響、知能検査、やる気を育てる、同調圧力、いじめなどについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	子どもの発達Ⅳ 子どもの道徳性の発達	コールバーグ、ギリガン、バンデュエラの理論、反抗期「恐怖の2歳児」、こころの理論などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	青年期・成人期・高齢期の発達	アイデンティティの獲得、モラトリウム、青年期の心理的危機と精神疾患。☑ 人生のパートナーを探す、次世代を育成する、人生を振り返る、などについて。☑	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	愛着理論Ⅰ 愛着と基本的信頼	ボウルビィの愛着理論、エインスワースの安全基地、神経ネットワークの発達からみる愛着の形成など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	愛着理論Ⅱ 愛着と共感する力	愛情ホルモンの機能と役割、物マネ神経細胞の発見、共感する力や想像力はどのように育まれるのか、など。☒	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
12	愛着障害と虐待	反応性愛着障害、虐待された子ども、親の養育を支援する、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
13	ネグレクトの影響	ネグレクトの種類、感受期、言葉の獲得、「犬に育てられた少年」を取り上げます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
14	発達のおまづき	発達障害とは、アスペルガー障害（事例）、支援の方法、サヴァン症候群などについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
15	まとめと補足	まとめ、補足説明、掘り下げ討論など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

科目名	生理学の人間学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	諏訪 雅貴			
開講期	後期			
授業概要	人体を構成する基本的構造と機能を学ぶため、細胞、組織、器官並びに系統別レベルで学習する。また、老化や特殊環境における生理反応を理解する。☑ 期末試験終了後に問題と解答を示し、フィードバックするので活用してください。☑ ☑ 位置づけ・水準 HL2204			
達成目標	人体について構造と機能を理解し、さらに疾病や老化を学ぶことで、ヒトを客観的に説明できる。60点以上で単位を認定する。☑ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、総合的な学習経験、創造的思考			
受講資格	本学に在籍して、高等教育を積極的に学修する意欲があること。	成績評価 方法	授業内の試験（100点満点）で評価する。	
教科書	配布資料			
参考書	イラストでまなぶ生理学 田中越郎著 医学書院			
学生への要望	人体の構造と働きを学び、ヒトの存在について考える。			
オフィスタイム	月曜日の1・2限目 水曜日の1・2限目 ☑ 担当教員研究室（家政学館3階 生理学・食品衛生学研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、体液	まず、本講義の概要について説明します。 人体は細胞の集合体であり、細胞の内外の液体を調整し、生命が維持されています。ここでは、浸透圧や脱水について学びます。	体液について、配布した問題を解いて復習する。	30
2	血液	血液の成分とその働き、凝固のしくみについて理解します。	血液について、配布した問題を解いて復習する。	30
3	免疫	自己と非自己、細胞性免疫、液性免疫、アレルギーについて理解します	免疫について、配布した問題を解いて復習する。	30
4	循環	循環器の構造、血圧変動、末梢循環をについて理解します。	循環について、配布した問題を解いて復習する。	30
5	呼吸	肺の構造と機能、呼吸中枢について理解します。	呼吸について、配布した問題を解いて復習する。	30
6	代謝	栄養素、エネルギー（ATP）、肥満について理解します。	代謝について、配布した問題を解いて復習する。	30
7	演習1	前半の授業内容について、演習問題を解き、まとめます。	演習問題の内容のうち、できなかった部分を復習しておくこと。	30
8	内分泌	ホルモンの種類、分泌腺、機能について理解します。	内分泌について、配布した問題を解いて復習する。	30
9	体温、筋と骨	熱産生、熱放散、体温調節、特殊環境への応答について理解します。筋と骨の構造、筋収縮について理解します。	体温、筋、骨について、配布した問題を解いて復習する。	30
10	消化	消化管、消化酵素、腸機能の調節について理解します。	消化について、配布した問題を解いて復習する。	30
11	排泄	泌尿器系と腎臓の機能について理解します。	排泄について、配布した問題を解いて復習する。	30
12	神経	ニューロン、末梢神経、自律神経、中枢神経、大脳、反射について理解します。	神経について、配布した問題を解いて復習する。	30
13	感覚	感覚やその受容器の種類、機能について理解します。	感覚について、配布した問題を解いて復習する。	30
14	演習2	後半の授業内容について、演習問題を解き、まとめます。	演習問題の内容のうち、できなかった部分を復習しておくこと	30
15	試験と全体のまとめ	試験を行い、質疑応答と全体のまとめを行います。	試験問題と関連問題を復習すること	90

科目名	家政学原論Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員	影山 彌,深谷 笑子,安田 純子		
開講期	前期		
授業概要	本講義は家政学の学問的基礎を確立するために、家政学を哲学的に究明し、家政哲学を樹立した。このことは、家族生活並びに個人の生活、即ち家政学の拠り所となる家政学原論を成立させる。従ってその重要性を捉え、家政学の本質を敷衍する。よって、この本質的視点より人々の生活の安定性へ寄与することを意図し且つ生活への還元を図る。☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL 2 3 1 2		
達成目標	【履修カルテの評価項目】☒ ①家政学の定義が理解できたか。☒ ②家政学における空間性・時間性についてどのくらい理解できたか。☒ ③「住むとはどんなことか」について理解できたか。☒ ☒ ・単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。☒ ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理観・社会的責任		
受講資格	人間生活学科2年生☒ 食物栄養学科 2年生	成績評価 方法	受講態度（10％）、テスト（90％）
教科書	関口富左編『家政哲学』家政教育社		
参考書	関口富左編『人間守護の家政学』家政教育社 この参考書は 図書館にありますので、読んでください。		
学生への要望	予習、復習更に疑義等の解明について討議できるように種々の疑問点をす提起すること。		
オフィスタイム	水曜日14:30～16:30,金曜日13:00～14:30 ☒ 創学館 4 階No.1研究室☒ （＊影山先生一月曜日12:00～12：40創学館 4 階No. 2 研究室）☒ （＊深谷先生一月曜日12:00～12：40教務部）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	家政から家政学 へ	家政学原論とは何か、家政学概論とは何か、原論と概論の違いについて意味内容の違いについて学びます。☒ 家政から家政学への歴史について学び、また、日本の大学で家政学部から名称変更になった大学とその理由について話します。☒ 本学の家政哲学研究の歩みと東北北海道地区の家政学原論開講状況について話します。	講義資料について復習する。	60
2	家政学の定義	先学者の定義の比較と意味内容の検討をします。☒ 日本家政学会の定義、黒川喜太郎氏、松平友子氏、小池行松氏、中原賢次氏、林太郎氏、山本キク氏、林太郎氏、野口サキ氏、原田一氏の家政学の定義と関口富左氏の定義を比較します。そこから関口富左氏の定義は、個人や家族に視点があてられていること、また家政学は人間守護の学、という家政学の中心概念について理解します。	講義資料について予習・復習する。	60
3	家庭生活と人間	文学作品、森鷗外『半日』における家庭を読み、主人公は家庭に何を望んでいるか、また家庭を存続させるには家庭には何が必要か、家族の役割をを学びます。また夏目漱石『道草』における家庭を読み、その文学作品から、主人公は家庭に何を望んでいるか、また子どもは家庭に何をのぞみ、子どもが育つためには何が必要かを学びます。	講義資料について予習・復習する。	60
4	ボルノーの被護性と本家政学における「人間守護」	本学家政学が、ボルノー哲学を拠り所として捉えた理由と、家政行為・技術の実態の内容の本質的意味について学びます。人間の生活の基本である住むことの哲学から、人間のよりどころとなる家庭や家族の本質を学び私たちの生活から人間を守護する方法を理解します。	講義資料について予習・復習する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	ボルノーの住むことの意味について	ボルノーの住むことの意味について、「住むとは、世界のすべての道がそこから出。またそこに帰ってくるような一定の場所に属しており、そこから自分の世界を作り上げるといことで、簡単に言えば居住地と呼ぶ。この居住地は秩序ある世界の中心であり、人間が住むことのできる限りにおいてのみ、人間の世界は一つの中心とともに整理され多秩序をもつものである」という言葉から住むこととは何かを具体的に学びます。	講義資料について予習・復習する。	60
6	家政学と人間所在一居住空間の分析一	人間の体験的生活空間を「内部空間」と「外部空間」との二層に区切っている。内部空間は人間がそこへ帰り、その中で自分が安全だと観ずることができる休息と平和の空間であること、すなわち守護空間です。外部空間は労働と仕事の空間で敵意に満ちた緊張の中の空間であることを理解します。また、人間生活の健全さはこの、2つの領域の均衡が正しく保たれていることにかかっているというボルノーの言の意味について、実例をもって理解します。	講義資料について予習・復習する。	60
7	家政学と人間所在 一時間的 分析と日常一	生活とは一つの空間を所有することであるが、それと同時に、時間の経過の中に身を置くことでもあります。人間存在における時間性的問題。主観・客観による時間の変化と日常生活の在り方を学びます。くつろいでいる時の時間は、可逆可能な時間、例えば回想・追憶・反省等々と時間をもどしたり、また静止させたりするなど自由な広がりを持つことができます。また、喜びに満たされている時の短いと感じる時間、苦痛を強いられている時の長いと感じる時間があり、これらの時間は主観的時間と言われます。他方、時計で計られる物理的な時間は客観的な時間で言い表すことについて理解します。	講義資料について予習・復習する。	60
8	家政学の独自性 一 二相性の 解明 一 、 家政学の研究方 法論につい	個人と家族、合理と非合理、内部空間と外部空間空間、主観的時間と客観的時間等々観点より捉え、これを実生活上より分析し、さらにその解明による実態確認をします。 ☒	講義資料について予習・復習する。	60
9	現代の科学の動向	19世紀後半、イギリスで誕生した新しい科学の特色、概要について講じます。	講義資料について予習・復習する。	60
10	現代の科学に対する警告	個別化、高度化を進めてきた、科学に対する科学者自身による反省と警告について解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60
11	本学家政学のパラダイム（1）	本学家政学のパラダイムの概要を説明し、特に本学家政学の理念である「人間守護」について解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60
12	本学家政学のパラダイム（2）	本学家政学の対象及び対象空間について説明をします。	講義資料について予習・復習する。	60
13	本学家政学のパラダイム（3）	本家政学の方法論について説明をします。	講義資料について予習・復習する。	60
14	本学家政学の政策論（1）	本家政学における政策論として、シビル・ミニマムの思想について解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60
15	本学家政学の政策論（2）	シビル・ミニマムの内容が生活の充実を実現する条件であることを解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60

科目名	家政学原論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択	
担当教員	安田 純子			
開講期	後期			
授業概要	家政学原論（Principles Home Economics）は、家政学の領域において根本・基礎を学び、家政学関連科目における専門的各論の土台となる科目です。☑ 家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。家政学の歴史や発展、家政学の研究の目的・対象、研究の原理を学び、次いで家政学の理論を学びます。☑ 本授業では、人間を大切に考え、健全な（家庭）生活を求め、人間生活を総合的に捉え、生活上の課題に対する解決策をも考える家政学への誘いをし、専門的研究への道づけも目指します。☑ 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑ ☑ 位置づけ・水準 HL2211			
達成目標	目標は☑ ①家政学の発祥と展開について、女性の生きる姿勢や勇気を学び、女性の教養観の葛藤や、その苦労や活躍を理解し、家政学の下地の理解につなげることができたか。☑ ②家政学の構造について問題を整理し理解できたか。☑ ③今日の（家庭）生活について見つめ直し、人間生活の真の豊かさとは何か、人間の成長にとって家庭の意義とは何かについて問題意識を深めることができたか。☑ ☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力・創造的思考力			
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース 2年 ☑ 2単位 必修☑ 家政学部人間生活学科福祉コース 2年 2単位☑ 必修☑ 家政学部人間生活学科建築デザインコース☑ 2年 2単位 必修☑ 家政学部 食物栄養学科2年 2単位 必修	成績評価 方法	試験60％、レポートは40％	
教科書	日本家政学会 家政学原論部会編「やさしい家政学原論」建帛社 （授業の準備や参照に使用する）			
参考書	関口富左編著「家政哲学」家政教育社 他授業中に参考書や資料名を挙げる。図書館にて参照。			
学生への要望	学問的要望☑ 授業は暗記ではない。考察できる力を養う。したがって、課題などに対して、図書館やインターネット等で調べ、常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深めて欲しい。☑ 日常的要望（守るべきこと）☑ 授業態度については、学生としての本分を貫き、飲食等の行為、スマホを離さない態度、隣人とおしゃべりなどは厳禁であり、授業に集中すること。レポートは指定された日程を守り提出すること。			
オフィスタイム	月曜日と木曜日の13:00~16:30☑ 場所は、創学館N0. 1研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 家政学への接近	・本科目の構成と進め方☑ ・その他の説明、受講生の確認☑ ・授業への導入☑ 家政学とはどういう学問か☑	はじめての学問であり、基軸となる学問なので、授業の内容把握の復習をする。	30
2	家政学原論とは何か	1 家政学を知ることという ☑ 家政学とは何か 家政+学☑ 原論とは何か☑ 2 家政学における原論の意味と必要性	テキストのp.83~p.90 p.91~p.98に目を通す。（読み込む必要はない。）☑ 復習をする。	60
3	家政学入門1 家政学の目的・対象・方法、定義	1 家政学の目的・対象・方法☑ 2 家政学の定義☑	テキストのp.10~p.18の2.3.4.5.(授業内容に関連した項目)を読む。☑ 復習をする。☑ 定義の確認	60
4	家政学入門2 家政学の領域と独自性	1 家政学の領域☑ 2 家政学の独自性	テキストのp.10~p.18の6.7.8.(授業内容に関連した項目)を読む。復習をする。	60
5	家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程①)	1 家政学発祥の経緯☑ 2 家政学の変遷☑ ☑	テキストのp.1ならびに第4章に目を通す。☑ 復習をする。	60
6	家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程②)	家政学の変遷（胎動期から現在）☑	テキストの第4章を読む。復習をする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	学問研究と研究者たちの姿勢	学問研究と研究者たちの姿勢☑ 先達から何を学ぶか☑ （１）松島千代野先生☑ （２）亀高京子先生☑ *（３）関口富左先生☑ ☑	本学の創始者である、故関口富左名誉学園長について、御著書「家政哲学」などをもとに調べる。☑ 復習をする。	60
8	人間・福祉・自然を護る家政学	1 人間・福祉・自然を護る家政学☑ （１）人間を護る家政学☑ （２）福祉を護る家政学☑ （３）自然を護る家政学☑	復習をする。☑ 新聞などから生活に関する身近な諸問題を考える。	60
9	生活の学としての家政学	1 生活とは一生活のとらえ方☑ （１）人はなぜ着るのかー衣服がもつ意味☑ （２）なぜ食べるのかー食物がもつ意味☑ （３）なぜ住むのかー住まいがもつ意味（住むということ）	テキストp.50~p.56とp.83~p.90に目を通す。（読み込まなくともよい。）☑ 復習をする。☑ 課題レポートのテーマについて考え始める。	60
10	家族と生活（１）	1 家族とは何か☑ （１）家政学がみる家族☑ 2 家族の起源☑ （１）家族の基本的概念☑	テキストp.66~p.82に目を通す。（読み込まなくともよい。）☑ 復習をする。☑	60
11	家族と生活（２）	1 日本社会における家族の変遷と諸問題☑ （１）核家族の進行と少子化☑ （２）家族構成の変化と高齢者世帯の増加☑ （３）出生数の低下の問題☑ （４）家庭における今日の不安定要因☑ ☑	テキストp.66~p.82に目を通す。（読み込まなくともよい。）☑ 復習をする。☑ 課題レポートに取り掛かる。	60
12	家庭生活と社会生活（１）	1 生活のバランス☑ （１）ライフコースの多様化☑ （２）働くということ☑ （３）家庭内の仕事（家事）と社会的労働☑	ライフコースについて簡単に調べる。☑ 復習をしながら自分の将来について考える。☑ 課題レポート作成（途中）	60
13	家庭生活と社会生活（２）	1 ワーク・ライフ・バランス☑ （１）「仕事と生活の調和憲章」2007年 ☑ 2 仕事と家庭経営☑ （１）時間と空間☑ （２）経済的自立☑ （３）健康で豊かな生活（豊かさとは）☑ （４）多様な生き方・働き方	ワーク・ライフ・バランスについて調べる。☑ 復習をしながら自分の生活について展望する。☑ 課題レポート作成（途中）☑	60
14	家政学のこれから（１）	1 諸問題☑ （１）家事の外部化の問題☑ ・家庭における既製品利用の拡大と危険性について☑ （２）利便性と効率性に振り回される生活スタイル☑ 2 社会貢献・復興と家政学 ☑ 3 確認テストに向けての復習☑	テキスト第6章に目を通す（読み込まなくともよい）☑ 復習をする。☑ 課題レポートを仕上げる。	90
15	家政学のこれから（２）	1 sustainability(持続可能性)と家政学☑ 2 人間守護☑ 人間が生きているということ☑ 家政哲学へ☑ 3 全体のまとめ☑ 4 確認テストと解説☑	総復習をする。	120

科目名	家族関係学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択	
担当教員	知野 愛			
開講期	前期			
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を家族社会的視点から考察する。レポートを提出しそれに対してコメントをつけて返却しフィードバックを行う。☒ 位置付け・水準:HL2414, FN2403			
達成目標	達成目標は、8割以上の理解度をもってレポートを提出すること。☒ 単位認定の最低基準:内容の8割を理解していること。ディプロマ・ポリシーとの関係:HL 知識・理解、倫理観、社会的責任。FN 社会貢献、意識と責任感			
受講資格	人間生活学科(HL)・食物栄養学科(FN)4年生、文化学専攻科1年生他		成績評価 方法	レポート(80点)、授業提出物(20点)
教科書	特に指定しない			
参考書	木下謙治監修『家族社会学 基礎と応用』九州大学出版会 2019年他			
学生への要望	興味をもったキーワードを適宜検索などして調べることを勧める。			
オフィスタイム	(前期)水曜Ⅱ限、金曜Ⅱ限、(場所)地域創成学科研究室No.1(芸術館1階)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について社会的視点から考察する。	復習:関連資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回のテーマを検索し書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
2	家族とは何か	人間と家族、家族と世帯、家族構成、家族の変容について社会的視点から考察する。。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
3	家族の変動	家族変動論、産業化と家族変動の諸側面、家族変動の行方について社会的視点から考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
4	配偶者選択と結婚	配偶者の選択、結婚成立への過程、結婚について、社会的視点から考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
5	夫婦関係	夫婦関係に対する社会的視点、「家」制度と夫婦関係、近代家族と夫婦関係、夫婦の瀬戸関係と情緒関係、現代の夫婦関係について考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
6	親子関係	社会学から見た親子関係、家族周期と親子関係、ひとり親世帯・ステップファミリー、事実婚における親子関係について、社会的に考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
7	高齢者と家族	現代社会における高齢者、高齢者の家族構成、高齢者と家族の関係性、老親扶養と家族関係、老いと高齢者と家族をめぐって社会的に考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
8	結婚の多様化と家族	近代的な結婚、日本における近代的な結婚規範、企業社会と結婚、多様な結婚に向けて、社会的に考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
9	生殖補助医療と家族	生殖補助医療とは、諸問題、日本での状況、生殖補助医療をめぐる裁判事例他について社会的に考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
10	少子化と子育て環境	日本の少子化の状況、第二の少子化期の社会的動向、国の少子化対策、少子化の要因とその背景、「子ども・子育て支援新制度」と子育て環境の整備。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
11	青少年問題と家族	青少年の定義と最近の若者たち、青少年問題としての非行、非行少年と家族、青少年問題からみた現代家族、現在の状況と今後の課題について考える。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	高齢者介護の諸問題	高齢者介護の動向と家族の抱える諸問題、高齢者介護に対する家族社会学の問題関心、家族政策と高齢者介護、高齢期における配偶者喪失と家族について、社会学的視点から考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
13	虐待と家族	虐待とは何か、家族間の暴力虐待はなぜ起こるのか、虐待の背景と被虐待者・児が抱える諸問題などを社会学的視点から考える。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
14	レポート作成	授業で扱ったテーマの中から1つを選んでレポートを作成する。授業支援システムmocaに期限までに提出する。	復習:これまでの新聞記事切り抜きや、関連資料の情報などをレポートに取り入れる。 予習:関連書籍を読み更に理解を深める。	60
15	レポート講評・フィードバック	レポートの講評をする。提出レポートにコメントをつけてフィードバックする。	復習:レポートの内容を振り返る。関心を持った事柄に関する書籍を読む。	60

科目名	生活経営学Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	大泉 由美			
開講期	前期			
授業概要	本授業では、人と物の関わりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を護り、一層向上させるため様々な分野の学問研究をも駆使し、健全な生活を築くために多面的な考え方を学ぶ。☑「人間守護」の理念に基づく家庭（内部空間）と社会（外部空間）の調和ある生活は、価値観の多様化傾向が時間の経過とともに広がる現代社会には不可欠な課題である。そこで、生活経営の基本的要因である「人・物・財貨（金）・時間」を中心に家庭・社会の両空間の調和ある望ましい生活経営の在り方を考える。また、☑立高等学校での家庭科教員としての勤務経験を活かし、家庭科の授業で家族・家庭、消費生活分野における学校教育での意味と重要性、指導上の留意点などを踏まえながら理解を図るとともに、意見交換やプレゼンテーションも取り入れ、主体的な学びとして探究心を養いながら教員養成の一助として資質向上に資する。 ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 HL 2 2 1 5			
達成目標	単位認定の最低水準は内容の7割を理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力☑ ☑ 【履修カルテ】 ①内部空間と外部空間が密接不離であることが理解できる。☑ ②私たちは、組織の中にいることが理解できる。☑ ③家庭経済の仕組みが理解できる。			
受講資格	人間生活学科 2年生以上 職履修学生は必修	教	成績評価 方法	試験期間中に試験を実施（60％） 課題への取り組み・発表（40％）
教科書	必要に応じて資料を配付する。			
参考書	『新しい生活経営学』関口富左・関口修共著家政教育出版社 『家政哲学』関口富左編著 家政教育社 組織の中の人間行動』三村敏子他著 有斐閣 『人間と空間』O.Fボルノー著 大塚恵一訳 せりか書房 ☑ その他適宜授業中に紹介する。			
学生への要望	・新聞やニュースなどで情報を収集を収取しながら、社会の状況に興味・関心を持ってください。☑ ・多くの生活体験を通し、「よりよい生活」実現のために行動できるよう、積極的に授業に臨むんでください。			
オフィスタイム	月曜日Ⅳ限・火曜日Ⅱ限☑（創学館4階No.3研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 担当：深谷、大泉	・授業の概要と進め方の説明	シラバスを読んでおくこと。「生活」と「経営」の言葉の意味を調べておくこと。	30
2	人間の生活する空間	・ニュースの発表 ☒ ・人間が生活するためには家庭(内部空間)と社会(外部空間)は密接不離な関係にあること、両者の関係が如何に重要な関係にあるかを理解するとともに、両者の均衡を保つために必要なことは何かを意見交換する。	講義資料の予習をしておくこと。講義内容の復習をする。	60
3	組織体①	・ニュースの発表 ・組織体とは何か。歴史的経過を踏まえ理解する。 ☒	組織とは何かについて予め調べておくこと。 講義内容の復習をする。	60
4	組織体②	・ニュースの発表 ☒ ・組織体の管理・運営方法、その基本的な要因を内部空間の健全なる発展に活用することを前提として、組織体の管理・運営を学び、併せて外部空間の組織的構成についてもその意義を考える。	一般企業や学校等の組織図を調べておくこと。講義資料の復習をする。	60
5	組織体③ ☒	・ニュースの発表。 ・組織体の管理・運営の方法を具体的に学習し、生活への活用について理解を深める。 ☒	組織に関するニュースを調べておくこと。第2～5回まで講義内容の理解度を確認するためレポートを提出する。	60
6	計画	・ニュースの発表 ・計画とは何かを具体的に知ることは家庭（内部空間）の安定確保と更なる発展を図るためにも不可欠である。 ☒ 画の基本的な内容(意義)について学び、計画の中には長期計画と短期計画があることを理解する。 ☒	計画と予定の違いを調べておくこと。講義内容の復習をする。	60
7	計画の限界	・ニュースの発表 ・ここでは計画の限界を知り、如何にして計画を是正するかを考えると共に計画を内部空間の管理・運営に活用するかについて意見交換をおこなう。	なぜ情報を持っていることが大切なのかを考えておくこと。講義内容の復習をする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	統制	・ ニュースの発表 ・ 人間は常に何らかの自己統制(管理)を行い周囲の人々との調和を図りつつ生活をしているが、組織体の健全な運営のためには意識的(規則・規程)に統制(管理)を行わなければならない。内部空間にあっても理性的な自己規制をはじめとして約束事(規則・規程)がある。人間が集団化し何らかの行為を行うには統制を図ることが必要であることを理解する。	統制とは、どのようなものか調べておくこと。講義内容について復習する。	60
9	経営の要因	・ ニュースの発表 ・ 経営の要因である「人・物・財貨（金）・時間」について統制の在り方を項目別及び総合的に学ぶ。☑	第6～9回まで講義内容の理解度を確認するためレポートを提出する。	120
10	指導・リーダーシップ	・ ニュースの発表☑ ・ 生活に必要な指導とは、リーダーシップとは何かということ学ぶ。現代社会での指導的役割を果たすリーダーの重要性について考える。講義内容を踏まえて自分が考える理想のリーダーについてプレゼンテーションをおこなう。	リーダーに必要な要素、影響力について考えをまとめておくこと。講義内容の復習をする。	60
11	人間と時間、生活と時間	・ ニュースの発表☑ ・ 私たちにとって、時間は何物にもかえがたいほどの関わりがあるが、それにもかかわらず重要視されていないのは何故か。人間と時間、生活と時間について考える。生活時間調査から考える生活の課題について意見交換をおこなう。	配布されたプリントに生活時間調査をおこなってくること。講義内容を復習する。	60
12	家庭経済	・ ニュースの発表☑ ・ 家庭経済と経済社会、家庭経済に影響を及ぼす経済動向について理解を深める。	経済に関するニュースを調べておくこと。講義内容の復習をすること。	60
13	家計の構成・家計簿	・ ニュースの発表 ・ 生活経営と家計、家計の構造（収入・支出・貯蓄）、家計の個別化について理解する。ライフステージに合わせて家計の課題も変わっていくことを理解する。	総務省『家計調査』データの資料を基に、家計の変化について考えておくこと。講義内容の復習をする。	60
14	消費者の権利と責任	・ ニュースの発表☑ ・ 現代の消費生活や消費問題に理解を深める。☑ ・ 経済の高度成長と大量消費生活、「消費者」の登場と消費者保護、消費のサービス化と情報革命等について学び、生活者としてよりよい生活の在り方を考える。消費者を取り巻く問題を取り上げ（新聞記事等）、意見交換をおこなう。	消費生活に関するニュースを調べておくこと。講義内容の復習をする。	60
15	まとめ	・ ニュースの発表 ・ 講義内容の総括☑	講義内容をまとめ、定期試験に備える。	60

科目名	消費生活論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択	
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。☑ また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。☑ なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方・活用の仕方、法律と行政組織について採り上げていく。☑ 【実務経歴】☑ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☑ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☑ 小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☑ 【位置づけ・水準】 DS2324			
達成目標	【単位認定の最低基準】 ☑ 下記①～③の目標の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☑ ①消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。☑ ☑ ②日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。☑ ③政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。☑ ☑ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース、建築デザインコース 3年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回）☑ ②課題（消費者問題に関するレポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	ハンドブック消費者2014（消費者庁企画課）他			
学生への要望	現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。☑ ①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。☑ ②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。			
オフィスタイム	火曜日 3コマ 水曜日 4コマ☑ 食品経営学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）☑、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。☑ ☑	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
3	消費者行政の変遷①	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関 ～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
4	消費者行政の変遷②	前回に続いて、消費者庁、国民生活センター、消費生活センターの役割について動画教材の視聴等も通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
5	消費者の権利と責任①	消費者基本法、消費者の権利と責任☑消費者保護の概念について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
6	消費者の権利と責任②	前回に続いて、消費者基本法、消費者の権利と責任☑消費者保護の概念について動画教材の視聴なども通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
7	自立した消費者を目指して①契約とは	契約の意味、☑成年者契約☑契約に関するトラブルについて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
8	自立した消費者を目指して②経済	消費者契約法☑特定商取引法について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
9	自立した消費者を目指して③食	食品の安全・安心☑新しい食品表示制度について学修する。☑ ☑	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
10	自立した消費者を目指して④生活用品	消費生活用製品安全法について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	消費生活と環境～循環型社会のための法制度①	持続可能な社会の構築と法律☑グリーンコンシューマーの概念、☒続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
12	消費生活と環境～循環型社会のための法制度②	持続可能な社会の構築と法律☑グリーンコンシューマーの概念、☒続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。（前回の続き）	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
13	消費者教育・啓発活動	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。☑	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。	60
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、過去問等にチャレンジする。 小テスト（2回目） ☑	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

科目名	社会調査法	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	後期			
授業概要	社会調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標としたい。☒ なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】 HL2317			
達成目標	【単位認定の最低基準】 社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。このためこれら内容の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☒ ☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	家政学部 生活科学科 3年生☒ 短期大学部 専攻科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回）☒ ②課題（レポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
オフィスタイム	火曜日 2コマ 金曜日4コマ☒ 食品経営学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。☑ 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。☑	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	調査報告とデータの管理 (パソコンを用いての実習)	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。 このため実際にパソコンを用いてデータの加工、管理について実習形式で授業を行う。	実習に備えてこれまでの学修内容を確認すること。また授業内で終わらなかった課題については自宅学修で引き続き取り組むこと。	60
15	社会調査の倫理について 学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト (2回目)	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

科目名	保育学	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択	
担当教員	岡本 宏二			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。☒ 〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。☒ 〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。☒ 【履修カルテの評価項目】☒ ①子どもたちの発達や育児について、医学的・生物学的に理解するができたか。☒ ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。☒ ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。☒ 〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。☒ 〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。☒ 【履修カルテの評価項目】☒ ①子どもたちの発達や育児について、医学的・生物学的に理解するができたか。☒ ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。☒ ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。			
受講資格	教職（中学・家庭科）履修者及び上記対象学生。		成績評価 方法	①平常点（授業態度）30%、②途中課題（小レポート）30%、③試験40%、①～③の総合評価60点以上で合格とする。
教科書	指定なし。授業毎に資料配布。			
参考書	南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名☒ 三恵社『初めて学ぶ保育学入門』著：保育学入門編集委員会			
学生への要望	遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。			
オフィスタイム	授業開始前：教室☒ 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。☒		0
2	保育を考える	1）未熟な状態で生まれるヒト☒ ※保育の必要性を他の動物の生誕と比較して考える。		0
3	保育を考える	1）文化の中の人間☒ ※ヒトは文化的環境の中で成長していくことを野生児の事例から学ぶ。		0
4	子どもの発達①	1）母体の健康管理と子どもの誕生 ☒ 2）乳幼児の生理機能☒ ※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。☒ 3）子どもの心身の発達☒ ※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。☒		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	子どもの発達②	1) 子どもの成長課程における愛着と自律について☑ 2) 親（父親・母親）のかかわりと保育責任と役割☑ ※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。☑ 3) 子どもの言語・知能の発達☑ ※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。☑		0
6	子どもの発達③	1) 子どもの運動について☑ ※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故により戸外で活動が制限されたことによって引き起こされた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動について考えていく。☑ 2) 子どもの睡眠と成長について☑ ※子どもの心とからだの基本的健康づくりについて、休養面からアプローチして考えていく。とくに、近年の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、また、対策などについて学習する。睡眠の必要性について、研究事例を取り上げて解説する。		0
7	子どもの発達④	1) 子どもの発達課題の理解☑ ※子どもの発達を理解し、同時に発達に伴う課題について学ぶ。		0
8	子どもの心とからだについて①	1) 子どもの病気と対処法☑ ※子どもの主な病気と、家庭における子どもの症状に対する対処法を学ぶ。		0
9	子どもの心とからだについて②	1) 子どもを取り巻く環境について☑ ※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。☑ 2) 保育体験学習の事前指導。☑ ※子どもを観察して、子どもについて身近に考えて見ましょう。		0
10	保育体験学習	1) 「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深める。☑		0
11	日本の幼稚園の始まり	東京女子師範学校付属幼稚園について知る。		0
12	日本の保育の始まり	倉橋惣三の保育論を学ぶ。		0
13	保育所の始まり	子守学校について知る。		0
14	子どもとのかかわり	1) 子どもの遊びについて☑ ※子どもの遊びを通して、発達にあわせた遊びとはどのようなものか考えていく。1) 子どものタイプと対応方法について☑ ※近年研究が進められている子どものタイプについて理解を深め、対応方法などを検討する。1) 保育実習☑ ※保育体験学習を通して、子どもについて理解を深める。		0
15	子育て支援と様々なタイプについて、保育学のまとめ	1) 児童福祉について☑ 2) 子育て支援について☑ ※近年の日本の実態や今後の課題について考えていく。☑ 3) これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。		0

科目名	被服管理学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	大泉 由美			
開講期	後期			
授業概要	被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす、☒ また、私立高等学校での家庭科教員としての勤務経験を活かし、衣生活分野における学校教育での意味と重要性、指導上の留意点などを踏まえながら理解を図るとともに、ディスカッションや市場調査も取り入れ、主体的な学びとして探究心を養いながら教員養成の一助として資質向上に資する。☒ ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2232			
達成目標	①被服の役割を理解するとともに快適な衣生活が営める。 ☒ ②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。 ☒ ③家庭教育における衣生活分野の学びの重要性を理解し、快適な衣生活のための被服管理の方法について理解している。☒ 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度7割以上であること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考			
受講資格	教職履修学生は必修	成績評価 方法	①課題レポート/課題への取り組み：30点☒ ②発表への取り組み：30点 ③期末レポート：40点	
教科書	配布プリント			
参考書	『被服管理学』朝倉書店、「衣服管理の科学」片山倫子編（建帛社、平成14年）、「改訂衣生活論 装いを科学する」（アイ・ケイ・コーポレーション2008）			
学生への要望	日常の衣生活を問題意識をもって見つめるとともに、課題を把握し探究心をもって取り組んでください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ・Ⅱ限（創学館No.3研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。	30
2	衣服の起源と変遷	人類にとって「衣・食・住」は生命維持のための三大要素であるが、衣生活の始まりとその役割について考察する。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
3	心地よく「着て装う」	なぜ、着るのか、被服を着る目的やTPOに合った着方について考えるとともに、着こなす、個性を生かすとは、どういうことだろうか、考えるとともにディスカッションを行う。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 自分の考えをまとめるとともに、ディスカッションの内容についてまとめる。 ワークシートの整理	30
4	購入方法に関する事例研究	被服に関する法規制である「家庭用品品質表示法」、JISや自主規制などについて理解する。各個人の被服購入経験の失敗事例を発表する。事例を問題点別にまとめ、購入時における課題をまとめる。☑料の計画的な購入、購入時のチェックポイント、消費者の義務と権利、消費者苦情の重要性を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
5	安全で健康的な衣生活のために ～ユニバーサルデザイン～	失敗事例の中から、衣服の安全性の問題について考えるとともに健康的な衣生活のために留意すべき点について、グループごとにまとめ発表する。防止・予防方法を確認する。またユニバーサルデザインについても理解を深める。☑	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
6	被服の汚れ	着用による被服に付着する汚れの種類と成分、付着のしかたを繊維の性質との関係から学ぶとともに汚れの種類について考え、分類し理解を深め合う。また、汚れが人体と繊維に及ぼす影響を考える。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
7	被服の洗浄 ～家庭洗濯とドライクリーニング～	洗浄によって取り除くために用いられる洗浄剤、特に界面活性剤の働きについて理解を深めるとともに、家庭洗濯とドライクリーニングによる汚れ除去メカニズムの違いを知り、それぞれのメリット・デメリットを確認する。失敗事例から失敗しない洗濯手入れ方法を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
8	洗剤の科学	洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史の変遷を学ぶ。☑	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	しみ抜きと漂白	しみは、衣服に付着すると美観を損なうだけでなく、長期間放置しておくとも虫害やばい害をこうむり繊維が損傷する。しみ抜きの原理と方法について理解を深める。また黄ばみ、黒ずみなどの対応としての漂白について理解する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
10	被服の手入れ	洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史の変遷を学ぶ。☒	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅に保管されている洗剤など被服の手入れに関する家庭用品について調査する。次回発表する。	60
11	仕上げ剤の種類と特徴	洗濯後、繊維をおろし立ての状態に保つために様々な商品が市販されている。代表的なものは漂白剤、柔軟剤、糊剤等である。これらの製品の成分、種類、使用方法を実物を手にしながら学ぶ。☒ ①漂白剤：種類と特徴、漂白のメカニズム、使用方法、蛍光増白との違い、しみぬきの原理と方法☒ ②柔軟剤：種類と特徴、効果・機能（柔軟効果、静電気防止、香りなど）の変化、使用方法☒ ③洗濯糊：種類と特徴、使用方法	配布資料を参考としながら、講義内容をまとめ、理解を深める。 各自市場調査をおこなう結果についてまとめ、発表用とする。	30
12	被服の保管	保管の目的、保管中の衣料の性能変化の原因、防虫・防かび、抗菌のための保管用具、防虫剤、乾燥剤などの種類と性能などを学び効果的な保管方法について理解する。さらに、市場調査により理解を深める。	配布資料を参考としながら、各自市場調査をおこない結果についてまとめ、次回発表用とする。	60
13	衣生活の課題を把握と快適な被服の管理	自分自身の衣類がどの程度あるのか、管理方法に課題はなかったか、計画的購入のあり方と死蔵品の把握とその対応はどうすべきか。また、日頃の被服の保管方法や手入れ等における課題をあげて望ましい被服管理のあり方についてディスカッションし、自分の考えをまとめる。期末レポートの課題を提示する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自分自身の被服管理の現状について見つめるとともに課題を捉えディスカッションする。期末レポート対応。	120
14	被服管理の事例研究	衣類の望ましい管理について学ぶ。 自分の家庭生活における課題を各自が発表し、問題点や課題、着用時・手入れ・保管時の問題点を抽出し、望ましい被服管理についてまとめる。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。前時でまとめた内容を各自が発表し、課題を共有し合うとともに望ましい被服管理のあり方についてまとめる。期末レポート対応。	120
15	総括・まとめ	本講義のまとめを行う。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。確認テスト	30

科目名	衣造形学演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	瀬谷 真理子		
開講期	前期		
授業概要	[授業の目的・ねらい] ☑ 立体構成（洋裁）学を基に、衣服の成り立ちについての理解を深める。また、パターンの活用方法を習得することにより、体型と構成の関連性を理解し、着心地の良い作品を作る。製作実習により衣生活の重要性を学ぶとともに快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、基礎的技術の習得のために作品製作（基礎縫い、ブラウス）をとおして実践力向上を目指すとともに、教科指導としての在り方についても理解を深め、基本から応用までの技術修得を目指す。 また、中学校「技術・家庭」家庭分野の被服製作としても活用されるアウターパンツについて、前半での学びの応用として主体的に製作実習する。ワークシートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 [授業全体の内容の概要] ☑ 基本的な被服製作実習を通し技術の修得と定着を図るとともに、教員としての資質を育むため選択製作実習を取り入れ主体的に製作できる力を養う。 [実務経歴] 福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HL2233		
達成目標	①体の機能や形態を理解するとともに立体構成（洋裁）とは何かを理解できる。☑ ②家庭科教育における衣生活分野を学ぶ意味について理解し、製作実習に必要な力を養う。☑ ③基本的な洋裁技術を修得するとともに、教科指導上の課題について理解し実践力を養う。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	上記対象学生、教職履修学生	成績評価 方法	①授業への意欲・態度 10%、②課題：部分作品（パターン、袖、衿等）20%、③完成作品（基礎縫い、ブラウス製作、選択製作）60%、④課題（評価票等）10% として、①から④までの総合評価により60%以上を合格とする。
教科書	自作テキスト配付、プリント配付。		
参考書	文部科学省後援：全国高等学校家庭科被服製作技術検定指導要項、「ファッション造形基礎」「パターン・裁断・縫い方の基礎の基礎」文化出版局、文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座「ブラウス・ワンピース」文化出版局		
学生への要望	1. 主体的・意欲的に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え、完了できるように心掛けること。		
オフィスタイム	家政学館 4 F 被服学研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	オリエンテーション 1) 被服製作に必要な実習用具について理解する。 2) 衣生活における製作の意味を考える。	シラバスを確認し演習内容を理解する	20
2	実習内容と留意事項について	1) 実習計画の提示☑ 2) 体型と立体構成について☑ 3) 被服製作の基本	シラバスを確認し演習内容を理解する ワークシートの整理	30
3	被服製作における基本	1) 洋裁の基礎知識☑ 2) 基本的技術の確認と定着 3) 基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
4	被服製作における基本	1) 洋裁の基礎知識☑ 2) 基本的技術の確認と定着 3) 基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
5	被服製作	1) パターンの記号を学ぶ☑ 2) パターンの利用の仕方と指導上の留意点を学ぶ	ワークシートの整理	30
6	ブラウスパターン作図	1) ブラウスのパターンを選定 ☑ 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出☑ 3) 使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ	パターンの展開方法を理解する	30
7	ブラウス製作①ー基本を学ぶー	1) パターン修正 ☑ 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ☑	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30
8	ブラウス製作②ー基本を学ぶー	1) 本縫い☑ 2) 縫い代始末方法を学ぶ。a、ジグザグミシンの方法。 b、ロックミシン c、端ミシン☑ 3) 接着芯の理解と取り扱いを学ぶ	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	ブラウス製作③	ロックミシンの必要な個所を確認する。ロックミシンの使い方を学ぶ。ロックミシンを活用して縫いしろ始末を行う。※安全面に留意して、布地の扱いに配慮しながらロックミシンをかける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
10	ブラウス製作④	身頃本縫い まち針の打ち方、髷のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。☒身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
11	ブラウス製作⑤	身頃本縫い まち針の打ち方、髷のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。ポケットを作り、身ごろにポケットをつける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
12	ブラウス製作⑥	表衿と裏衿の特徴を理解し、確認を行い、衿づくりを実施する。角衿の場合のきれいな角の出し方について、実技により学ぶ。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する 衿について提出できるように準備する	30
13	ブラウス製作⑦	デザインを生かした技法について学び、実践する。身ごろのヨークと肩、後ろ身ごろにタック寄せ、ギャザー寄せ等の手法を理解して身ごろの構成を考えながら製作する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
14	ブラウス製作⑧	衿と身ごろとの関係を理解して、きれいにつけて仕上げるための方法について学ぶ。待ち針の役割を理解し、待ち針の打ち方を実践できるようにする。バランスを考えながら身ごろに衿がつけられるようにする。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
15	ブラウス製作⑨	バイアステープの役割について学び、衿付け縫い代始末の方法として扱い方を理解する。衿付け縫い代の始末をする。切り込みの必要性について理解し、きれいな仕上げに向けて実践する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
16	ブラウス製作⑩	袖付けを行う。左右の確認と身ごろとの関係に留意して立体的に仕上げることの構成上のポイントを学び、袖をつける。袖下脇縫いを行う。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
17	ブラウス製作⑪	見返しと裾の始末を行い、仕上げを行う。 ミシンによるボタンホール製作、ボタン穴の開け方を学ぶ。☒	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
18	ブラウス製作⑫ー相互評価ー	1) 仕上げ 2) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 3) 自己評価票を作成して提出	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
19	選択製作ーアウターパンツ①	1) 製作計画の作成 2) デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
20	選択製作ーアウターパンツ②	1) 製作計画の作成 2) デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
21	選択製作ーアウターパンツ③	1) 製作計画の作成 2) 裁断	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
22	選択製作ーアウターパンツ④	縫い代始末、しるしつけ☒	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
23	選択製作ーアウターパンツ⑤	1) 縫い代始末、しるしつけ☒ 2) ポケット付け	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
24	選択製作ーアウターパンツ⑥	脇縫い、また下縫い、また上縫い	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
25	選択製作ーアウターパンツ⑦	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
26	選択製作ーアウターパンツ⑧	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
27	選択製作ーアウターパンツ⑨	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
28	選択製作ーアウターパンツ⑩	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
29	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出☒ ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出☒ ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60

科目名	食品栄養学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	郡司 尚子			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的、ねらい〕 ☒ ヒトが身体を維持して生命活動を営んでいくために必要とされる栄養素(糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル)の基礎を学び、日常生活を送るうえで気を付けるべきことを知ることを目的とする。☒ 〔授業全体の内容の概要〕 ☒ 栄養素の基本的知識と共に、栄養摂取時の過剰症、欠乏症などについても学ぶ。食物の代謝(体内での分解・合成)や各栄養素を豊富に含む食品などについても学ぶ。☒ 〔課題(試験やレポート等のフィードバック)〕 ☒ レポートの提出後、コメントしてフィードバックを行います。☒ 〔位置づけ・水準〕 ☒ HL2235			
達成目標	〔達成目標〕 ☒ 食品に関わる「栄養」「栄養の欠乏症、過剰症」「食物の代謝」などを理解することで、食品や食材を購入する際や献立作成、調理時に、用途に合わせた食品を用いることができる技術を養えることを達成目標とする。☒ 〔単位認定の最低基準〕 ☒ 内容の6割を理解していること。☒ 〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕 ☒ 1)知識・理解 2)問題解決力			
受講資格	家政学部 人間生活学科	成績評価 方法	定期試験の結果(60%)☒ 発表・レポート(40%)	
教科書	栄養の基本がわかる図解事典 成美堂出版 監修：中村丁次 1,540円 (2020.4.1発行)			
参考書	八訂食品成分表2021 (女子栄養大学出版部)			
学生への要望	食品や栄養に関する書籍や記事にも興味を持って目を通すようにしてください。			
オフィスタイム	水曜日の4コマ(No.2食品学研究室)☒ 木曜日の2コマ(No.2食品学研究室)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康・栄養の新事情	シラバスで本授業のガイダンスを行う。 最新データから見る、健康・栄養の現状について説明する。 また、授業最終日の課題発表について説明を行う。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
2	栄養の概念	栄養素・栄養について、栄養素の種類と働き、食事摂取基準、バランス献立の基本型、栄養と病気のかかわりなどについて説明する。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
3	活動と栄養 ～身体活動とエネルギー～	エネルギー出納、基礎代謝、摂取エネルギー、スポーツと栄養について説明する。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
4	栄養素の基礎知識 【炭水化物】	炭水化物の特徴・生理作用・過剰・炭水化物を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
5	栄養素の基礎知識 【脂質】	脂質の特徴・生理作用・過剰、不足・脂質を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。また、脂肪酸の種類についても学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
6	栄養素の基礎知識 【たんぱく質】	たんぱく質の特徴・種類・生理作用・過剰、不足・たんぱく質を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。また、アミノ酸についても学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
7	栄養素の基礎知識 【ビタミン①】	脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンの違い、脂溶性ビタミンの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・脂溶性ビタミンを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
8	栄養素の基礎知識 【ビタミン②】	水溶性ビタミンの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・水溶性ビタミンを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
9	栄養素の基礎知識 【ミネラル①】	多量元素ミネラルと微量元素ミネラルの違い、多量元素ミネラルの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・多量元素ミネラルを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
10	栄養素の基礎知識 【ミネラル②】	微量元素ミネラルの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・微量元素ミネラルを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	機能性成分について	食品が持つ機能性について、保健機能食品について説明後、健康を守る注目の成分(フラボノイド、ポリフェノール、オリゴ糖、乳酸菌など)について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
12	代謝のしくみ	食欲の仕組みを理解し、食物が体内でどのように消化、吸収、代謝、排せつされていくかを学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 発表課題のまとめ。	60
13	病状別の栄養①	食べる食品の種類、食べ方などによって引き起こされる疾病(肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症、サルコペニアなど)について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 発表課題のまとめ。	60
14	病状別の栄養②	食べる食品の種類、食べ方などによって引き起こされる疾病(肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症、サルコペニアなど)について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 発表課題のまとめ。	60
15	まとめ	本授業で学んだものの中から、特に自分で興味を持ったことについて、一人5分程度でパワーポイントを使用して発表する。発表原稿をプリントして提出する。	講義内容の振り返りとテスト内容の確認を行う。	60

科目名	調理学演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択	
担当教員	瀬谷 真理子,大泉 由美			
開講期	前期			
授業概要	調理の基本的な知識と技術を修得するために、家庭科教育における調理実習の献立をふまえ、代表的な料理（日本料理、西洋料理、中国料理）を演習することにより、教科指導において必要な実践力を高める。下ごしらえから盛り付けまでの流れを計画し、一人一人が個別に実践することにより、着実な技術を身につけていく。演習を通じて、調理学の基本的な知識と技術を修得するとともに食材の栄養価や色・形・味などの調理による変化とその理由を五感で理解しながら探究的な視野を大切にレポートを作成する。また、人々の暮らしにおける食生活を意識した状態別献立を取り入れ、日常食や行事食等、伝統的な食文化も大切にしながら調理における技術としての実践力を高め、自宅での実践により、調理に関する応用力を身につける。☑レポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 また、高等学校の家庭科や中学校の家庭科において、教える立場からの指導方法を含めながら実践することにより、基本的知識と技術の定着を図り、家庭科教員としての資質を身につける。さらに福島県高等学校の家庭科教育における実務経験を生かしながら実践的な教科指導に向けた応用力を養う。 実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HL2336☑ ☑ ☑ ☑ ☑			
達成目標	中学・高校の家庭科教員としての指導力や家庭での調理を実践するための基本的な知識や技術を修得することを目標とする。☑ ①野菜・果物、魚・肉などの食材に適した調理技術を修得し、指導することができる。☑ ②和洋中華料理の基本を修得し指導することができるとともに、調理上必須となる食品衛生、環境負荷削減の知識を修得し、行動できる。☑ ③日常的な献立から状態別献立、行事食までの調理について、基礎的な知識技術を習得し、実践できる。 単位認定の最低基準は、上記の①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力☑ 位置付け・水準 HU2336 ☑			
受講資格	上記対象学生、教職履修者は必修		成績評価 方法	①授業態度：20％、②実技：40％、③レポート：40％とし、①から③の総合評価により60％以上で合格とする。
教科書	「基礎から学ぶ調理実習」オーム社 ☑ プリント配布			
参考書	「フードデザイン」教育図書、家庭科教育振興会 全国高等学校家庭科技術検定実施要項			
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学演習の一環と考え、積極的に取り組むこと。☑ また、豊かな食生活は家族団楽を営む基礎となることを理解し、実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。			
オフィスタイム	被服学研究室（家政学館4階）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／食材の下ごしらえ・切り方など	シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。☑	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。	30
2	ガイダンス（1） 実習室・調理器具について・授業の進め方や評価方法	調理実習室の使い方、調理器具の使い方、洗い方、手入れ等について基本を学ぶ。使用していく教科書を用いて、調理の基本、調理実習時の衛生管理について理解させる。食することの意味について考え、ディスカッションする。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする、ワークシートの作成を行う。	30
3	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①	【文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
4	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①	【文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☑ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理☑ ②炊き込み飯の種類と作り方☑ ③だしの取り方☑ ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い☑	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
6	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☑ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理☑ ②炊き込み飯の種類と作り方☑ ③だしの取り方☑ ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い☑	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
7	西洋料理② 西洋料理の基本	【コンソメジュリアン、グラタン、グリーンサラダ、ブラマンジェ】 代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
8	西洋料理② 西洋料理の基本	【コンソメジュリアン、グラタン、グリーンサラダ、ブラマンジェ】 代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
9	日本料理② 丼物、和え物、澄まし汁の基本	【そばろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】 日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そばろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
10	日本料理② 丼物、和え物、澄まし汁の基本	【そばろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】 日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そばろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
11	中国料理①	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴☑ ②寒天の扱い方☑ ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
12	中国料理①	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴☑ ②寒天の扱い方☑ ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方によって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】 日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
14	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】 日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
15	状態別献立① ～高齢者向け和風献立～	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。 【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】 ①炊き込みご飯のつくり方 ②各食材の扱い ③しんじょの扱い ④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
16	状態別献立① ～高齢者向け和風献立～	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。 【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】 ①炊き込みご飯のつくり方 ②各食材の扱い ③しんじょの扱い ④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
17	状態別献立② ～子供向け洋風献立～	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。 【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】 ①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。 ②クリーム煮の基本を理解する。 ③トマトの扱い方を理解する。 ④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
18	状態別献立② ～子供向け洋風献立～	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。 【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】 ①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。 ②クリーム煮の基本を理解する。 ③トマトの扱い方を理解する。 ④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
19	状態別献立③ ～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。 【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】 ①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	状態別献立③ ～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】 ①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
21	中国料理③	【古肉、涼拌海蜇、粟米湯】 日本で好まれる中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
22	中国料理③	【古肉、涼拌海蜇、粟米湯】 日本で好まれる中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
23	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
24	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
25	行事食① 誕生日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
26	行事食① 誕生日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
27	行事食② 七夕祭りの献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	行事食② 七夕祭りの献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
29	行事食③ 敬老の日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぶら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60
30	行事食③ 敬老の日の献立	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぶら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60

科目名	建築計画Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	前期			
授業概要	建築計画Ⅰの授業で習得した建築計画の基本手法に基づき、大規模建築物における建築計画の特徴、最低限知っておかなければならない計画方法を理解することを目的とします。ここでは、建築計画Ⅰに引き続き、劇場・事務所・病院・商業施設等について学びます。☒ 第6回、第14回の課題は授業内で講評して返却し、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準：HA2202			
達成目標	①各種施設で必要な設計計画上の重要な要素を理解できたか。☒ ②スケール感を身につけ、各種施設に必要な大きさや長さなどを理解することができたか。☒ ③計画上のポイントを大学校舎や商業施設などの実際の建物で確認し、問題点を抽出することができたか。☒ 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。☒ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験80％、提出課題20％	
教科書	図説やさしい建築計画 学芸出版社			
参考書	コンパクト建築設計資料集成 日本建築学会			
学生への要望	本授業は、建築設計製図Ⅱの課題で取りあげる建物について学修するため、両者を関連づけて受講すること。☒ また、空き時間や休日を利用して授業内で取り上げた各種施設に実際に訪れることを強く勧める。☒ 講義で得た知識と建物の実際の状況（計画）を照らし合わせてみることで、問題点や改善点を把握すること。			
オフィスタイム	月曜日8：50～10：20☒ 水曜日14：30～16：00☒ 本館1F No.2 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	建築計画を学ぶ重要性と住まいには精神面と物理面それぞれの役割があることを理解します。	建築計画Ⅰで学修した内容を見返し、章末問題に取り組んで、住宅や学校などの基本的な計画とスケールを習得します。	60
2	劇場の計画1	劇場の構成やゾーニング、分類を学修し、具体的な実例を基に劇場設計の基本を学びます。	身近な劇場を訪れ、建築計画や空間の特徴を感じ取ります。授業で学修した内容を復習し、ノート等でまとめ直します。	30
3	劇場の計画2	劇場計画に関する重要事項を整理し、巡回形式や採光・照明計画などを学修します。また、優れた劇場の実例から、設計意図や特徴を読み取ります。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
4	事務所の計画1	事務所を計画する際の基本的な事項について学び、人体モジュールにそった配置計画ができるよう学修します。	事務所の基本事項について復習します。	30
5	事務所の計画2	コアプランや机の配置計画など、事務所特有の計画留意事項を学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
6	計ってみよう1	大学内の講堂・図書館などを用いて、これまで学修した建築計画に沿った設計が行われているのか、実際に見て、計測することで判断し、改善点を考察します。	授業で使用した資料を見返し、大学施設を建築計画の視点から評価します。	30
7	ホテルの計画1	ホテルの構成やゾーニング、種類を学修し、具体的な実例を基にホテル設計の基本を学びます。	ホテルの基本事項について復習します。	30
8	ホテルの計画2	ホテルの構成やゾーニング、種類を学修し、具体的な実例を基にホテル設計の基本を学びます。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
9	病院・診療所の計画	病院や診療料所の構成や配置計画を学修し、使用者動線を加味した平面計画を行い病院ならではの計画上の留意事項を学びます。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
10	商業建築の計画	商業建築を計画する際の基本的な事項について学修し、人体モジュールにそった配置計画ができるよう学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
11	高齢者福祉施設の計画	高齢者福祉施設に関連する施設の種類や形態を学修し、高齢者に配慮した設計計画を行えるよう、バリアフリーやユニバーサルデザインについて学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	駐車場や各種施設	駐車場・駐輪場の計画を概要とスポーツ施設やコミュニティー施設、庁舎や空港など、特別な形態・機能を持つ建物について学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
13	高齢者・障がい者に配慮した建築計画	ノーマライゼーションの普及と展開の変遷を理解し、高齢者・障がい者に配慮した建築計画の要点を学修します。	授業で学修した内容を復習し、教科書の演習問題を解いて知識の定着を図ります。	60
14	計ってみよう2	大学内の教室・駐車場・駐輪場などを用いて、これまで学修した建築計画に沿った設計が行われているのか、実際に見て、計測することで判断し、改善点を考察します。	授業で使用した資料を見返し、大学施設を建築計画の視点から評価します。	30
15	まとめと建築士試験対策	建築計画Ⅱで学んだ内容について復習し、建築を設計する上で基本となるプランニングの重要性を再確認します。 また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築計画Ⅱの試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。	授業で配布する建築士試験対策問題に取り組み、定期試験の学修に繋がります。	90

科目名	建築史	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
担当教員	長田 城治		
開講期	前期		
授業概要	本授業は、日本ならびに世界の建築の歴史を原始から近代まで概観するものです。☒ 過去の名建築を様式や歴史から学ぶのではなく、名建築を正しく評価する力を身につけることを目的とします。そのためには、単に意匠や平面の遷り変わりという歴史的な変遷だけでなく、その建築が、誰が、どのように、何のために造りだされたのか、なぜその形や意匠が選ばれ、何を表現しようとしたのかなど、建築の背景にある事実を考えることが大切です。☒ 本授業は、建築の歴史を学ぶことで建築に対する視野を広げると共に、建築を考える上での基礎的なスキルを身につけることを目標とします。☒ また、実際の歴史的建造物を見学し、授業内で学修したことを確認し、自身の視点で建物を評価する能力を養います。☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行い、発表課題については、第11回と第15回の授業内で改善点などを示します。☒ ☒ 位置づけ・水準：HA2203		
達成目標	①日本建築と西洋建築の時代ごとの特徴的な建物について年代順に時系列で捉えることが出来たか。☒ ②建物の変化の要因を当時の時代背景や社会構造などと共に理解することができたか。☒ ③建築の見方を学修し、自身の基準で建物を評価することが出来るようになったか。☒ 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解し、代表的な建物とその建築様式の年代を把握すること。☒ ☒ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任		
受講資格	家政学部人間生活学科建築デザインコース2年	成績評価 方法	①授業中に出题する小課題（20％）☒ ②見学会レポート（30％）☒ ③プレゼン（50％）☒ を総合して評価する。レポートおよびプレゼン発表の条件・評価基準を出題時に説明するので、十分理解の上で提出すること。
教科書	特になし☒ 必要に応じてプリントを配布		
参考書	『カラー版図説建築の歴史』西田雅嗣他著、学芸出版社		
学生への要望	授業で紹介した建築を現地に赴いて見学し、その空間を体験することをすすめると共に、足を運ぶ積極性を求めます。現地で感じた自身の感性に基づき、建物の評価を行う習慣を身につけましょう。☒ また、授業後は授業内で取り上げた時代を代表する建物について自身で調べ、日本および西洋の代表的な建築物を時系列に沿ってノートなどにまとめてください。		
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20☒ 木曜日8:50～10:20☒ 本館1F No.2 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	建築史を学ぶ意義について述べます。☒	授業内容の復習 日本の古い建築を調べる	60
2	原始住居と環濠集落	原始時代の住居についてユカとドマに注目して住生活の特徴を学びます。	授業テキストで復習	60
3	古代住居とその変容	貴族の住宅である寝殿造と平安京から当時の住宅様式を学び、公私の空間の捉え方や住まい方における現代との相違を考えます。	授業テキストで復習	60
4	中世住居のオモテとオク	中世に初めて導入されたオモテとオクの考え方について、座敷飾りや書院造の定型化と考え合わせて学習します。	授業テキストで復習	60
5	近世住居と地域色	書院造と相反する数寄屋造の建物について、当時の「数寄」という感性と共に理解します。また、庶民住宅である民家や町家の特徴とその地域色について、気候・風土だけでなく、当時の社会背景を踏まえて学びます。	授業テキストで復習	60
6	社寺建築のウチとソト	神社建築と寺院建築の違いを理解し、内部空間と外部空間に分けて、様式の特徴と様式が導入された背景を学習します。	授業テキストで復習	60
7	政務の空間、遊びの空間	日本独自の建築である城郭と茶室について、形成された理由や進化の過程を利用者の使い方の視点から学びます。	授業テキストで復習	60
8	近代建築の発展にみる和風と洋風	日本における近代建築の特徴を各種代表的な建物を基に学習します。また、近代和風住宅やモダニズム建築などを工業化の視点から学びます。	授業テキストで復習	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	歴史的建造物見学	歴史的建造物を実際に見学して建物の特徴を把握し、地域や年代・設計者などの背景を考察してレポートを提出します。	見学会レポート作成	120
10	古代（エジプト・ギリシャ）建築の普遍性	エジプト建築の特徴と後世への影響について解説します。ギリシャ建築のオーダーやバルテノンの黄金比・曲線の多用・バランス等の普遍的な美について学びます。また、アゴラの計画から西洋人の都市における公空間の考え方について学びます。	授業テキストで復習	60
11	古代（ローマ）建築、中世（ビザンチン）建築とキリスト教	ローマ建築の規模・構造およびギリシャ建築との比較やキリスト教建築との関連も同時に学習します。ビザンチン建築の特徴を、東西ローマ帝国の成り立ちやカトリック、ギリシャ正教と関連付けて解説します。また、第9回で提出した課題のフィードバックを行います。	授業テキストで復習	60
12	中世（ロマネスク・ゴシック）建築の構造美	ロマネスク建築とゴシック建築の特徴を両者を比較しながら解説します。また、この頃から国の特徴や国民性が建築形態に影響してきたことを学習します。 【プレゼン課題発表】	授業テキストで復習 プレゼンテーション作成	120
13	近世（ルネサンス・バロック・ロココ）建築と絶対王政	近代建築の特徴といえる機能主義の考え方、ワグナーの建築哲学等を理解します。さらに、機能主義に反発して起こった建築運動、いわゆる反機能主義の建築について学びます。	授業テキストで復習 プレゼンテーション作成	120
14	稀代の建築家とポストモダニズム	コルビジェ・ミース・ライトなど近代建築の巨匠と称された建築家の作品を解説します。その時代背景や構造、材料等の特徴を学びます。また、ポストモダニズムの時代に至った背景や特徴等を学び、現在の建築の位置づけについて考えます。	授業テキストで復習 プレゼンテーション作成	120
15	プレゼン発表と建築士試験対策	広く建築に関心を持つことを目的に、課題の趣旨を理解して、学生それぞれが興味のある建築についてスライドを用いて解説・発表し、その場で課題点などを解説し、評価します。 また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築史の試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。	プレゼンテーション作成 国家試験対策問題	150

科目名	地域防災計画	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 必修
担当教員	山形 敏明		
開講期	後期		
授業概要	地域特性を考慮した地域防災計画の策定は、防災計画上重要な位置づけにある。建築物の構造体としての安全性とともに、災害時の安全かつ速やかな避難計画は、地域防災計画との関係が大きい。福島県においても過去の大規模災害の経験を基に、地震、風水害、雪害等自然災害に対処する地域防災計画が策定されている。授業では建築防災計画および地域防災計画について解説し、地域特性を考慮した総合的な防災計画の必要性を理解することを目的とする。☒ レポートは返却せず、コメントによるフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 HA2404☒ ☒		
達成目標	【履修カルテ】☒ ①自然災害の種類と特性を理解できたか。☒ ②地域防災計画策定に必要な項目を明確にすることができるか。☒ ③福島県の防災計画に留意する項目を明確にすることができるか。☒ 単位認定最低基準：「授業内容の8割を理解していること」☒ ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」「倫理観、社会的責任」		
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	小テスト50%、レポート提出30%、プレゼンテーション20%
教科書	雪と建築（技報堂出版）		
参考書	防災基本計画（中央防災会議）		
学生への要望	建築物単体での防災対策とともに、地域や都市という広域的な防災対策についても身近に感ずるよう心がけて欲しい。また、地震、風水害、雪害等、福島県の地域特性を理解し、これらの対策の現状を認識して欲しい。☒		
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～14:00☒ 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、防災計画の概要	防災計画の概念について説明し、科目の導入とする。	授業内容をテキストで復習	45
2	防災基本計画の構成	防災基本計画の構成を解説し、災害の種類を把握するとともに、その特徴について理解を深めさせる。	授業内容をテキストで復習	45
3	自然災害の対策1	自然災害の種別毎の対策について解説する。当回では震災対策、火山災害対策における災害発生概要・災害対策の現状について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
4	自然災害の対策2	当回では、風水災害対策、雪害対策における災害発生概要・災害対策の現状について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
5	日本の気候	日本の気候からくる気象災害について解説する。ここでは、日本の気候の特徴と自然災害の関係について理解させる。	レポート準備	60
6	地域防災計画の特徴	防災基本計画と地域防災計画の特徴について解説する。特に地域防災計画の基本的な考え方、防災理念が理解できるように解説する。	授業内容をテキストで復習	45
7	防災上の地域特性1	防災上の福島県の地域特性について解説する。特に福島県の災害履歴を把握する。	授業内容をテキストで復習	45
8	防災上の地域特性2	当回では福島県の地域特性について理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
9	地域防災計画	福島県地域防災計画の特徴を解説し、今後考慮すべき課題について考察する。	レポート準備	60
10	雪害	福島県の雪害に関する状況を解説し、雪害という現象を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
11	雪氷防災計画	地域防災計画上の雪氷防災計画について解説し、雪氷防災計画策定の重要性を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
12	避難計画1	災害時における避難計画の概要を解説し、建築物での避難計画を理解させる。	授業内容をテキストで復習	45
13	避難計画2	災害時における避難計画を住区、地区、地域の観点から解説し、さらに複合災害時の避難行動について理解させる。	プレゼン準備	90
14	都市計画・地域計画上の防災対策	都市・地域の防災システムならびに都市構造の防災ポテンシャルについて解説し、中領域での防災対策について理解させる。	プレゼン準備	90
15	総まとめ	地域防災計画上の理念を総括する。	授業内容をテキストで復習	45

科目名	家族建築学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	前期			
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、人間にとって家族とは何か、家族の機能、家族の変化等を中心に考える。☑ 特に、家族内における高齢者、子ども、人権尊重を主題とし、福祉社会における家族のあり方を様々な視点から学ぶことを目的とする。なお、教職（家庭・栄養）を目指す人にとっては必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。☑ レポートはコメントによるフィードバックを行います。☑ 位置づけ・水準 HA2405☑			
達成目標	単位認定の最低基準：①家族の機能について様々な視点から考察できること。☑ ②家族の時代的変遷について考察できること。☑ ③高齢者や子どもと家族全体との関わり方の変化について考察できること。☑ ④授業内容の8割を理解していること☑ ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力」、「倫理観、社会的責任」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	人間生活学科4年生、食物栄養学科 4年生☑ 文化学専攻科 1年生	成績評価 方法	レポート60％、プレゼンテーション20％、授業中の提出物20％	
教科書	適宜プリント及び資料配付			
参考書	その都度紹介します			
学生への要望	授業中に各自の意見を書いて提出することを数回求めます。その日のテーマをよく考え、私語を控えましょう。☑			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00☑ 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	これからの授業の進め方について説明する。これまで学んだ建築学の専門科目からの視点とは異なり、生活者としての視点から建築を捉え、建築に与える家族関係等の影響について考察する。その上で、建築家としての使命や自分自身の方向性について考える。	授業内容を復習	45
2	家族の意味	家族の意味について、これまで学んだ家政学を基盤とした上で「家族と法」の視点から考察する。	授業内容を復習	45
3	現代の家族生活	今日、われわれが経験している現代の家族生活を旧来の家族生活と比較し、特質づけている点について考察することから、現代の家族生活の意義について理解を深める。	授業内容を復習	45
4	夫婦と親子	夫婦について婚姻の成立と効果、親子関係の発生とその効果について「家族と法」の視点から考察し、住生活における位置づけについて理解する。	授業内容を復習	45
5	親族扶養について	親族関係の意義と扶養の意味について理解する。それに基づき社会福祉的観点から、建築に求められている空間の創造または空間構成について考察し、これまで学んだ住宅の設計概念と結びつけて理解する。	授業内容を復習	45
6	家族についての総括	家族関係の視点からグループワークを行い、プレゼンテーションする。	レポート準備	60
7	家族と住空間	家族関係からの視点で住空間を創造する手法について学ぶ。コアシステムやスケルトンインフィルの概念を理解し、住宅の空間構成を考える。	授業内容を復習	45
8	家族関係からみた平面構成	様々な家族関係を事例に、住宅の平面構成と心理面へ与える影響について追及する。	授業内容を復習	45
9	平均寿命100歳時代に向けた住宅のあり方	平均寿命100歳時代を見据え、家族形態の変容に対応できる住宅の形態について、その可能性や問題点について考え、討論する。	授業内容を復習	45
10	屋根型の理解	建築物の外観は屋根によって決まる、と言っても過言ではない。その屋根型の基本を復讐し、球や半球等にかける屋根について検討し屋根方の違いによる空間について理解する。	授業内容を復習	45
11	段差の敷地に建つ住宅	段差のある敷地に建つ住宅とバリアフリーの関係について考え、討論する。	レポート準備	60
12	ふくしまの家	福島らしい家とは何か。気候風土や嗜好性をどう捉えるかを学ぶ。流行と風土性、建築家のエゴについて考える。	授業内容を復習	45
13	都市・街並みの創造 1	これまで学んだ次世代に向けた住宅形態と、街並の創造について考察する。	授業内容を復習	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	都市・街並みの創造 2	前授業に引き続き、街並みの創造について考察し、討論する。	レポート準備	60
15	自分自身の建築の方向性と卒業設計	建築とは人間のための空間創造である。住宅は建築並びに生活者の原点である。戦後、わが国の建築家たちは快適性ばかりを追求してきたが、東日本大震災を契機に、この姿勢に疑問符が投げかけられている。本授業では、形態を主に住宅を捉えてきたが、自分自身の建築の方向性を建築家としてのポリシーと形態（デザイン）との両面模索することを最終の授業の目的とする。さらに、自分の方向性と卒業設計とを関連付けて卒業設計のテーマを発表する。	授業内容を復習	45

科目名	建築環境工学Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	前期			
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、工学的視点から自然現象を捉え理解する。健康で快適な室内環境を形成するために、空気・湿気・温熱環境等の側面から考える力を養い、課題解決に向けて自己の専門知識と技術に活かす能力を身に付ける。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。位置付け・水準 HA2306			
達成目標	快適な室内環境を形成するための原理を理解し、工学的視点より環境について考察する。☒ 単位認定の最低基準は、下記①～③の7割達成していること。☒ ①空気環境について、通風と換気の目的と換気システムについて理解し、活かすことができる。☒ ②湿気環境について、結露発生のメカニズムとその防止法を理解し、問題解決力を養う。☒ 湿り空気線図を読み取る。☒ ③居住者の温かさ、寒さを表す温熱環境について考察し、快適な温熱環境について理解する。☒ ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力・問題解決力」「倫理観社会的責任」			
受講資格	人間生活学科 建築デザインコース	成績評価 方法	①期末試験 70％☒ ②確認テスト 30％	
教科書	建築環境工学（第三版）：市ヶ谷出版社			
参考書	その都度提示する。			
学生への要望	快適な室内環境を形成するために、授業で学んだことを建築計画に活かすこと。			
オフィスタイム	家政学館4F 生活科学研究室☒ 月曜Ⅰ・Ⅱ時限（8：50～12：00）☒ 木曜Ⅰ時限（8：50～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	これからの授業についての説明及び室内環境の概略を説明する。	室内環境を決定づける要因について理解する。	60
2	住まいと気候	わが国の気候（日本の風、気温、湿度等）と建築との関連について学ぶ。	日本の気候と建築との関連について整理する。	60
3	空気環境と空気汚染 1	換気と通風の目的とその重要性について理解します。また、換気量・換気回数・必要換気量の求め方を学ぶ。	換気と通風の目的を明確にし、その必要性について理解する。	60
4	空気環境と空気汚染 2	室内から発生する空気汚染物質とその許容量について学ぶ。	室内汚染物質の要因について理解する。	60
5	換気計画	換気方式による特徴と用途について学ぶ。	換気方式の違いについて整理する。	60
6	温熱要素について	気温・湿度・風速・放射熱など、体感に影響を与える要因について学ぶ。	温熱要因について理解を深める。	60
7	温熱感覚の指標	有効温度・修正有効温度・不快指数等を計算し、室内の快適性を評価する。	温熱感覚の指標について理解する。	60
8	伝熱理論 1	壁体の熱の伝わり方と主要建築材料の熱伝導率について理解する。	熱の伝わり方について理解する。	60
9	伝熱理論 2	熱伝導抵抗・熱貫流率・熱貫流抵抗・熱貫流量の求め方を理解する。	熱伝導抵抗・熱貫流率・熱貫流抵抗・熱貫流量の求め方を復習する。	60
10	住宅と結露	結露現象について理解し、空気線図の読み取り方を学ぶ。☑また、表面結露と内部結露の防止対策について理解する。	空気線図の読み取り方についてりかいを深める。	60
11	断熱について	中空層の断熱効果について理解し、断熱工法とその違いについて学ぶ。☑また、断熱性能と省エネルギーについて考察する。	模型を用いて行った断熱実験をレポートにまとめる。	60
12	外界気象について	気温や相対湿度の変動をクリモグラフとデグリーデーから読み取る。	クリモグラフとデグリーデーの読み取り方を復習する。	60
13	都市環境と地球環境 1	ヒートアイランド現象、ビル風、その他の都市環境問題について考察する。☑また、地球温暖化原因や地球温暖化防止のための建築的取り組みについて学ぶ。	地球環境の問題点について調べ、建築的取り組みを整理する。	120
14	都市環境と地球環境 2	環境問題と建築の取り組みについてディスカッションを行う。	環境問題と建築的取り組みについて整理し、考察する。	120
15	まとめ	これまで学んだ視点から、健康で快適な住環境について考察・説明し、ペーパーテストを行う。またペーパーテストの解説も行う。	授業で学んだ内容についてまとめ、健康で快適な住環境について考察する。	120

科目名	建築環境工学Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	後期			
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、工学的視点から自然現象を捉えます。☒ 前期に学習した内容を基に、健康で快適な住居について、日射、光、色彩、音などの環境と建築の関係について学習し、考える力を養います。☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行い、授業内で実施する課題は、次回の授業で詳細に解説して返却します。☒ ☒ 位置づけ・水準：HA2307			
達成目標	①建築と環境の関係について理解することができたか。☒ ②日射、光、色彩、音などの特性が理解できたか。☒ ③建築環境工学の基本的な事項を学習し、設計製図などの課題において自身の設計に役立てることができたか。☒ 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解すること。☒ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考力・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	期末試験80％・授業内提出課題20％	
教科書	『建築環境工学』市ヶ谷出版社（第三版）			
参考書	『図説やさしい建築環境』学芸出版社			
学生への要望	授業で学んだことを建築計画に活かし、快適な室内環境形成に役立てて下さい。			
オフィスタイム	月曜日8：50～10：20☒ 木曜日8：50～10：20☒ 本館1F No.2 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	これからの授業についての説明及び室内環境の概略を説明し、授業のねらいや達成目標を理解する。	建築工学Ⅰで学修した内容を見返し、要点を復習する。	30
2	太陽の位置	日本における太陽の動きを理解し、日照と建築との関連を確認する。	太陽位置図やその求め方を理解し、授業内課題を用いて復習する。	45
3	日照と日影	日影図の描き方を学び、終日日影や永久日影をCGを用いて学ぶ。	日影図や日影時間図を作成する。	60
4	日射について	日射の有効性と害及び日照計算、日照調節の方法について学ぶ。	日射の仕組みを復習し、授業内課題を復習する。	45
5	光環境について	測光量について学び、基礎的な照明計算の方法を習得する。	照明計算を解く。	60
6	明視環境について	明視条件やグレア、照度の基準を学ぶ。	自宅の照度を測定し、データをまとめる。	30
7	明視環境と採光について	自宅の照度データから住環境を評価し、発表する。採光、天空率、昼光率等の意味を理解する。	授業の要点を復習する。	30
8	照明について	人工照明の種類と建築における今後の照明の在り方を考える。各教室の照度を測定し、照明改善計画を作成する。	身の回りにある人工照明の種類を把握し、教室の照度を測定して、照明改善計画のプレゼンを作成する。	60
9	採光について	照明改善計画についてプレゼン発表を行う。採光、天空率、昼光率等の求め方を学修する。	照明改善計画のプレゼンを作成する。授業の要点を復習し、章末問題を解く。	120
10	色彩環境について	色彩の表し方について色の属性や表色系の種類を学ぶ。	授業の要点を復習する。	30
11	色彩計画について	色彩の人への効果を学習し、それを活かした建築計画を学ぶ。	授業の要点を復習する。	30
12	音環境について	音の性質やその単位について学ぶ。	授業の要点を復習する。	30
13	騒音と遮音について	騒音レベルや遮音の仕組みを学び、騒音を防止する設計方法を習得する。	授業の要点を復習する。	30
14	音響について	吸音や残響について学ぶ。	授業の要点を復習し、章末問題を解く。	120
15	まとめと建築士試験対策	これまで学んだ視点から、健康で快適な住環境を考察する。また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築環境工学Ⅱの試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習する。	配布した資料を参考に、本授業で学修した内容を整理し、建築士対策問題を解き、理解を深める。	120

科目名	建築設備	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 必修
担当教員	藤田 延幸		
開講期	前期		
授業概要	授業の到達目標及びテーマ☑ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。☑ [履修カルテの評価項目]☑ ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。☑ ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について☑ 授業の概要☑ 快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。☑ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。☑		
達成目標	授業の到達目標及びテーマ☑ 快適な住生活をおくるための建築設備（給排水、空調、電気）について理解する。☑ [履修カルテの評価項目]☑ ○基本的な設備機器の種類とシステムについて。☑ ○新エネルギーについての知識とエネルギー問題について☑ 授業の概要☑ 快適な住生活をおくるために建築設備は必要不可欠なものである。近年は省エネルギー等により設備システムを効率よく使用することが求められている。本講義では基本的な建築設備の種類とそのシステムを理解するとともに、新エネルギーについての知識も学習する。☑ ☑		
受講資格	人間生活学科建築デザインコース 4年生	成績評価 方法	定期試験により評価します。
教科書	「初学者の建築講座 建築設備（第二版）」著：大塚雅之 市ヶ谷出版社		
参考書	配付資料を使用します。		
学生への要望	積極的に授業に参加すること。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前：創学館 2階教務部非常勤講師室、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の概要説明	授業の概要説明	授業内容を整理する。	30
2	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	建築計画と設備計画の関わりを講義し、設備の役割、意義を考える。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	給排水設備について	給排水設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	住宅の中で最も設備が集中する台所、浴室、トイレ等の給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	事務所ビルの給排水設備の計画について	事務所ビルの給排水設備の計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	事務所ビルの空調システムについて	事務所ビルの空調システムについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	事務所ビルの機械換気の種類と方式、全熱交換機の仕組みについて	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	住宅の電気設備計画について	住宅の電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	事務所ビルの電気設備計画について	事務所ビルの電気設備計画について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	ガス設備、消火設備、給湯設備、通信設備等について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	防災設備について	防災設備について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	建築物のライフサイクルからLCEやLCCO2について	建築物のライフサイクルからLCEやLCCO2について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	新エネルギー（燃料電池、地下水、風力等）の設備への応用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	太陽エネルギー利用について	太陽エネルギー利用について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	「エネルギー使用の合理化に関する法律」について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	建築法規Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	佐久間 保一			
開講期	後期			
授業概要	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。☒ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。			
達成目標	建築設計、施工において、建築法規を正しく理解することは、建築に携わる者の倫理上の第一歩です。本講義ではまず、めまぐるしく変わる建築法規の成り立ちを理解します。さらに単体規定、集団規定の基本的法規を学びます。			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験	
教科書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院			
参考書	「図説やさしい建築法規」学芸出版社、「建築関係法令集」井上書院			
学生への要望	建築士試験問題を解くこと。実生活の中で法律を意識すること。			
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館2階教務部内非常勤講師室）、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、建築法規の成り立ち	これからの授業の進め方及び、建築法規を学ぶことの意義について、建築に携わる者の倫理面から講義します。次に基準法、政令、条例、告示等の法の成り立ち、及び法規上の接続詞や数量の読み方について解説します。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	建築法令集の活用法	建築関連法令集に、建築基準法、建築士法、都市計画法、建設業法、等の各法規及び各項目のインデックスを貼ります。このことにより法令集の概要及び成り立ちを理解します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	用語の定義1	建築で用いる用語（居室、新築、修繕、軒の高さ等）の定義について学びます。建築法規のみならず、実務においても基礎となる用語であることから、正しい理解が求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	用語の定義2	延焼の恐れのある部分、建築物の高さの定義、及び算出方法を学びます。このことから人間の生命を守る建築を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	敷地面積、建築面積、延面積の計算	敷地面積について、道路との関連について学びます。地下や軒の出がある場合の建築面積、延べ面積について、定義及び算出方法を学びます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	一般構造 1	単体規定のあらましについて解説します。次に換気的重要性及び定義について学びます。天井の高さの定義及び算出方法について学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	一般構造2	居室における採光の重要性について学びます。次に有効採光面積の定義、及び算出方法について居室の定義を復習しながら学習します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	一般構造3	防火に関する用語（耐火構造、準耐火構造）の他、防火地域や準防火地域等のついて等について学びます。それぞれの相違をよく理解することが必要です。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	用途地域1	集団規定のあらましについて解説します。次に都市計画地域、市街化区域、市街化調整区域、用途地域等、さらに用途制限の考え方について説明します。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	用途地域2	引き続き用途地域による用途制限について学びます。法令集の用途制限に関する別表をよく理解することが求められます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建蔽率の定義及び計算	用途地域、建蔽率の定義、及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	容積率の定義及び計算	容積率の定義及び算出方法について学びます。建築設計の基礎となるものであることから確実に理解するよう講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	高さ制限 1	建築物の高さを制限する道路斜線、隣地斜線、北側斜線について説明します。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	高さ制限2	引き続き道路斜線、隣地斜線北側斜線についての定義、及び計算方法について学びます。なかなか理解が難しい内容ですが都市計画との関連を説明しながら確実に理解するよう、講義を進めます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	避難経路について	建築物における避難経路の確保のしかた及び二方向非難等の避難経路について解説します。このことから、人間の生命を守る建築物を創造することの責務について考えます。	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	建築法規Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 必修	
担当教員	佐久間 保一			
開講期	前期			
授業概要	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。☑ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。☑			
達成目標	建築法規Ⅰに引き続き、建築関連の法規を学び、設計・施工における法遵守の意義を学ぶ。建築基準法の構造強度、防火と内装制限、及び都市計画法、建築士法、建設業法等の重要ポイントを理解する。さらに建築士試験問題を解く実力を付ける。☑			
受講資格	建築デザインコース☑	成績評価 方法	定期試験☑	
教科書	「初めての建築法規」学芸出版社☑ 「建築関係法令集」☑			
参考書	「初めての建築法規」学芸出版社☑ 「建築関係法令集」☑			
学生への要望	建築士試験問題を解くこと☑			
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室☑ 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス 建築法規Ⅰの復習	授業の進め方の説明。建築法規Ⅰにおいて、理解が不十分であった項目を重点的に復習する。☑ 最近の建築法令の動き。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	構造強度（木造）1	木造建築の構造強度に関する基準法、及び同施行令について理解する。☑ 柱や梁で構成された木造在来工法についても復習する。☑ ＊建築物の高さについて復習する。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	構造強度（木造）2	施行令40～45条の地震や風圧に耐える木造住宅の意味を理解し、軸組み（壁量）計算方法を学ぶ。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	構造強度（木造）3	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法☑を学ぶ。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	構造強度（木造）4	前授業に引き続き、施行令40～45条の地震力や風圧力に耐える木造住宅の意味を理解し軸組み（壁量）計算方法を☑学び、告示による建築端部の壁量計算方法を学ぶ。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	構造強度（木造）5 組石造	壁量計算の小テストにより、理解したことを確認する。施行令54条の組石造についての関連法規を学ぶ。☑ 併せて、組石造について理解する。☑	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	構造強度 補強コンクリートブロック造 鉄筋コンクリート造	施行令62条等の補強コンクリートブロック造についての関連法規を学ぶ。併せて、補強コンクリートブロック造について☑理解する。また、施行令72条等鉄筋コンクリートにおける関連法規を学ぶ。☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	構造強度 鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造における、かぶり厚さ、柱の径等についてのポイントを学ぶ。併せて、鉄筋コンクリート造の構造について☑て学ぶ。☑	教科書を読む。小テスト対策をする。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	構造強度 荷重と外力	固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力等の荷重と外力が、法規によってどのように記載されているか、その☑意味を理解する（（施行令84条～）☑	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	防火と内装制限	屋根や外壁、防火壁等の防火に関わる関連法規及び、室内の内装制限を受ける建物について学び、安心安全な建築☒設計について考える（施行令112条他）☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	建築士法	建築士でなければ設計できない建築、建築士事務所の仕事について、建築士法に則りながら理解する。☒ 建築士の責務の重要性を学ぶ。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	都市計画法	都市計画法における、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、開発行為について学ぶ。また用途地域について☒復習し、建築基準法との関連を確認する。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	建設業法 ハートビル法 消防法、品格法等	建設業法、ハートビル法、消防法、品格法等の関連法規の概要を学び、建築がたくさんの法律によって規制されている☒ ことを理解する。福島県条例と地域の景観条例の説明。☒	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	復習 1	建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	復習 2	前授業に引き続き、建築法規に関して、これまでの授業において理解があいまいであった箇所を復習、確認する。☒	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	構造力学Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明,高橋 真里			
開講期	前期			
授業概要	構造力学は外力が作用したときの建築構造物の挙動を知るために必要不可欠なものである。建築物に働く力を理解するとともに、静定構造物の部材に生ずる力について基本的知識を身につける。定期的にノートチェックを行い、コメントによるフィードバックを行います。☒ 位置付け・水準 HA2213			
達成目標	単位認定の最低基準：①力の釣り合いについて理解できていること。☒ ②各モデルの反力を求めることができこと。☒ ③M図、N図、Q図を正確に求めることができること。☒ ④授業内容を7割理解していること マボリシーとの関係：「知識・理解」、「論理的思考力、問題解決力」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験80％、課題提出20％	
教科書	やさしい構造力学☒ 学芸出版社			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	不明な点は放置せず、直ちに質問すること。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20☒ 、14:30～16:00☒ 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス・力学概論	構造力学の授業計画についての説明。☒ 力とは何か、いろいろな力について考えてみる。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
2	力の基礎 1	力の表現、符号、効果、単位について把握する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
3	力の基礎 2 ・力のモーメント	力のモーメントについて理解する。モーメントとは何か、モーメントの符号と距離の見極め方などいろいろな事例を通して学ぶ。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
4	力の基礎 3 ・力の合成	力の合成の概念について演習する。合力とはいったい何なのか、合力の大きさ、位置について把握する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
5	力の基礎 4 ・荷重	荷重の概念について実験を通して演習する。ここでは集中荷重と分布荷重について理解し、力の加わり方の違いについて学ぶ。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
6	力の釣り合い	力の釣り合いとは何か。力学の重要基本である力の釣り合いという概念を理解する。特に回転をとまなう力の釣り合いの問題演習を行う。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
7	反力 1 ・構造物の力学モデル	構造物の力学モデル、構造物の支え方について授業する。反力とは何か、反力数と何かについて問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
8	反力 2 ・単純梁の反力	構造物の基本形である単純梁の反力について学ぶ。単純梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方について問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
9	反力 3 ・片持ち梁の反力	片持ち梁及び張り出し梁の反力について学ぶ。片持ち梁及び張り出し梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方を問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
10	反力 4 ・ラーメンの反力	ラーメンの反力について学ぶ。ラーメンとは何か理解し、ラーメンの反力について問題演習を行う。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
11	部材に生じる力	これまで学んだ力の基礎・釣り合い・反力を応用して、部材に生じる力（曲げモーメント、せん断力、軸方向力）について問題演習を行う。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
12	単純梁に生じる力 1	単純梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を授業する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
13	単純梁に生じる力 2	単純梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
14	片持ち梁に生じる力 1	片持ち梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60
15	片持ち梁に生じる力 2	片持ち梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。まとめとして、力学Ⅰの分野における建築士国家試験の対応箇所と要点に関する解説する。	授業範囲についてテキストで予習復習	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	構造力学Ⅰ 演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明,高橋 真里			
開講期	前期			
授業概要	構造力学は外力が作用したときの建築構造物の挙動を知るために必要不可欠なものである。建築物に働く力を理解するとともに、静定構造物の部材に生ずる力について基本的知識を身につける。構造力学Ⅰの講義で得た知識を、問題演習及び実験を通して定着させる。☑ 課題提出後、フィードバックの時間を設けます。☑ 位置づけ・水準 HA2214			
達成目標	単位認定の最低基準：①力の釣り合い式を用いて未知数を求めることができること。☑ ②各モデルの反力を求めることができること。☑ ③M図、N図、Q図を正確に図示することができること。☑ ④構造力学Ⅰの内容を8割活用できていること ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」、「論理的思考力、問題解決力」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	課題提出80％、受講姿勢20％	
教科書	やさしい構造力学☑ 学芸出版社			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	予習・復習により、多くの問題を解くこと。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00☑ 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス・力学概論	演習についての説明。☑ 力とは何か、いろいろな力について考えてみる。	授業で扱った問題の復習	60
2	力の基礎 1	力の表現、符号、効果、単位について把握する。	授業で扱った問題の復習	60
3	力の基礎 2 ・力のモーメント	力のモーメントについて理解する。モーメントとは何か、モーメントの符号と距離の見極め方などいろいろな事例を通して学ぶ。	授業で扱った問題の復習	60
4	力の基礎 3 ・力の合成	力の合成の概念について演習する。合力とはいったい何なのか、合力の大きさ、位置について把握する。	授業で扱った問題の復習	60
5	力の基礎 4 ・荷重	荷重の概念について実験を通して演習する。ここでは集中荷重と分布荷重について理解し、力の加わり方の違いについて学ぶ。	授業で扱った問題の復習	60
6	力の釣り合い	力の釣り合いとは何か。力学の重要基本である力の釣り合いという概念を理解する。特に回転をとまなう力の釣り合いの問題演習を行う。	授業で扱った問題の復習	60
7	反力 1 ・構造物の力学モデル	構造物の力学モデル、構造物の支え方について授業する。反力とは何か、反力数と何かにについて問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
8	反力 2 ・単純梁の反力	構造物の基本形である単純梁の反力について学ぶ。単純梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方について問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
9	反力 3 ・片持ち梁の反力	片持ち梁及び張り出し梁の反力について学ぶ。片持ち梁及び張り出し梁に各荷重がかかった場合の反力の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
10	反力 4 ・ラーメンの反力	ラーメンの反力について学ぶ。ラーメンとは何か理解し、ラーメンの反力について問題演習を行う。	授業で扱った問題の復習	60
11	部材に生じる力	これまで学んだ力の基礎・釣り合い・反力を応用して、部材に生じる力（曲げモーメント、せん断力、軸方向力）について問題演習を行う。	授業で扱った問題の復習	60
12	単純梁に生じる力 1	単純梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を授業する。	授業で扱った問題の復習	60
13	単純梁に生じる力 2	単純梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
14	片持ち梁に生じる力 1	片持ち梁に集中荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60
15	片持ち梁に生じる力 2	片持ち梁に分布荷重がかかった場合を解説し、応力図の求め方を問題演習する。	授業で扱った問題の復習	60

科目名	構造力学Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
担当教員	山形 敏明		
開講期	後期		
授業概要	授業の概要☒ 建構造力学Ⅰの授業・演習で習得した構造力学の基本的知識に基づき、トラスの解法、変形の計算法及び不静定構造の基礎的解法を解説する。また、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用していくのか、どのように応用、展開していくかを学んでいく。定期的にノートチェックを行い、コメントによるフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 HA2315		
達成目標	授業の到達目標☒ 応力、断面に関する数量及び変形計算を理解すること。不静定構造の基礎的解法を理解することを達成目標とする。単位認定最低基準：「内容の7割を理解していること」 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」		
受講資格	人間生活学科 2 年建築コースの学生	成績評価 方法	定期試験80％、受講姿勢20％
教科書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」		
参考書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」		
学生への要望	予習、復習を必ず行うこと		
オフィスタイム	木曜日Ⅳ限・Ⅴ限 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	概論として、本講座で扱う範囲について概略を説明し、科目の導入とする。また、建築構造設計と建築設計との位置づけと社会的役割について解説する。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	トラスの解法1	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を節点法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	トラスの解法2	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を図解法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	トラスの解法3	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を切断法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	断面に関する数量	図心について把握させ、断面1次モーメント・図心位置の求め方について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	断面2次モーメント	断面2次モーメントの公式を把握し、中立軸の位置、長方形断面と薄肉断面の断面2次モーメントを理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	断面係数	断面係数の求め方について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	軸応力度	引張応力度・圧縮応力度・ヤング係数について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	曲げ応力度とせん断応力度	曲げ応力度と曲げモーメントの関係、せん断応力度とせん断力の関係を把握させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	許容応力度と許容曲げモーメント	許容応力度と許容応力度設計法を把握し、許容曲げモーメントについて理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	曲げ応力度と圧縮応力度との組み合わせ	曲げモーメントと圧縮力のはたらく柱の応力状態を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	座屈	座屈の概念を把握し、座屈長さ・座屈荷重について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	たわみの求め方	代表的な梁のたわみ、たわみ角の計算式を整理し、片持ち梁・単純梁のたわみの求め方を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	不静定構造の基礎	不静定構造の概念を把握し、不静定構造の基礎的解法を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	塑性解析の基礎	弾性と塑性の概念を把握し、静定構造の崩壊と全塑性モーメント、不静定構造の崩壊と崩壊荷重、不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	構造力学Ⅱ 演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	後期			
授業概要	授業の概要☒ トラスの解法、変形の計算法及び不静定構造の基礎的解法を理解する。構造力学Ⅱの講義で得た知識を、問題演習及び実験を通して定着させる。課題はコメントによるフィードバックを行い、返却します。位置づけ・水準 HA2316			
達成目標	授業の到達目標☒ 応力、断面に関する数量及び変形計算を理解すること。不静定構造の基礎的解法を理解することを達成目標とする。単位認定最低基準：「内容の7割を理解していること」 ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」			
受講資格	人間生活学科 2 年建築コースの学生		成績評価 方法	課題提出80％、受講姿勢20％
教科書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」			
参考書	浅野清昭「図説やさしい構造力学」			
学生への要望	予習、復習を必ず行うこと			
オフィスタイム	木曜日Ⅳ限・Ⅴ限 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	概論として、本講座で扱う範囲について概略を説明し、科目の導入とする。また、建築構造設計と建築設計との位置づけと社会的役割について解説する。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	トラスの解法 1	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を節点法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	トラスの解法 2	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を図解法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	トラスの解法 3	トラスの構造的特徴を把握させ、トラス部材に生ずる軸方向力の求め方を切断法による解法で理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	断面に関する数量	図心について把握させ、断面 1 次モーメント・図心位置の求め方について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	断面 2 次モーメント	断面 2 次モーメントの公式を把握し、中立軸の位置、長方形断面と薄肉断面の断面 2 次モーメントを理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	断面係数	断面係数の求め方について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	軸応力度	引張応力度・圧縮応力度・ヤング係数について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	曲げ応力度とせん断応力度	曲げ応力度と曲げモーメントの関係、せん断応力度とせん断力の関係を把握させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	許容応力度と許容曲げモーメント	許容応力度と許容応力度設計法の概念を把握し、許容曲げモーメントについて理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	曲げ応力度と圧縮応力度との組み合わせ	曲げモーメントと圧縮力のはたらく柱の応力状態を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	座屈	座屈の概念を把握し、座屈長さ・座屈荷重について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	たわみの求め方	代表的な梁のたわみ、たわみ角の計算式を整理し、片持ち梁・単純梁のたわみの求め方を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	不静定構造の基礎	不静定構造の概念を把握し、不静定構造の基礎的解法を理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	塑性解析の基礎	弾性と塑性の概念を把握し、静定構造の崩壊と全塑性モーメント、不静定構造の崩壊と崩壊荷重、不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力について理解させる。	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	建築材料学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修
担当教員	長田 城治		
開講期	後期		
授業概要	建築を理解する上で必要な材料の知識を身につけることを目標とします。建築物に一般的に使用されている材料の性質を分類し、木造、鉄筋コンクリート造、鋼構造等の構造部材の特徴、使用法について理解し、設計する上でどの材料を用いるべきか、授業を通して材料を選択する能力を養うこと目指します。これらの主要構造材に加え、外装材料や内装材料、屋根材料など建物の仕様に関わる材料特性を理解することを目標とします。☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行い、授業内の課題については、課題後の授業で解説します。☒ ☒ 位置づけ・水準：HA2217		
達成目標	①木材やコンクリート、鉄骨などの建築材料について基本的な性能を理解することができたか。☒ ②材種別に材料特性の長所や短所を把握することができたか。☒ ③建物の規模や形式、用途によって建築材料の使い分けが出来るようになったか。☒ 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解し、木材・コンクリート・鉄の材料特性を理解していること。☒ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任		
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	定期試験70％、授業内課題（小テスト、小レポートなど）30％
教科書	『やさしい建築材料』学芸出版社		
参考書	授業内で適宜紹介する		
学生への要望	定期試験以外に授業内で実施するレポート提出を課するため、欠席がないように注意すること。双方向型授業を取り入れているため、授業内では積極的に発言し、授業に参加すること。また、住宅や商業施設などの身の周りの建物で使用する建築材料に注視するように心がけること。		
オフィスタイム	月曜日8:50～10:20☒ 水曜日14:30～16:00☒ 本館1F No.2 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、建築材料の概要	授業ガイダンス、建築材料学の意味について説明し、科目の導入とします。また、日本の建築における建築材料の変遷を学びます。	シラバスを確認し、本講義のねらいと達成目標を理解します。	30
2	木材の種類と特徴	日本建築と木材についての関わりを把握し、木材の種類・特徴について理解を深めます。	授業で配布した資料と教科書を参考に木材の種類と特徴について復習します。	60
3	木材の強度と構造	構造部材としての木材について、その強度および構造について理解します。また、木取り・規格・等級について解説します。	木材の材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。	120
4	木材と水分	木材と水分の関係を把握し、含水率や乾燥方法、腐朽について理解します。また、	授業で配布した資料と教科書を参考に木材と水分の関係性をまとめます。	60
5	木材の木取りや規格、等級	木取りの方法や意味を理解し、製材の規格の内容を把握します。また、木材の欠点について理解し、適切な木材の利用方法を学修します。	授業内で配布した木取りに関するプリントを用いて、適切に木材を利用する方法について復習します。	120
6	コンクリートの材料	コンクリートの歴史を把握し、コンクリートに利用する材料別の特性を理解します。	授業で配布した資料と教科書を参考にコンクリートの材料特性について復習します。	60
7	コンクリートの性質	コンクリートの用途、特徴について把握し、コンクリートの性質について理解します。	授業で配布した資料と教科書を参考にコンクリート性質や種類について復習します。	120
8	コンクリートの種類と調合設計	コンクリートの種類と調合設計について学習します。☒ また、木材とコンクリートに関する小テストを実施し、それぞれの材料が持つ長所や短所を再確認します。	コンクリートの材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。また、小テストの結果を基に復習し、知識を定着させます。	60
9	鋼材の特徴と製鋼の工程	鋼材の歴史的背景、鉄と鋼の違い、鋼材の特徴と製鋼の工程について整理し、理解を深めます。	授業で配布した資料と教科書を参考に鋼材の種類と製作を工程について復習します。	60
10	鋼材の種類、性質と規格	鋼材の種類とその特徴、用途を整理し、建築の構造用に使われる鋼材の性質を明確に理解します。	鋼材の材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。	120
11	焼成品	タイル・煉瓦・瓦・衛生陶器のそれぞれの歴史、特徴、種類、形状について学習します。木造、鉄筋コンクリート造、鋼構造の材料に関する小テストを実施します。	小テストの結果を基に復習し、知識を定着させます。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	左官の特徴と種類	左官の起源と定義、特徴と種類を理解します。また、左官の仕事に関する動画視聴し、どのような仕事なのかを理解します。	授業で視聴した動画に関する内容について、感想をまとめ、現代における左官の仕事を理解します。	60
13	ガラスの特徴と種類、石材の特徴と分類	ガラス・石材の歴史、特徴、種類を把握し、その用途と施工法を学習します。図た、鋼材や修正品、ガラスに関する小テストを実施し、それぞれの材料が持つ長所や短所を再確認します。	ガラス・左官の材料特性に関するポイントを整理し、配布した二級建築士対策問題を解き、理解を深めます。	60
14	部位別・性能別材料	防水・防火・耐火・断熱・防音・吸音材の要求性能を使用例を基に学習します。	設計製図で使用した二級建築士製図試験問題を確認し、授業で学修した材料がどのような部位に利用されているのかを把握します。	60
15	まとめと建築士試験対策	構造部材、外装材料、内装材料、屋根材料の材料特性を総まとめし、建築における材料学の位置付けの確認をします。また、一級・二級建築士国家試験対策として、建築材料学の試験範囲を概説し、対応する要点を解説・復習します。	配布した資料を参考に、建築材料学で学修した内容を整理し、建築士対策問題を解き、理解を深めます。	120

科目名	建築施工	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 必修	
担当教員	堀井 勝典			
開講期	前期			
授業概要	(１) 施工法の基礎的知識の理解☑ (２) 実際の建物（設計図・ＯＨＰ・ビデオ）の紹介☑ 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計会社社長を務め、その経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計会社社長を務める。			
達成目標	(１) 施工法の基礎的知識の理解☑ (２) 実際の建物（設計図・ＯＨＰ・ビデオ）の紹介			
受講資格	生活科学科建築デザインコース 3 年	成績評価 方法	出席（５０％） 試験（５０％）	
教科書	建築施工教科書			
参考書	特に指定しないが、資料を配付する。☑			
学生への要望	とにかく授業に出ること			
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館 2 階教務部内非常勤講師室）、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	序説	建築施工のあらまし、施工法の変遷について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	契約と見積	建築の見積・契約等の流れについて	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	工事計画・管理	工事計画・管理等の説明	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	仮設工事	何も作らない工事としての認識	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	基礎工事	土工事、山留工事、基礎工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	鉄筋コンクリート工事	鉄筋工事、型枠工事の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	鉄筋コンクリート工事	コンクリートの性質、調合について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	鉄筋コンクリート工事	コンクリート工事の検査体制	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	鉄筋コンクリート工事	施工、各種コンクリート工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	鉄骨工事	工事作業、現場作業のあらまし	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	木工事	現場施工、各種工法の概説	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について（その1）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	内外装仕上工事	各仕上げ工事の概要と施工法について（その2）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	付帯設備工事	生活に必要な設備工事について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	まとめ	施工法のまとめ。補足説明。	授業内容、配付資料を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	統計学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	前期		
授業概要	製品は一定の規格を満たすよう生産される。しかし個々の製品は基準値からのずれを有する。これらのずれを管理し一定の品質で供給するには統計学の知識が必要となる。また実社会で生じる様々な問題の原因を探求し解決する際には多変量解析などの手法が有効である。本講義では統計学を理解するための数学に始まり、基本的な統計処理や多変量解析について学ぶ。☒ フィードバックとして理解度確認ペーパーの返却・課題内容の説明等を行う。☒ ☒ 位置づけ・水準 HA2319		
達成目標	本講義では、実際に統計学の手法を適用できるようになることを目的とする。具体的な目標は（１）統計学で必要な数学を理解すること、（２）生産管理で用いられる統計学の考え方を理解すること、（３）統計処理ソフトを用いて基本的な仮説検定や適合度の検定を行うことができること、である。☒ ☒ 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力、問題解決力」		
受講資格	情報処理科目を履修してあることが望ましい。	成績評価 方法	成績評価はレポートと理解度確認ペーパーにより行う。レポートにより 成績の80%を評価し、理解度確認ペーパーの提出により成績の20%を評価する。
教科書	テキストを PDF として Web 上で配信する(同PDFの印刷物を授業時に配布する)。		
参考書	・村上 征勝,工業統計学,朝倉書店☒ ・前野 昌弘,三國 彰,図解でわかる統計解析,日本実業出版社☒ ・涌井 良幸,涌井 貞美,図解でわかる多変量解析,日本実業出版社		
学生への要望	事前に配布資料に目を通しておき、理解できない部分を確認しておくこと。自ら参考書等にあたり、筆算による確認や統計処理を行ってみること。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室☒ 水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。☒ アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	本講義で行う目的・内容・単位数・成績評価方法など説明を行う。また次回以降の講義に向けて、単位と次元について学ぶ。	本時の復習として、次元の有無によりデータの取り扱いにどのような影響があるか確認をすること。	20
2	統計数学基礎Ⅰ（指数関数・数列と極限・和と和の記号）	統計処理を理解するには、基礎的な数学を理解しておく必要がある。正規分布を理解する上で必要な指数関☒ 数と指数法則、および多数のデータを扱う上で必要な数列と和について学ぶ。	本時の復習として、指数法則の確認を行うこと。また一般項が明らかである数列を和の記号を用いて書き直してみること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
3	統計数学基礎Ⅱ（確率）	統計の基礎には確率概念がある。確率の概念を理解するために、まず場合の数（順列と組合せ）を学ぶ。次に☒ 確率 変数と確率の考え方を理解する。	本時の復習として、順列と組み合わせの場合の数を階乗を用いて表し、具体例で成立していることを確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	90
4	統計数学基礎Ⅲ	基本的な統計量として平均値や標準偏差がある。これまで学んだ確率変数や確率の概念を用い、平均値の計算方法を学ぶ。さらに統計処理で重要な分散と標準偏差を理解し、具体的な計算方法を学ぶ。	本時の復習として、統計ソフトウェアや表計算ソフトウェアを用い、具体的なデータの平均・分散・標準偏差を求めてみること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	90
5	統計数学基礎Ⅳ（ベクトルと行列）	実際の統計処理ではデータをベクトルや行列により表現することが多い。統計処理を正しく行うためには、ベクトルや行列についての基礎事項を理解しておく必要がある。本時ではベクトルおよび行列の基礎事項について学ぶ。	本時の復習として、ベクトルの和とスカラー倍および行列の和と積について確認すること。さらに2行2列で行列の積の計算を行ってみること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	統計数学基礎Ⅴ(行列の演算・逆行列・固有ベクトル・固有値)	行列の形式で表現されたデータからの特徴量などを抽出するために、行列の対角化が行われることが多い。対角化を理解するためには固有値や固有ベクトルの理解が欠かせない。そこで本時では、行列の演算に必要な逆行列および固有ベクトルと固有値について、これらの量がどのような意味を有するのか学ぶ。	本時の復習として、固有値と固有ベクトルの定義を確認すること。さらに2行2列で行列で固有値と固有ベクトルを求めてみることに。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	90
7	統計処理ソフト	現在の統計処理では大量のデータを扱うため、コンピュータを用いてデータ処理を行う。これらの統計処理を行うソフトウェアは多々あるが、本講義では近年用いられていることの多い統計処理ソフトRを採用し、統計処理ソフトの使い方を学ぶ。ここではデータ処理を行う上で必須である、データの読み込みや特定行の取り出しなどの基礎的な扱いを学ぶ。	本時で行った操作を再度行い、データの読み込みなどの操作をできるようにすること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
8	データの種類と統計量	データには定性的なものと定量的なものがある。これらの区別(尺度水準)について学ぶ。また多くのデータがある場合に、データの特徴を掴む方法として計算によって得られる数値を利用する方法がある。良く用いられる数値に最頻値・中央値・平均値などがあり、これらの量は要約統計量と呼ばれている。ここでは複数の要約統計量の特徴を学び、要約統計量を算出する方法を学ぶ。さらに統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータの要約統計量を算出する。	本時の復習として、尺度水準と要約統計量の整理を行うこと。また統計処理ソフトウェアを用いて、サンプルデータの要約統計量を再計算してみることに。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
9	不偏標準偏差・相関係数	中心極限定理から、統計学において正規分布は特別な意味をもつ。正規分布を特徴付ける平均値と標準偏差は、データからはデータの平均値と不偏標準偏差を計算することによって得られる。ここでは不偏標準偏差の意味とその算出方法を学ぶ。また分散を拡張した共分散を学び、さらに関係性の指標として重要な相関係数を学ぶ。また統計処理ソフトウェアを用いて、実際に相関係数を算出してみることとする。	本時の復習として、不変標準偏差および共分散の定義を確認すること。またサンプルデータから相関係数を再計算してみることに。☒ ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
10	ヒストグラム・散布図	数値データは直感的に分かりにくいことが多いため、グラフを作成することでデータの内容を捉えやすくなる。ここでは統計処理ソフトウェアを用いてヒストグラムおよび(対)散布図の作成方法について学ぶ。また作成した図の保存方法なども学ぶ。	本時の復習として、統計処理ソフトウェアによりヒストグラムおよび散布図を再描画してみることに。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
11	回帰	二つの変量間において関係があるかいないかを知りたいことは多い。この関係を調べる際に用いられる方法が最小二乗法である。ここでは最小二乗法とはどのような考えに基づく方法であるのか、また使用する際の注意点はなにか学ぶ。さらに統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータに最小二乗法を適用し、回帰直線を求めることとする。	最小二乗法の考え方を復習し、統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータに最小二乗法を適用してみることに。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
12	検定	仮説検定は統計学の中でも中心的な位置を占める。ここでは検定の考え方を学び、帰無仮説や有意水準の概念を理解する。仮説検定では正規分布が重要な役割を担うため、正規分布の形状はどのように定まっていたか復習する。また実際のデータで正規分布に基づく仮説検定を行う際に行うべき正規性のチェック方法を学ぶ。また統計処理ソフトウェアを用いてサンプルデータが正規分布に従うか確認する。	本時の復習として、帰無仮説および有意水準の考え方を再確認すること。またサンプルデータで正規性の確認を行ってみることに。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	平均値の検定 (パラメトリック検定)	データを得た場合に二つの群での平均値が一致しているか否かが問題となることが多い。しかし例え同一の集団から得られるデータであっても、データから得られる平均値は一致しない。このため二つの群の平均値が一致しているのか検討する必要が生じる。ここでは平均値の検定のうちパラメトリックな検定をデータに適用し、平均値の検定の仕方を学ぶ。実際に統計処理ソフトウェアを用いて平均値の検定を行うこととする。	本時の復習として、授業で行った検定を、再度自分で行い結果を確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
14	適合度の検定	理論と実験結果が一致しているか、あるいは二つの変量に相関があるかなどを知りたいことは多い。この際に用いられる方法が適合度の検定および独立性の検定である。ここでは適合度・独立性の検定の基礎的な考え方と、実際のデータへの適用の仕方を学ぶ。本時では、実際に統計処理ソフトウェアを用いて適合度の検定を行うこととする。	本時の復習として、適合度の検定の考え方を確認し、授業で行った検定を再度自分で行ってみること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
15	統計処理結果の記述方法	統計処理を行った場合、どのような処理を行ったか、その結果どうであったかを適切に記述しなければならない。適切な情報伝達ができるように、統計処理に伴う文章の記述の仕方について学ぶ。また本時においてレポート課題を課す。	授業内容に則し、課題を実施しレポートとしてまとめること。	300

科目名	家庭電気・機械	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択	
担当教員	石原 正道			
開講期	後期			
授業概要	日常では様々な機器を利用することで、日々の生活を快適に過ごすことができる。これらの機器は便利ではあるが、一方で使い方を誤ると危険でもある。本講義では、機器を有効かつ安全に利用でき、機器の維持管理を行えるよう、日常生活で利用している機器について動作原理・構造・注意点を学ぶ。 ☒ フィードバックとして理解度確認ペーパーの返却・課題内容の説明等を行う。 ☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2340			
達成目標	本講義では機器の原理および構造を理解するために、(1)基本的な物理法則の理解すること、(2) 機械の動作原理の理解すること、(3) 家電製品の動作原理の理解すること、を目標とする。 ☒ ☒ 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解			
受講資格	なし。	成績評価 方法	課題(理解度の確認) 2 回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、理解度確認ペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚（表裏記入可）のみに限る。成績評価の観点は、 1) 基本的な物理法則の理解、2) 機械の扱い方や構造や原理の理解、 3) 家電製品の動作原理の理解、である。科目の特性から、とくに 2) と 3) に重点を置く。	
教科書	適宜プリントを配布する。			
参考書	・池本 洋一, 吉田 章, 家庭機械・電気・電子, 理工学社 (1996) ☒ ・小暮 陽三, 物理で読みとく フシギの世界, 日本実業出版社 (2002) ☒ ・横田 俊昭, ぶつり学, 共立出版 (1993)			
学生への要望	基本的な物理を理解していることが望ましい (科目「生活物理学」を履修していることが望ましい)。			
オフィスタイム	水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室 ☒ 金曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室 ☒ 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 ☒ アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	講義の目的・内容・成績評価の方法・資格との関係などの説明を行う。次回以降の準備として、数学の基礎事項(比率・指数・接頭辞・比例と反比例)を復習する。	本時の復習として冪乗の計算および比例・反比例の変数間の関係を確認すること。	15
2	基礎物理	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原理解を学ぶ。状態の記述に必要な位置・速度・加速度の概念を復習したのち、運動の記述に必要な力や、保存則と関係する運動量・角運動量の基礎事項を学ぶ。	本時の予習として冪乗の計算および比例・反比例の変数間の関係を確認しておくこと。また本時の復習として力・運動量・角運動量の定義を調べておくこと。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
3	基礎物理および機械の構成要素	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原理解を学ぶ。モーメント・仕事・仕事率・エネルギー・エネルギー保存則の基礎事項を学ぶ。これらの基礎事項を学んだのちに、機械の構成要素(道具やリンク機構)を学ぶ。本時では様々な道具を実際に触ることで道具への理解を深めることとする。またノギスやマイクロメーターを用いて様々な物体の長さ・厚さ・深さを測り、道具の使用方法を学ぶ。	本時の予習として力・運動量・角運動量の定義を確認しておくこと。本時の復習として各保存則とリンク機構について確認しておくこと。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
4	機械の構成要素	機械の構成要素としてベルト・チェーン・歯車・軸などを学ぶ。また回転とモーメントの関係や仕事の原理とシーソーやギアなどの機構の関係を学ぶ。	本時の復習として、配布されている資料と授業内容をもとに機械の構成要素について整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	熱力学基礎	人間は有限温度中で生活し、実生活では熱を扱う機会が多い。そのため機器でも熱を扱うものが多い。ここでは熱や温度とは何かを復習し、動作原理を理解するための基礎となる理想気体の状態方程式を理解することとする。また熱に関する基本的な法則である熱力学第一法則・第二法則についても概略を学ぶ。	本時の復習として熱力学の第一法則および第二法則の内容を確認すること。また日常現象に熱力学の法則がどのように関連しているか確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
6	熱を利用した機器	燃焼に関係する器具や機関について学ぶ。バーナーやヒーターといった気体や液体燃料を利用する燃焼器具、内燃機関と外燃機関の違い、内燃機関であるエンジンの基本動作などについて学ぶ。	本時の復習として、本時で扱った器具や機関の仕組みを整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
7	ヒートポンプ	実生活では温度を適切に調整することが必要な場合がある。ここでは熱力学の観点からヒートポンプの原理を理解し、ヒートポンプの特徴を学ぶ。とくに効率の観点からヒートポンプの優位性を理解し、ヒートポンプの利用例を知ることとする。	本時の復習として、ヒートポンプのサイクルにおける各過程での熱の出入り及び温度の高低を再確認すること。またヒートポンプの特徴を再確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
8	冷蔵庫	現代の家庭では、冷蔵庫は必須の電気機器である。冷蔵庫はヒートポンプを応用した冷蔵庫のほか、様々なタイプの冷蔵庫があることを学ぶ。また、それぞれの冷蔵庫の冷却原理について学び、どのような特徴があり、どのような場所で使用されているのか学ぶ。	復習として、冷却方法を整理すること。また電気冷蔵庫の冷却方法とヒートポンプのサイクルにおける過程を対応をまとめてみる。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
9	課題 1	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。	120
10	電磁気の基礎と電気の伝達	日常機器の殆どは電気を利用して動作する。このため日常機器の動作を理解するには電磁気の基本的な性質を理解しておく必要がある。ここでは電気・磁気・電磁波などの電磁気の基礎的な概念や性質を学ぶ。また電気を伝達する上での注意事項を学ぶ。	本時の復習として、電気と磁気の関係や電磁気学における各種法則について整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
11	電力生成と蓄電	電気のエネルギーは便利なエネルギー形態である。しかし現在の技術では、多くの電気によるエネルギーを蓄えておくことは容易でない。このため、必要に応じて他のエネルギーを電気のエネルギー(電力)に変換する必要がある。電力は発電所で作られていると考えがちであるが、家庭でも電力を生成することがある。電気を利用した機器を理解するため、ここでは電力の生成方法や蓄電方法について学ぶ。	本時の予習として、本授業の前半で学んだエネルギー保存則を確認しておくこと。本時の復習として、電力生成を電磁気学の基本法則で説明できるよう、電力生成の原理を確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
12	電磁気を利用した調理システム	家庭における電磁気を利用した器具に調理器がある。ここでは電気あるいは磁気を利用した調理器である、電磁調理器(IH)・電気炊飯器・電子レンジの動作原理を学ぶ。動作原理を知ること、これらの機器の危険な面も理解することとする。	本時の復習として、誘導加熱と誘電加熱の原理を確認すること。また両加熱方法の違いを確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
13	電気を利用した発光システム	現代社会において灯りは必須のものである。ここでは光を供給する電球・蛍光灯および近年使用されることの多い、Light Emitting Diode(LED)の仕組みを学ぶ。それぞれの製品の特徴を掴み、適切な使用ができるよう理解をはかる。本時では圧電素子や電子レンジを利用して蛍光灯を光らせる簡易実験を行い、蛍光灯の発光原理を理解する。また本簡易実験により、前回の授業で学んだ電子レンジの加熱原理を確認する。	本時の復習として、発光原理とエネルギーの利用効率について整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	ディスプレイと情報の記録	液晶等が実用化されたことで、ディスプレイの厚さは極めて薄くなり取り扱いが簡単になった。ここでは広く用いられている液晶などの原理を学び、どのような機器に用いられているか学ぶ。また、これまで情報を記録するには紙媒体が使用されてきたが、コンピュータの普及に伴い、情報を電子媒体に記録されることが増えてきている。ここでは情報の記録方法について、機械と磁気の観点から学ぶことにする。	本時の復習として、本時で説明したデータ保存用の機器の実物を、Webなどで確認すること。またその際に示されている接頭辞を確認すること（接頭辞は本授業当初の説明事項である）。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
15	課題2	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。	120

科目名	人間環境学	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 必修/家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択 /家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択	
担当教員	影山 志保			
開講期	後期			
授業概要	生命の維持には空気・水・食品の摂取が必須であることから、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。具体的な環境汚染例としては、ダイオキシン等の有機塩素系化合物や、水俣病の原因物質であるメチル水銀、そして発がん性マイコトキシンであるアフラトキシン、催奇形性でよく知られた医薬品のサリドマイドを事例として、毒性物質の作用機序について、栄養素の代謝などと比較して、学んでいく。[課題に対するフィードバック方法]レポート、課題発表に対しては紙面あるいは口頭によるコメント等のフィードバックを行います。[位置づけ・水準]HL2341			
達成目標	この講義では生活環境である空気・水・土壌に着目し、生活環境を汚染している環境汚染物質が、食品や飲料水を介して、人間の健康にどのような問題を起こすのかについて実生活にあてはめ考えていくことを目標としており、内容の8割を理解していること。 [ディプロマポリシーとの関連] 知識・理解力、問題解決能力			
受講資格	特になし	成績評価 方法	①期末試験100点☑	
教科書	印刷資料提供			
参考書	薬理学関係の書物			
学生への要望	健康生活に必須である生活環境と食品の問題点について学び、実生活中に生かしてもらいたい。			
オフィスタイム	月曜日、火曜日、水曜日の5コマ目 食品衛生学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	金属元素	食品汚染が問題となった公害として、水俣病・新潟水俣病（メチル水銀）、イタイイタイ病（カドミウム）、ヒ素ミルク事件（ヒ素）がある。環境問題の原点である水俣病の記録映像をまじえて、公害問題について学ぶ。	日本の公害問題にどのようなものがあるのか調べる。	60
2	食品と金属元素	栄養金属元素（K,Na,P,Cl）、毒性金属元素（Hg,As,Cd,pb）、重金属の生体内挙動、食品に含まれる金属とその量、TDI（耐用一日摂取量について学ぶ。	特に日本の環境問題の原点である水俣病と、特に毒性金属元素と人体影響について調べる。	60
3	有機塩素系芳香族化合物	農薬の人体傷害である殺虫剤（DDT,BHC）、除草剤（PCP,2,4,5-T,CNP）、殺菌剤（クロルフェノール）とPCB、ダイオキシンで知られている有機塩素系芳香族化合物による人体傷害について学び、問題点について考える。	農薬の中の有機塩素系芳香族化合物と人体障害性や問題点について調べる。	60
4	食品と有機塩素系芳香族化合物	化学物質の特徴、塩素化による化学変化、有機塩素系芳香族化合物の生体内挙動、多様な毒性、食品中に含有する有機塩素系化学物質とその量について学ぶ。☑	有機塩素系芳香族化合物の塩素化による化学変化、生体内挙動、毒性、食品中に含有する有機塩素系芳香族化合物の量について調べる。	60
5	大量使用による化合物汚染	人間生活で大量に使用されている化学物質の環境と人体への影響について、大気・水質・土壌汚染の具体的な事例から問題点を学ぶ。	生活の中で多用されている化学物質と環境影響について調べる。	60
6	免疫機構と食物アレルギー	免疫機構（免疫組織、T細胞、体液性免疫、細胞性免疫、樹状細胞）と食物アレルギーについて学ぶ。	食物アレルギーとヒトの免疫機構について調べる。	60
7	食品への健康影響	食品の空気酸化（果物の褐変、魚肉の黒ずみ、高度不飽和脂肪酸の過酸化、小麦の酸化と食品添加物の酸化防止剤）と野菜と土壌肥料（野菜栽培上の要素欠乏と過剰）について学ぶ。	食品の空気酸化について調べる。	60
8	水と調理1	上水道の役割と問題点、原水浄化法、塩素消毒による発ガン性化合物トリハロメタンについて学ぶ。	自分たちが日常使用している上水道の水源と水源とその地域の産業の問題、原水を塩素処理する時の問題点について調べる。	60
9	水と調理2	水道水の製造、トリハロメタンの発生機構と除去方法、生活排水と下水処理について学ぶ。	水道水の製造時に発生する発がん性化合物のトリハロメタンについて調べる。	60
10	サリドマイド1	サリドマイドベビーに関するスウェーデンの記録映像から、催奇形とその発現機構について詳細に学ぶ。	催奇形について調べる。	60
11	サリドマイド2	胎盤血管閉塞に関する知識を身につけ、各種化学物質の催奇形性に関する資料を参考に妊娠と医薬品について考える。	妊娠期と医薬品について、投薬時の留意点やどんな問題があるのか調べる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	内分泌攪乱化学物質	ペプチドホルモンと低分子ホルモン（甲状腺ホルモン・ステロイドホルモン）、それらのホルモンの情報伝達方法、低分子ホルモンの類似物質である内分泌攪乱化学物質について学ぶ。	ホルモンの働き、内分泌かく乱がなぜ起こるのか調べる。	60
13	遺伝子操作作物と狂牛病	遺伝子操作作物（GMO）の実態と食品表示、GMOが生産したタンパク質が問題となる理由について学ぶ。また、狂牛病の病原物質である病原物質プリオンについて学ぶ。	遺伝子組み換え作物の現状、食品表示のルールを調べる。また、狂牛病について調べる。	60
14	生体と化学物質1（毒素）	毒素の作用機構、受容体での結合、毒素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。	毒素がどのように体で吸収し、作用するのか調べる。	60
15	生体と化学物質2（栄養素）	栄養素の作用機構、受容体での結合、栄養素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。	栄養素がどのように体で吸収し、作用するのか調べる。	60

科目名	人間環境学実験	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 1単位 選択	
担当教員	影山 志保			
開講期	前期			
授業概要	人間の生命の維持には空気・食品・水の摂取が必須であり、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。この実験では生活環境の測定と評価、水の分析、体に付着している微生物、放射線の問題および食品腐敗微生物といった様々なテーマから人間環境を相対的に考えていく。[課題に対するフィードバック方法]レポート、課題発表に対しては紙面あるいは口頭によるコメント等のフィードバックを行います。[位置づけ・水準]HL2342			
達成目標	この実験では私たちと私たちを取り巻く環境を実際に測定し、対象に対する理解を深め、問題点を明らかにし、解決法を考え提案することを目標としている。内容の8割を理解していること。 [ディプロマポリシーとの関連] 知識・理解力、問題解決能力、総合的な学習経験、創造的思考			
受講資格	なし	成績評価 方法	①レポート20点☑ ②プレゼンテーション80点	
教科書	印刷資料配布			
参考書	①水の分析 日本分析化学会北海道支部編（化学同人）☑ ②環境微生物の測定と評価 山崎省二編（オーム社）☑ ③カラーアトラス環境微生物 山崎省二編（オーム社）			
学生への要望	分析機器類、薬品やガス、環境中の微生物や毒性物質を取り扱うため、白衣を着用し機敏な行動をしてもらいたい。なお、実習にはPCを持参すること。実習室内には実習に使用しない物品などは持ち込まない。実習室での飲食は禁止する。実習終了後は実習室の清掃をお願いしたい。			
オフィスタイム	月曜日、火曜日、水曜日の5コマ目☑ 食品衛生学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	人間環境学実験では生活環境である空気・水・土壌、食品と人に注目し、生活環境を汚染している環境汚染物質や食品が人間の健康にどのような問題を起こすのかについて、実際の測定を通して考えていく。ガイダンスでは授業内容の説明、実験方法の説明、機器使用方法の説明、成績評価方法についての説明を行う。☑	生活環境を汚染している環境汚染物質について調べ、まとめる。	30
2	生活環境の測定と評価-1（空中・土中微生物採取と培養、粉塵測定、放射線測定）	環境中には細菌、真菌、ウイルスなどの多種多様の微生物が存在しており、空気中浮遊粉じんの吸入では肺の病気や細菌感染症、ぜんそくや気管支炎、花粉症が生じることがあることから、私たちの生活環境中の粉塵の測定と、どんな微生物が生息しているかについて調べる。併せて放射線量についても測定する。まずこの時間は空中・土中微生物の採取の培養を行う。採取した土壌は風乾し、放射線測定の試料とする。測定項目についてその測定意義と分析値についてはその都度説明する。	細菌、真菌、ウイルスなどの微生物が原因として発症する感染症を調べ、まとめる。	30
3	生活環境の測定と評価-2（空中・土中微生物採取と培養、粉塵測定、放射線測定）	前回採取した粉塵や土壌の放射線量の測定を行う。まず、風乾土壌を0.5μmの篩でふるい、ゲルマニウム半導体検出器で放射線測定を行う。測定項目についてその測定意義と分析値についてはその都度説明する。	生活環境周辺の土壌にはどんな種類のものがあるのか、調べながら採取する。	30
4	生活環境の測定と評価-3（空中・土中微生物の観察）	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。	生活環境中にいる細菌、真菌、ウイルスの名前を調べ、まとめる。	30
5	生活環境の測定と評価-4（空中・土中微生物の観察）	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。	細菌、真菌、ウイルスなどの名前を調べる方法をまとめる。	30
6	生活環境の測定と評価-5（空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の評価）	空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の結果を解析し、その関連性について考える。	細菌、真菌、ウイルスはどこなところに存在しているのか、病気と関連づけながら調べ、まとめる。	30
7	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う。	生活環境中の微生物についてまとめる。	30
8	発表会	空中や土壌中の粉塵・微生物・放射線の結果を中心にプレゼンテーションを行う。	生活環境とそこに生存する微生物についてまとめ、自分の住んでいる環境について評価する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	水-1（水の分析）	水は我々の生活に欠かせない物質であり、生活用水、工業用水、農業および漁業などの多方面にわたって利用されている。我々が利用する水は循環しており、その中には天然水、排水および下水も含まれることから、私たちは水質について十分に知っておく必要がある。身近な水を採取し、物理的性質（pH、水温、透視度、濁度、電気伝導率、溶存酸素、塩分濃度）、化学的性質（COD、アンモニア窒素、亜硝酸イオン、硝酸イオン、リン酸イオン）、一般細菌および大腸菌数の計測について行う。	生活の中で水はどのような場面で利用されているかについて調べ、まとめる。	30
10	水-2（水の分析）	引き続き採取した水の物理的性質（pH、水温、透視度、濁度、電気伝導率、溶存酸素、塩分濃度）、化学的性質（COD、アンモニア窒素、亜硝酸イオン、硝酸イオン、リン酸イオン）、一般細菌および大腸菌数の計測について行う。	水の汚染を調べるときに、どのような項目を分析しているか、またその項目を分析する意味について調べ、まとめる。	30
11	水-3（水中微生物の観察）	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。	飲料水の水質基準について調べ、まとめる。	30
12	水-4（水虫微生物の観察）	微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。	水に生息する微生物で病気を起こすものについて調べ、まとめる。	30
13	水-5（水の評価）	水分析の結果と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。	水が起因となる病気の実例について調べ、まとめる。	30
14	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う	水質分析結果についてまとめる。	30
15	発表会	水と水中微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。	水と水に生存する微生物についてまとめ、自分の利用している水について評価する。	30
16	人体付着微生物-1（付着微生物の採取と培養）	人体や衣類に付着している微生物（細菌・かび）を培養するにあたり、トリプチケースソイブロスを作成する。ここでは器具や培地を無菌的に作るために、無菌操作や滅菌の手法について学ぶ。また、人体や衣類に付着している微生物（細菌・かび）をスタンプ法により採取し培養する。	微生物を培養する培地と無菌操作について調べ、まとめる。	30
17	人体付着微生物-2（付着微生物の採取と培養）	人体や衣類に付着している微生物（細菌・かび）をスタンプ法により採取し培養する。	培地を用いた微生物を採取する方法について調べ、まとめる。	30
18	人体付着微生物-3（付着微生物の観察）	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。	人体や衣類に付着している微生物について、文献を調べ、まとめる。	30
19	人体付着微生物-2（付着微生物の観察）	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。	衣類の微生物数から洗濯の頻度について考え、まとめる。	30
20	人体付着微生物-3（付着微生物の評価）	人体付着微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。	衣類の衛生管理について考え、まとめる。	30
21	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う	衣類の微生物についてまとめる。	30
22	発表会	人体付着微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。	衣類に生存する微生物についてまとめ、よりよい衛生管理の方法や頻度をまとめよう。	30
23	食品腐敗微生物-1（食品中の微生物の培養）	食品中の生菌数は食中毒と品質劣化（腐敗）の重要な指標となる。食中毒は、微生物が食品中で増殖または毒素を生産した食品を人が摂食することで起こるが、汚染され病原微生物の中には、少ない菌数で食中毒を引き起こす食中毒菌もいる。この実験授業では、腐敗した食品を0.9%滅菌生理食塩水中に懸濁したあと、懸濁液1mlをトリプトソーヤ寒天培地中に混釈し、37℃48時間培養後、食品中の生菌数を計測する。	食品中の品質劣化の原因と食中毒事件を起こす生菌数について調べ、まとめよう。	30
24	食品腐敗微生物-2（食品中の微生物の培養）	腐敗した食品を0.9%滅菌生理食塩水中に懸濁したあと、懸濁液1mlをトリプトソーヤ寒天培地中に混釈し、37℃48時間培養する。	食品の微生物検査の手法について調べ、まとめる。	30
25	食品腐敗微生物-3（食品腐敗微生物数の計測と観察）	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。	食中毒を起こす細菌の種類について調べ、まとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	食品腐敗微生物-4（食品腐敗微生物の観察）	前回培養した微生物数を計測し、微生物種の同定（グラム染色、顕微鏡観察）を行う。	食中毒を起こす細菌の生育環境と温度条件、特性について調べ、まとめる。	30
27	食品腐敗微生物-5（食品腐敗微生物の評価）	食品中の微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。	食品の微生物数と結果について過去の事例を文献により調べ、まとめる。	30
28	食品腐敗微生物-6（食品腐敗微生物の評価）	食品中の微生物数と微生物の観察結果を解析し、その関連性について考える。	食品と食品の品質劣化について調べ、まとめる。	30
29	発表会の準備	発表の準備としてプレゼンテーションの作成を行う。	食品腐敗微生物についてまとめる。	30
30	発表会	食品腐敗微生物の結果を中心にプレゼンテーションを行う。	食品腐敗微生物についてまとめ、よりよい衛生管理の方法や注意点をまとめよう。	30

科目名	福祉住環境	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	前期			
授業概要	現代社会における高齢者および障がい者の生活や住まいの問題、社会制度、福祉用具等について理解し、さまざまな側面から社会生活について考察する。医療や福祉、建築について体系的で幅広い知識と専門能力を身に付け、高齢者や障がい者に対して住みやすい住環境を提案する能力を養う。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。位置付け・水準 HL2238			
達成目標	クライアントに適切な住宅改修プランを提示する能力と福祉用具や諸施策情報等についても助言できるような知識を身に付ける。単位認定の最低基準は下記①～④の7割達成していること。☒ ①高齢者及び障がい者の住まいにおける問題を発見する。☒ ②介護福祉制度について理解する。☒ ③さまざまな福祉用具の特徴を理解し活用することができる。☒ ④住宅改修に関わる知識や技術を理解する。☒ ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力・問題解決力」「倫理観社会的責任」			
受講資格	人間生活学科 生活総合コース・建築デザインコース	成績評価 方法	①期末試験 80％☒ ②確認テスト 20％	
教科書	福祉住環境コーディネーター新版公式テキスト			
参考書	その都度、提示する。			
学生への要望	予習・復習をして授業に臨むこと。			
オフィスタイム	家政学館4F 生活科学研究室生活科学研究室☒ 月曜Ⅰ・Ⅱ時限（8：50～12：00）☒ 木曜Ⅰ時限（8：50～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業内容の説明。☑ 福祉住環境コーディネーターの役割について。☑ 住環境整備の留意点。	住環境整備の留意点を整理する。	60
2	高齢者・障がい者を取り巻く環境 1	総人口や世帯数、高齢化率の推移等を把握する。また、改正介護保険制度に関する内容を改正点も踏まえつつ具体的なサービスの種類などについて学ぶ。さらに住宅施策の変遷や具体的な住宅施策についても世代別に名称や内容を理解する。	介護保険制度について理解を深める。	60
3	高齢者・障がい者を取り巻く環境 2	障がい別の障がい者数や在宅・施設の割合、身体障がい者のバリアフリー化の状況について把握する。また、障がい者自立支援法にもとづくサービスの概要について理解し、障がい者向け住宅施策の変遷の概要と建設行政と福祉行政のおおまかな流れについて学ぶ。	高齢者・障がい者を取り巻く環境を理解する。	60
4	障がいの定義・捉え方と自立支援 1	障がいの捉え方・リハビリテーションと自立支援について学ぶ。特に、リハビリテーションのあり方をはじめ、地域ケア、地域リハビリテーションの必要性について理解する。	地域ケア、地域リハビリテーションの重要性を理解する。	60
5	障がいの定義・捉え方と自立支援 2	高齢者や障がい者の身体的、精神的特性、心理的特性について理解する。	高齢者および障がい者の特性について理解する。	60
6	疾患別・障がい別にみた不自由と住環境整備 1	運動機能や記憶力、知能などが加齢とともにどのように変化するのかを理解する。	疾患別に見た住環境について理解を深める。	60
7	疾患別・障がい別にみた不自由と住環境整備 2	高齢者の疾患について学ぶ。☑ また、要介護状態の要因といわれる脳血管障害や廃用症候群、認知症などについて、よく理解する。	高齢者の疾患と住環境について理解を深める。	60
8	疾患別・障がい別にみた不自由と住環境整備 3	肢体不自由の脊椎損傷、内部障害、視覚障害、聴覚言語障害について学び、各障がい別の不便・不自由を理解することで、住環境整備の留意点を理解する。	疾患別・障がい別に見た住環境整備について理解を深める。	60
9	在宅での福祉用具の活用	福祉用具の定義をはじめ、福祉用具の選択や適応における基本姿勢について学ぶ。また、各用具の目的、構造、種類を学び、住宅改修と福祉用具を併用することでより快適な住環境を実現できることを理解する。	福祉用具の種類や選択について理解し、住環境整備との併用について考える。	60
10	相談援助と福祉住環境整備	相談援助の基本的な考え方を踏まえ、より実践的な福祉住環境整備相談の進め方について学ぶ。	住環境整備を実践につなげるための基本的考え方について理解を深める。	60
11	福祉住環境整備の技術と実践 1	福祉用具を活用しながら体験学習を行い、住環境整備を実現するための知識を養う。	福祉用具を活用し、体験学習した内容についてレポートにまとめる。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	福祉住環境整備の技術と実践 2	段差解消の手法や建具や把手の種類、スペースの配慮など、住環境整備の基本技術を理解する。	住環境整備の基本技術と方策について理解する。	60
13	福祉住環境整備の技術と実践 3	外出から就寝までに関わる住環境整備について学ぶ。動作別にどのような配慮が必要となるのか、住環境整備の視点から考察する。	動作別に住環境整備の配慮点について整理する。	60
14	福祉住環境整備の技術と実践 4	排泄や入浴動作などに関連する水回りの住環境整備について学ぶ。	水回りの住環境整備についてその配慮点を整理する。	60
15	現代社会に望まれる住環境とは	これまでに学んだことを通して、住環境整備とその必要性についてディスカッション・説明を行った後、ペーパーテストを行う。また、ペーパーテストの解説も行う。	社会的問題と福祉住環境整備の必要性について考察する。	90

科目名	建築設計製図Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 8単位 必修
担当教員	阿部 恵利子,長田 城治,高橋 真里		
開講期	通年		
授業概要	前期では、二級建築士程度の図面を時間内で設計し、完成させる能力を身につけることを目標とします。☒ 後期では、一級建築士製図試験問題を通して、鉄筋コンクリート造の概要を理解することと、オリジナルの一級建築士設計製図問題程度の図面を作成する力を養います。次にCADの基本操作を学び、オリジナル設計をCADで仕上げることを目標とします。☒ また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけます。☒ 課題はコメントによるフィードバックを行い、学年末に返却します。☒ 位置づけ・水準 HA2222		
達成目標	【履修カルテ】 ①二級建築士製図試験内容程度の木構造、鉄筋コンクリート構造の図面を時間内に完成させることができたか。☒ ②一級建築士製図試験内容程度の鉄筋コンクリート構造の図面を時間内に完成させることができたか。☒ ③CADで基礎的な図面を仕上げる事ができたか。☒ 単位認定最低基準：「各種構造を理解した図面が作成できること、指導内容の7割を達成していること」☒ ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力・問題解決力」		
受講資格	建築デザインコース2年	成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80％、授業への取り組み、意欲20％
教科書	『新しい建築の製図』学芸出版社『コンパクト建築設計資料集成』日本建築学会、彰国社☒ その他プリントを配布		
参考書	住宅雑誌等		
学生への要望	空き時間に製図を描く練習をするように心がけて下さい。		
オフィスタイム	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14:30～16:00☒ 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10:30～12:00☒ 阿部：家政学館4F 生活科学研究室 長田：本館1F No.2 住居学研究室 高橋：家政学館4F 生活科学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス 担当：阿部・長田・高橋※担当教員は最低2名以上で指導する。	ガイダンス（前期授業目標等）☒ これからの授業のすすめ方、課題への取り組み方について説明する。また、設計図の種類やそれぞれの役割、図面制作にあたって必要な心構えについて述べる。図面には「正確・速さ・綺麗」が要求されることを理解する。☒	課題1作成	60
2	課題1 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成☒ 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。☒	課題1作成	60
3	課題1 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成☒ 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。☒	課題1作成	60
4	課題1 「木造住宅トレース」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成☒ 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。☒	課題1作成	60
5	課題1 「木造住宅トレース」提出 担当：阿部・長田・高橋	図面作成☒ ・提出☒ ☒ 二級建築士試験程度の図面を写し、表記方法、計画上のポイントを学修する。☒	課題1作成	120
6	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・エスキスチェック☒ 二級建築士試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。☒ ☒	課題2作成 エスキス	60
7	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック☒ 二級建築士試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。☒ ☒	課題2作成 エスキス	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	エスキスチェック☑ 二級建築試験程度の課題条件の建物についてオリジナル設計を行い、プランニング力を身につける。☑ ☑	課題2作成 エスキス	60
9	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ ☑	課題2作成 作図	60
10	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ ☑	課題2作成 作図	60
11	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ ☑	課題2作成 作図	60
12	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ ☑	課題2作成 作図	60
13	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ ☑	課題2作成 作図	60
14	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ ☑	課題2作成 作図	60
15	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ ☑	課題2作成 作図	120
16	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ ☑	課題2作成 作図	120
17	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ ☑	課題2作成 作図	120
18	課題2 「木造2階建て住宅オリジナル設計1」提出 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成・提出 ☑	課題2作成 作図	120
19	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・平面図、立面図、矩計図の作成☑ 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。	課題3作成	120
20	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。	課題3作成	120
21	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。	課題3作成	120
22	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。	課題3作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。 担当：阿部・長田・伊藤	課題3作成	120
24	課題3 「木造2階建て住宅オリジナル設計2」提出 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成・提出☑ 二級建築士試験と同じ作図時間である4.5時間で図面を仕上げる。☑	課題3作成	120
25	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・平面図、立面図、矩計図の作成☑ 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。☑ ☑	課題4作成	60
26	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。☑ ☑	課題4作成	60
27	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。☑ ☑	課題4作成	120
28	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。☑ ☑	課題4作成	120
29	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成☑ 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。☑ ☑	課題4作成	120
30	課題4 「木造2階建て住宅オリジナル設計3」提出 担当：阿部・長田・高橋	平面図、立面図、矩計図の作成・提出☑ 課題3で作図した図面を1:50のスケールで描き直す。縮尺に沿った図面表記方法を身に付ける。	課題4作成	120
31	授業ガイダンス・課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	ガイダンス（後期授業目標等）・課題説明 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を書し、表記方法、計画上のポイントを学修する。☑ ☑	課題5作成	60
32	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集☑ 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を書し、表記方法、計画上のポイントを学修する。☑ ☑	課題5作成	60
33	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集☑ 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を書し、表記方法、計画上のポイントを学修する。☑ ☑	課題5作成	60
34	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集☑ 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を書し、表記方法、計画上のポイントを学修する。☑ ☑ ☑ 担当：阿部・長田・伊藤	課題5作成	60
35	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集☑ 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を書し、表記方法、計画上のポイントを学修する。☑ ☑	課題5作成	120
36	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集☑ 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を書し、表記方法、計画上のポイントを学修する。☑ ☑	課題5作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
37	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集☑ 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、 計画上のポイントを学修する。☑ ☑	課題5作成	120
38	課題5 「RC造ラーメン構造トレース」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集☑ 一級建築士試験程度の図面（RC造版）を写し、表記方法、 計画上のポイントを学修する。☑ ☑	課題5作成	120
39	課題6 「複合施設トレース」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・図面作成☑ 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法 を習得する。☑ ☑	課題6作成	120
40	課題6 「複合施設トレース」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成☑ 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法 を習得する。☑ ☑	課題6作成	120
41	課題6 「複合施設トレース」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成☑ 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法 を習得する。☑ ☑	課題6作成	120
42	課題6 「複合施設トレース」 提出 担当：阿部・長田・高橋	図面作成☑提出 一級建築士試験問題と同程度の課題図面を写し、表記方法 を習得する。☑	課題6作成	120
43	課題7 「複合施設オリジナル設計」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・資料収集 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計 し、各種図面を作成する。☑ ☑	課題7作成 図面作図	60
44	課題7 「複合施設オリジナル設計」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集・エスキスチェック☑ 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計 し、各種図面を作成する。☑ ☑	課題7作成 図面作図	60
45	課題7 「複合施設オリジナル設計」 担当：阿部・長田・高橋	資料収集・エスキスチェック☑ 一級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計 し、各種図面を作成する。☑ ☑	課題7作成 図面作図	120
46	課題7 「複合施設オリジナル設計」 担当：阿部・長田・高橋	エスキス・図面作成☑ ☑級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計 し、各種図面を作成する。	課題7作成 図面作図	120
47	課題7 「複合施設オリジナル設計」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成☑ ☑級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計 し、各種図面を作成する。	課題7作成 図面作図	120
48	課題7 「複合施設オリジナル設計」提出 担当：阿部・長田・高橋	図面作成・提出☑ ☑級建築士試験問題と同程度の課題について各自で設計 し、各種図面を作成する。	課題7作成 図面作図	120
49	課題8 「デジタルデザイン演習」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・CADの操作方法☑ Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作 成する。☑ ☑	課題8作成 CAD作図	60
50	課題8 「デジタルデザイン演習」 担当：阿部・長田・高橋	CADの操作方法☑ Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作 成する。☑ ☑	課題8作成 CAD作図	60
51	課題8 「デジタルデザイン演習」 担当：阿部・長田・高橋	CADの操作方法☑ Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作 成する。☑	課題8作成 CAD作図	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
52	課題8 「デジタルデザイン演習」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成（CAD）☑ Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。	課題8作成 CAD作図	120
53	課題8 「デジタルデザイン演習」 担当：阿部・長田・高橋	図面作成（CAD）☑ Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。	課題8作成 CAD作図	120
54	課題8 「デジタルデザイン演習」提出	図面作成（CAD）・提出☑ Auto CAD Vector works の操作方法を習得して、図面を作成する。	課題8作成 CAD作図	120
55	課題9 「造形創造演習」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・エスキス☑ 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。☑	課題9作成 エスキス	60
56	課題9 「造形創造演習」 担当：阿部・長田・高橋	エスキス☑チェック 図模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。	課題9作成 エスキス	60
57	課題9 「造形創造演習」 担当：阿部・長田・高橋	課題説明・エスキス☑ 規模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。☑	課題9作成 エスキス	120
58	課題9 「造形創造演習」 担当：阿部・長田・高橋	エスキス☑チェック 図模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。	課題9作成 エスキス	120
59	課題9 「造形創造演習」 担当：阿部・長田・高橋	プレゼンテーション 図模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。	課題9作成 エスキス・模型製作	120
60	課題9 「造形創造演習」提出 担当：阿部・長田・高橋	提出・プレゼンテーション☑ 図模や用途、動線などの計画的視点とは異なる方法で造形物を想像できるよう訓練を行う。	課題9作成 模型製作	120

科目名	建築設計製図Ⅲ		対象 単位数 必修	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 10単位 必修
担当教員	山形 敏明,阿部 恵利子,高橋 真里, 長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	建築設計製図Ⅲでは、建築設計製図Ⅱで修得した時間内で設計をまとめる力を伸ばします。さらに、オリジナル設計を通して、手書きやCADでのプレゼンテーション（表現力）テクニックを身につけることを主目的とします。☒ また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけます。☒ 課題はコメントによるフィードバックを行い、学年末に返却します。☒ 位置づけ・水準 HA2323☒			
達成目標	【履修カルテ】☒ ①建築構造、計画、法規上の制限を満たしたオリジナル設計ができているか。☒ ②設計課題に基づいたオリジナル設計を期限内に完成することができたか。☒ ③プレゼンテーション用の図面を完成させることができたか。☒ 単位認定最低基準：「法規内容が適切に反映され、精度を満たした図面が作成できること」☒ ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」「倫理観、社会的責任」「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース 3年		成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80％、授業への取り組み（二級建築士試験対策問題を含む）20％。
教科書	『新しい建築の製図』学芸出版社			
参考書	住宅雑誌、新建築など			
学生への要望	各種建築の見学や雑誌等で近年の建築を研究することを習慣づけてください。☒			
オフィスタイム	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14:30～16:00 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10:30～12:00 山形：本館3F No.1 住居学研究室 阿部・高橋：家政学館4F 生活科学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス・課題1 「RC造店舗併用住宅トレース」 担当：山形・阿部・高橋 ※担当教員は最低2名以上で指導する。	ガイダンス（前期授業目標等）・課題説明・図面作成☒	課題1作成 図面作成	60
2	課題1 「RC造店舗併用住宅トレース」提出 担当：山形・阿部・高橋	図面作成・提出 ☒	課題1作成 図面作成	90
3	課題2 「事務所トレース」 担当：山形・阿部・高橋	図面作成 ☒	課題2作成 図面作成	90
4	課題2 「事務所トレース」提出 担当：山形・阿部・高橋	図面作成・提出 ☒	課題2作成 図面作成	60
5	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題3作成 エスキス・資料収集	90
6	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題1作成 エスキス・資料収集	90
7	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題1作成 エスキス・資料収集	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題3作成 エスキス・資料収集	90
9	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題3作成 エスキス・資料収集	90
10	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題3作成 エスキス・資料収集	60
11	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題3作成 エスキス・資料収集	90
12	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題3作成 エスキス・資料収集	90
13	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題3作成 エスキス・資料収集	60
14	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	60
15	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	120
16	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	120
17	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	120
18	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	120
19	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	150
21	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	150
22	課題3 「女性が考える理想住宅」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	90
23	課題3 「女性が考える理想住宅」提出 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション・提出 ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	90
24	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
25	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
26	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
27	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
28	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
29	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
30	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成	60
31	商業施設士2次試験対策講座 担当：山形・阿部・高橋	平面図、パース図面作成☒ ☒	商業施設士対策問題 パース図作成	120
32	商業施設士2次試験対策講座 担当：山形・阿部・高橋	平面図、パース図面作成☒ ☒	商業施設士対策問題 パース図作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
33	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
34	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
35	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
36	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
37	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
38	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
39	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
40	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
41	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
42	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
43	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
44	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション☒	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
45	課題4 「幼稚園・保育園・子ども園」提出 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション☒提出	課題4作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
46	授業ガイダンス・「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	ガイダンス（後期授業目標等）・課題説明・資料収集☑	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
47	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集☑	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
48	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス ☑	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
49	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☑ ☑	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
50	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☑ ☑	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
51	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☑ ☑	エスキス・CAD図面作成・模型製作 二級建築士対策問題	90
52	「もみじ会」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☑ 【二級建築士試験対策1】	エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
53	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集☑エスキスチェック	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 二級建築士対策問題	90
54	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集☑エスキスチェック 【二級建築士試験対策2】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
55	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集☑エスキスチェック	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	60
56	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当:山形・阿部・高橋	資料収集☑エスキスチェック 【二級建築士試験対策3】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
57	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☑ ☑	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	120
58	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☑ 【二級建築士試験対策4】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	150
59	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☑ ☑	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	150
60	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☑ 【二級建築士試験対策5】	課題5作成 資料収集・エスキス	90
61	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション	課題5作成 資料収集・エスキス	90
62	課題5 「RC造（ラーメン）住宅」提出 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション☑提出 ☑	課題5作成 資料収集・エスキス	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
63	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集・エスキスチェック	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成 二級建築士対策問題	90
64	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・図面作成☒ 【二級建築士試験対策6】	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成	120
65	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・図面作成	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成 二級建築士対策問題	120
66	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・図面作成☒ 【二級建築士試験対策7】	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成	150
67	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	エスキスチェック・図面作成	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成 二級建築士対策問題	150
68	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作☒ ☒二級建築士試験対策8】	課題6作成 資料収集・エスキス・図面作成	60
69	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
70	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
71	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作☒	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
72	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作☒	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
73	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作☒	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
74	課題6 「美術館」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション☒	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
75	課題6 「美術館」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション☒	課題6作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120

科目名	建築設計製図Ⅳ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 10単位 必修
担当教員	山形 敏明,阿部 恵利子,高橋 真里		
開講期	通年		
授業概要	建築設計製図Ⅳ前期では、これまでに修得した構造、法規、計画等を踏まえた綿密な各種計画を基に、各自のオリジナリティを表現することを目的とします。後期では4年間の集大成として、卒業設計制作に取り組みます。☒ また、総合的な学修経験が得られる各種外部施設の見学会に参加し、授業内で学修した内容を振り返ることで、知識や技術を身につけます。☒ 課題はコメントによるフィードバックを行い、学年末に返却します。☒ 位置づけ・水準 HA242☒ ☒ ☒		
達成目標	【履修カルテ】 ①実施設計に結びつく程度の完成度でオリジナル設計ができたか。 ②適切なテーマ設定、計画で卒業設計に取り組むことができたか。 ③計画したスケジュールに沿って卒業設計を完成できたか。 単位認定最低基準：「指導内容の8割を理解しているともに、法規内容が適切に反映され、オリジナリティがあり卒業学年にふさわしい設計ができていくこと」 ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」「倫理観、社会的責任」「総合的な学習経験、創造的思考力」		
受講資格	建築デザインコース4年	成績評価 方法	製図及び模型等の課題提出80％、授業への取り組み（二級建築士試験対策問題を含む）20％。
教科書	『新しい建築製図』学芸出版社		
参考書	課題に対応した参考書を随時紹介します。		
学生への要望	プレゼンテーション能力を高めるよう心掛けてください。☒		
オフィスタイム	前期：月曜日14：30～16：00 水曜日14:30～16:00 後期：月曜日8：50～10：20 木曜日10:30～12:00 山形：本館3F No.1 住居学研究室 阿部・高橋：家政学館4F 生活科学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、課題1「商品化住宅」 担当：山形・阿部・高橋 ※担当教員は最低2名以上で指導する。	ガイダンス（前期授業目標等）・課題説明・資料収集☒	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
2	課題1「商品化住宅」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス☒	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
3	課題1「商品化住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
4	課題1「商品化住宅」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作 要求図面をCADにて作成する。	課題1作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
5	課題1「商品化住宅」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション	課題1作成 CAD図面・模型製作・パネル作成	90
6	課題1「商品化住宅」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション☒	課題1作成 CAD図面・模型製作・パネル作成	90
7	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心にエスキスチェックを行う。	課題2作成 エスキス	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、 地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心に エスキスチェックを行う。☒	課題2作成 エスキス	90
9	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス 近年の深刻化した地域医療への抜本的対策を主眼とした、 地域に特化した魅力ある病院設計というコンセプトを中心に エスキスチェックを行う。☒	課題2作成 エスキス	90
10	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。☒	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
11	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。☒	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製作	90
12	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。☒ ☒	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製作	90
13	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
14	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。☒ ☒	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製作	90
15	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。☒ ☒	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製作	90
16	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
17	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。☒	課題2作成 CAD図面・模型製作	60
18	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。☒ ☒	課題2作成 CAD図面・模型製作	60
19	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。☒ ☒	課題2作成 CAD図面・模型製作	60
20	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。	課題2作成 CAD図面・模型製作	60
21	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。☒ ☒	課題2作成 CAD図面・模型製作	60
22	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。☒ ☒	課題2作成 CAD図面・模型製作・パネル作成	120
23	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作☒ 要求図面をCADにて作成する。☒ ☒	課題2作成 CAD図面・模型製作・パネル作成	120
24	課題2「病院」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション☒	課題2作成 CAD図面・模型製作・パネル作成	120
25	課題2「病院」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション☒ ☒	課題2作成 CAD図面・模型製作・パネル作成	120
26	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキスチェック☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成	60
28	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
29	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
30	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
31	商業施設士2次試験対策講座 担当：山形・阿部・高橋	平面図、パース図面作成☒ ☒	商業施設士対策問題 パース図作成	120
32	商業施設士2次試験対策講座 担当：山形・阿部・高橋	平面図、パース図面作成☒	商業施設士対策問題 パース図作成	120
33	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
34	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
35	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
36	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
37	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	60
38	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
39	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
40	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
41	課題3 「幼稚園・保育園・子ども園」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション☒ ☒	課題3作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
42	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集☒	課題4作成 資料収集・エスキス	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
43	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集☒	課題4作成 資料収集・エスキス	60
44	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集☒	課題4作成 資料収集・エスキス	60
45	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集☒	課題4作成 資料収集・エスキス	60
46	授業ガイダンス・課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	ガイダンス（後期授業目標等）資料収集・エスキス☒ ☒	課題4作成 資料収集・エスキス	60
47	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス☒	課題4作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題	60
48	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集・エスキス ☒【二級建築士試験対策1】	課題4作成 資料収集・エスキス	60
49	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作 二級建築士対策問題	60
50	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 【二級建築士試験対策2】	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作	60
51	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	120
52	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 【二級建築士試験対策3】	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成	120
53	課題4「建築で地域活性化」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション☒	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成	120
54	課題4「建築で地域活性化」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション☒	課題4作成 エスキス・CAD図面・模型製作・パネル作成	120
55	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	課題説明・資料収集☒	課題5作成 資料収集・エスキス 二級建築士対策問題	60
56	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	資料収集 【二級建築士試験対策4】	課題5作成 資料収集・エスキス	60
57	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 二級建築士対策問題	90
58	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 【二級建築士試験対策5】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作	90
59	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 担当：山形・阿部・伊藤	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	150
60	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒ 【二級建築士試験対策6】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
61	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	中間提出・プレゼンテーション	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成 二級建築士対策問題	120
62	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション 【二級建築士試験対策7】	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	150
63	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	エスキス・製図（CAD）・模型制作☒	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作 二級建築士対策問題	90
64	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作☒ 【二級建築士試験対策8】	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
65	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作☒ 担当：山形・阿部・伊藤	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
66	課題5「卒業設計」中間提出 担当：山形・阿部・高橋	中間提出・プレゼンテーション	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
67	課題5「卒業設計」中間提出 担当：山形・阿部・高橋	中間提出・プレゼンテーション	課題5作成 エスキス・CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
68	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作☒	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
69	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作☒	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	90
70	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作☒	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
71	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作☒	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	60
72	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作☒	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
73	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	製図（CAD）・模型制作・プレゼンボード製作☒	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
74	課題5「卒業設計」提出 担当：山形・阿部・高橋	提出・プレゼンテーション☒	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120
75	課題5「卒業設計」 担当：山形・阿部・高橋	プレゼンテーション☒	課題5作成 CAD図面作成・模型製作・パネル作成	120

科目名	工業概論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択	
担当教員	鍛野 秀三			
開講期	後期			
授業概要	人間生活に果した工業の役割を、利便性や快適性等のプラスと公害等のマイナスの両面から捉えて、これからの工業技術者のあり方を学ぶ。さらに、建築分野における耐震偽装問題やコンピュータによる情報漏洩問題を通して、技術者としての法遵守の意義及び人間生活への貢献を考える。レポートの評価は提出の次回に、プレゼンテーション（最終回）の評価は終了後に、それぞれ行う。			
達成目標	目標は①日本の発展に寄与した工業技術内容の習得、②技術者の使命と倫理観の醸成。単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。			
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	①学習への意欲20%、理解度30% ②課題並びにプレゼンテーションの総合評価50%	
教科書	プリント等配布			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	工業技術と人間生活に関心を持ち、予習して授業に臨むこと			
オフィスタイム				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	工業の歴史	産業革命以降、工業が人間生活や社会を一変させた歴史について学ぶ。	授業内容を復習	60
2	工業分野の変遷	産業革命以降の工業分野における変遷（蒸気機関車から電気、電子技術等へ）について学ぶ。	授業内容を復習	60
3	戦前の電気製品	日本の戦前における電気製品の導入と生活との関連について学ぶ。	授業内容を復習	60
4	戦後の電気製品	日本の戦後における電気製品の導入と生活との関連について学ぶ。	授業内容を復習	60
5	戦後の工業技術	日本の戦後における工業技術（自動車産業、土木・建築等）が、世界的な牽引的立場にあったことについて学ぶ。	授業内容を復習	60
6	工業と建築	工業の様々な分野の集大成として、建築が成立することについて学ぶ。	レポート準備	90
7	公害の歴史	日本における公害問題の歴史について学ぶ。	授業内容を復習	60
8	公害法の成立	日本における工業の発達と公害法の成立について学ぶ。	授業内容を復習	60
9	自然保護法の成立	日本における工業の発達と自然保護法の成立について学ぶ。	授業内容を復習	60
10	世界的視点からの公害	世界的視点から温暖化、オゾン層破壊、酸性雨等の問題と、それらへの取組みについて学ぶ。	授業内容を復習	60
11	耐震偽装問題Ⅰ	建築の偽装問題から、技術者の人間生活における安全・安心の提供と法遵守の意義について学ぶ。	授業内容を復習	60
12	耐震偽装問題Ⅱ	建築の偽装問題から、技術者が違法行為を起こした社会背景について学ぶ。	レポート準備	90
13	コンピュータの歴史	コンピュータの歴史と現在の情報化社会の問題について学ぶ。	授業内容を復習	60
14	プライバシー保護	コンピュータとプライバシー保護について学ぶ。	授業内容を復習	60
15	総括	これまでの授業を総括し、工業及び工業技術者とは何かを考える。	授業内容を復習	60

科目名	職業指導	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 選択
担当教員	長田 城治,山本 裕詞		
開講期	前期		
授業概要	職業指導とは、高校生が自己の将来の「進路・職業」を選択できるように援助する教育活動のことを示します。☒ 高等学校において職業指導は、進路指導という名の基に実践され、生徒の進学や就職に関わる事項だけでなく、個々の人生設計や自己の在り方生き方を主体的に創造するための教育活動として重要な役割を担っています。☒ そのため同講義では、自分自身と職業への理解を促すキャリア教育を実践し、それらの指導力を身につけていくことを目標とします。☒ また、工業高等学校での教員の経験を活かして、工業高等学校ならではの進路傾向や業界の現状、進路指導の実践について解説します。☒ 実務経歴：工業高等学校（神奈川県）で教員として勤務☒ ☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行い、課題やレポートについては、授業内で講評し、改善点などを解説します。☒ ☒ 位置づけ・水準：HA2327		
達成目標	①高等学校の進路指導について、地域の事例を把握することができたか。☒ ②生徒のキャリア発達を促す方策について具体的な例を挙げることができるか。☒ ③学生自身の人生設計を具体的にプランニングできたか。☒ 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解すること、および他者の職業指導のアドバイスを授業で得た知識を活かして実践できること。☒ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	建築デザインコース	成績評価 方法	①プレゼンテーション（自己PR、業界研究など）50％ ②レポート 50％
教科書	特になし☒ 必要に応じてプリントを配布します。		
参考書	特になし		
学生への要望	本授業は、アクティブラーニングの手法を用いて、学生の主体的な活動や意見交換をしながら行うため、遅刻・欠席がないよう注意すること。☒ 事前学修：新聞やニュースなどで取り上げられた建設業界に関する記事を読み、最新の動向についても把握するように努めること。（1時間）☒ 事後学修：授業内の課題やレポートにしっかりと取り組むこと。（1時間）		
オフィスタイム	月曜日8:50～10:20☒ 水曜日14:30～16:00☒ 本館1F No.2 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス(長田)	「職業指導」15回の授業の概要について講義し、本授業で何を学ぶかを理解する。また、工業高校とはどのような特色を持つ高校なのかを理解する。	工業高校の現状を把握するため、福島県近郊の工業系高校の所在と学校の特徴を把握する。	120
2	教職員の基本的な資質および職業指導から進路指導への転換(長田)	工業高校の教職員として必要な基本的な資質・能力を学ぶ。また、高等学校で実施された職業指導の実践内容を学習し、現在実施される進路指導に転換した歴史的背景を学ぶ。	授業で学修した内容を振り返り、教員の資質と進路指導の動向を時系列に理解する。	120
3	大学入試の現状と問題点(長田)	現在の大学入試の方法を学習し、これから変更となる入試制度の概略を理解する。	大学入試制度の要点を整理し、そのための学習方法を自身の経験則を基にまとめる。	120
4	自己理解(長田)	自身を理解し、自己PRやES（エントリーシート）を作成して発表する。	授業で指摘された内容を踏まえて、自己PRとESを改善する（レポート課題）。	120
5	高等学校学習指導要領工業編の内容と構成（長田・山本）	高等学校学習指導要領工業編の背景としての、中教審における産業教育観について、理解する。	予習として自身の職業感についてまとめておく。	120
6	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資質形成1（長田・山本）	高等学校学習指導要領工業編の構成を理解した上で、研究調査対象とする各科目の割り当てを決める。	担当することが決まった各科目内容と科目と結びつく産業概要について調査研究を行い、発表資料を作成する。（プレゼンの作成）	120
7	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資形成2（長田・山本）	研究調査した「工業科の各科目」について発表し、卒後の職業人としての在り方や必要とされる資質について話し合い、職業指導を意識した授業等の在り方を考察する。	担当することが決まった各科目内容と科目と結びつく産業概要について調査研究を行い、発表資料を作成する。（プレゼンの作成）	120
8	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資質形成3（長田・山本）	研究調査した「工業科の各科目」について発表し、卒後の職業人としての在り方や必要とされる資質について話し合い、職業指導を意識した授業等の在り方を考察する。	担当することが決まった各科目内容と科目と結びつく産業概要について調査研究を行い、発表資料を作成する。（プレゼンの作成）	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資質形成4 (長田・山本)	研究調査した「工業科の各科目」について発表し、卒後の職業人としての在り方や必要とされる資質について話し合い、職業指導を意識した授業等の在り方を考察する。	担当することが決まった各科目内容と科目と結びつく産業概要について調査研究を行い、発表資料を作成する。 (プレゼンの作成)	120
10	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資質形成5 (長田・山本)	研究調査した「工業科の各科目」について発表し、卒後の職業人としての在り方や必要とされる資質について話し合い、職業指導を意識した授業等の在り方を考察する。	担当することが決まった各科目内容と科目と結びつく産業概要について調査研究を行い、発表資料を作成する。 (プレゼンの作成)	120
11	「工業科の各科目」理解と職業人として必要となる資質形成6 (長田・山本)	研究調査した「工業科の各科目」について発表し、卒後の職業人としての在り方や必要とされる資質について話し合い、職業指導を意識した授業等の在り方を考察する。	高等学校学習指導要領工業編の内容から見えてくる工業高校における職業指導の在り方について、レポートにまとめる。 (レポート課題)	120
12	就職指導慣行と新しい選考方法 (長田)	従来の就職活動で実施された選考の方法を学習する。	授業内で配布された資料を参考に、選考方法を復習する。	120
13	工業系高校の進路傾向とその業界研究1(長田)	高等学校における進路の傾向を学び、どのような職種を選択し、その業界がどのような特徴を持つのかについて、特徴的な企業を例に出しながら講義を行う。	授業内で紹介した業界について、具体的な企業を自身で選択し、その特徴をまとめる。(プレゼンの作成)	120
14	工業系高校の進路傾向とその業界研究2(長田)	全快の授業を参考に、自信が担当した職種や業種などについて、特徴的な企業を例に出しながらプレゼンする。	授業内で紹介した業界について、具体的な企業を自身で選択し、その特徴をまとめる。(プレゼンの作成)	120
15	職業指導の問題と今後の在り方 (長田)	少子化による生徒数の減少と情報化社会における職業の多様化に伴い、今後の職業指導に対するスキルは、多くの知識や経験が必要になるであろう。本講義では、これまでの授業内で得た知識を振り返り、今後どのようにして生徒指導、進路指導すべきか課題をまとめ、今後の方策を考える講義を行う。	本講義の達成授業と自身の現状を照らし合わせ、必要な能力が得られたのか理解する。	120

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	通年			
授業概要	2年次までに学んだ建築学と個々人の将来を見据えて、興味ある卒業研究テーマを決定する。また、統計処理の手法について学ぶ。課題発見及び問題解決に関わるレポート等に対して、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	単位認定の最低基準は以下に示す①～③について、7割達成していること。☒ ①研究方法やその進め方、各種分析の方法を把握し、論理的に物事を捉える能力を養う。☒ ②論文構成や文体を学ぶ。☒ ③興味あるテーマの社会的意義を考え、問題解決に向けた思考力を培う。☒ ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力・問題解決力」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習経験・創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	①自主性・積極性などの取り組む姿勢50%☒ ②研究報告・発表50%☒	
教科書	資料を配布する。			
参考書	個々に指導・提示する。			
学生への要望	様々な論文を読み、積極的に調査をすすめること。また、建築に関わることに問題意識を持つこと。			
オフィスタイム	家政学館 4 階 生活科学研究室 月曜Ⅰ・Ⅱ時限（8：50～12：00）☒ 木曜Ⅰ時限（8：30～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	今後のゼミの進め方	研究テーマ決定の際に研究の目的や、独自性、研究結果の仮設が重要であることについて解説する。☑	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
2	研究方法について	研究の目的によって、研究方法が多数あることを事例を踏まえて述べる。☑	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
3	研究の時間配分	限られた時間の中で研究を達成する為に、研究に要する時間の配分について、各々が考えることを促す。また、この作業が社会に出てからの仕事にも重要であること述べる。☑	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
4	章立てについて	予め論文の章立てをすることにより、全体を掌握することの重要性について述べる。☑	研究テーマに沿った章立てをすることで、研究の方向性を明確にする。	60
5	アンケート調査について	アンケート調査の質問方法について、事例を用いて説明する。質問方法によって回答を導くことの弊害等についても述べる。また、SD法の質問による統計処理について説明する。☑	アンケート調査の事例を整理する。	60
6	統計処理 1	統計処理の利点と弊害について述べる。続いてアンケート調査に必要な単純集計の手法について述べる。☑	統計処理の手法について理解を深める。	60
7	統計処理 2	クロス集計の手法と意義について述べる。	クロス集計の手法について理解を深める。	60
8	統計処理 3	SD法による調査における、相関関係、相関係数について説明する。☑ ☑	SD法による調査法について理解を深める。	60
9	統計処理 4	エクセルを用いて因子分析の意味と手法を学ぶ。☑	エクセルを用いた因子分析について理解を深める。	60
10	統計処理 5	例題を与えて因子分析の分析結果を読む学習を行う。	エクセルを用いた因子分析について理解を深める。	60
11	統計処理 6	エクセルを用いて主成分分析の意味と手法を学ぶ。☑	エクセルを用いた主成分分析について理解を深める。	60
12	統計処理 7	例題を与えて主成分分析の分析結果を読む学習を行う。☑	エクセルを用いた主成分分析について理解を深める。	60
13	研究テーマの模索 1	興味のある研究テーマについて考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
14	研究テーマの模索 2	引き続き、興味のある研究テーマについて考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	研究テーマの決定 1	個々に研究テーマを決定する。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
16	先行研究の調査 1	研究の独自性が最も重要であることから、先行研究の調査が必要であることを述べ、先行研究に親しむことを促す。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
17	先行研究の調査 2	決定した研究テーマに関する先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
18	先行研究の調査 3	引き続き、先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
19	先行研究の調査 4	引き続き、先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
20	研究方法決定	テーマに対する有効性を検討し、研究方法を決定する。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
21	論文構成の検討	論文全体の構成を考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にし、構成を考える。	60
22	論文の章立て	論文の章立てについて検討する。	構成と章立てを整理する。	60
23	研究テーマ発表	個々に研究テーマ・研究方法・章立てについて発表し、その有効性について討論する。	研究テーマについて先行研究等を踏まえてその有効性を検討する。	60
24	研究テーマの決定 2	前回のテーマに関して、改善点を検討する。以後、個人指導とする。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
25	研究計画と資料収集 1	研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
26	研究計画と資料収集 2	継続して、研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
27	調査研究と資料収集 3	研究計画の基づき、調査研究を開始する。また、テーマに沿った資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
28	調査研究と資料収集 4	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
29	調査研究と資料収集 5	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
30	研究経過報告	これまでの作業を振り返って、来年度の論文完成に向けての予定を立てる。☑	論文完成に向けて計画を立てる。	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修
担当教員	石原 正道		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究の内容は物理・情報に関する研究のみならず、計量文献学・応用統計など非常に多岐に渡ります。卒業研究Ⅰでは主に研究を進めるための基礎的な知識と技術を得ることを目的とします。テーマによって異なりますが、統計処理・数的な処理(数式の演算)・プログラミングなどを学ぶことになります(建築デザインコース向けの研究では数式は扱うものと考えてください)。☒ 資料の取集状況の確認や修得した統計処理方法の確認等により、研究の方向性の決定や研究過程における修正を通じてフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2351		
達成目標	卒業研究では(1)問題を発見する力を養うこと、(2)課題を解決するために、資料を収集し、考察を行い、結論を導く力を得ること、(3)結論を伝達するための、論理的な文章の作成力・発表技術を身につけること、を養成することを目標とします。☒ 卒業研究Ⅰでは、これらの目標を達成するための基礎的な知識と技術を得るため、(1)必要な資料の収集と内容の把握ができること、(2) 数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、☒ (3)大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること、を目標とします。☒ ☒ 単位認定の最低基準：内容の8割を理解していること☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」「総合的な学習経験、創造的思考力」		
受講資格	なし	成績評価 方法	研究を進める上で必要となる基礎的な知識と能力の習得状況により判定します。☒ 具体的には、(1)必要な資料の収集と内容の把握ができること、(2)数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、(3)大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること、を評価対象とします。評価割合は(1)を40%、(2)を30%、(3)を30%とします。ただし研究テーマによって(1)から(3)で不必要な項目がある場合は、不必要な項目を除いた残りの項目を均等(50%)に評価します。
教科書	適宜提示する。		
参考書	適宜提示する。		
学生への要望	卒業研究を完了するには自学自習する必要があります。目標を明確にし自学自習を進めてください。		
オフィスタイム	前期 月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室☒ 水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ 後期 水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ 金曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ ☒ 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。☒ アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。	事前に自分の興味のある事柄について整理しておくこと。	30
2	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。	事前に自分の興味のある事柄について整理しておくこと。	30
3	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☑ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
4	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☑ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
5	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☑ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
6	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☑ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
8	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
9	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
10	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
11	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
12	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
13	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
14	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
15	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
16	基礎事項習得状況の確認	卒業研究前半の基礎事項習得状況を確認します。	これまでに学んだ事項について整理・確認しておくこと。	120
17	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることで、また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
18	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることで、また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
19	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることで、また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
20	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることで、また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
21	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
22	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
24	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
25	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
26	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
27	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
28	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
29	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
30	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	これまでの学修や体験、また専門的な知識・技術を基に自らの疑問を明らかにして、研究テーマを確定する。☑ 課題・レポートの発表を元にディスカッションを行い、その都度口頭や添削によるフィードバックを行います。☑ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの生活相談員として相談援助の実務経験をもとに社会福祉分野での研究・調査について授業を行う。☑ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☑ 位置づけ・水準 DS2361			
達成目標	自らのテーマに対して、その答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得することができる。☑ 1. 明確にしたい解決すべき現象・問題などを絞り込み、研究課題を決定する。☑ 2. 研究目的を明らかにする。☑ 3. 研究目的にそって研究計画をたてる。☑ 4. 研究計画にそってデータを収集する。☑ 単位認定の最低基準：研究の意義と倫理について8割理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題50%、経過報告・演習等の発表50%	
教科書	ありません。随時、印刷物の配布			
参考書	ゼミの中で随時紹介			
学生への要望	関係資料の情報の取り方、また先行研究等について素朴な疑問を大切にアセスメントを意識して主体的に発表すること。			
オフィスタイム	・水曜日 1時限 ・木曜日 1限 ☑ 創学館4階 No.1研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究の意義、進め方について学ぶ。☑ これまでの授業、体験から興味のあることについて発表する。☑	現在、興味のある事象やテーマについてその理由を含め具体的に発表できるように準備する。	60
2	テーマ設定に向けて（1）	研究テーマの設定についての方向性を明確にする。 各自、調べたことを発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
3	テーマ設定に向けて（2）	学生が関心を持っている研究内容についてディスカッション	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
4	論文の書き方（1）	卒業論文の書き方について解説する。 研究倫理教育（論文作成のきまり）☑ ・☑会福祉学会倫理規定のガイドライン（参考資料） ・引用文献☑ ・専門用語の定義のしかた 前回の授業で指示された内容について各自発表	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
5	論文の書き方（2）	文献の必要性☑ ・文献などの探し方☑ ・データの収集方法☑ ・新聞記事の切り抜きと辞書の活用☑ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。 ☑	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
6	論文の書き方（3）	参考文献の活用法☑ ・参考文献の読み方☑ ・データのまとめ方☑ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。 ☑	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
7	研究手法について（1）	量的研究☑ ・アンケート調査に関する基本的知識について☑ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
8	研究手法について（2）	量的研究☑ ・アンケート調査の方法について 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	研究手法について (3)	質的研究☑ ・面接調査に関する基本的知識☑ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
10	研究手法について (4)	質的研究☑ ・面接調査の方法について学ぶ☑ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
11	テーマ設定に向けて (3)	研究テーマを決定する。☑ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
12	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
13	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
14	事前学習 (学外学習)	学外学習の見学先について、抱えている課題などについて確認する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
15	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
16	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
17	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
18	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
19	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
20	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
21	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
22	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
23	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
24	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
25	研究計画書の作成	テーマに関する、調査計画書を作成し討議する。修正箇所を明らかにする。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
26	研究計画書の作成	テーマに関する、調査計画書を作成し討議する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	調査依頼	調査書など調査に関係す書類の作成	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
28	調査依頼	調査書など調査に関係す書類の作成	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
29	調査依頼	調査書など調査に関係す書類の完成	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
30	調査の実施	調査を実施する	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	通年			
授業概要	・卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている☑ ・卒業研究Ⅰでは、先行研究を調査・分析することで、自身のテーマ・目的を明確にし、テーマに即した研究手法を修得する 課題に対するフィードバック方法 課題を添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	・テーマに関する基礎的な知識が理解できている☑ ・テーマに即した研究手法が修得できている☑ 単位認定の最低基準：研究テーマに関する基礎的知識の8割を修得している。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科学生	成績評価 方法	課題70％、経過報告・演習等の発表30％	
教科書	特になし			
参考書	地域福祉情報、月刊福祉等の月刊誌☑ その他、随時紹介する			
学生への要望	・福祉に関するテーマについて、日常生活においても常に意識を☑ 持っていることが大切です。☑ ・自主的に取り組んでください			
オフィスタイム	前期：水曜日Ⅰ時限☑金曜日Ⅲ時限 後期：月曜日Ⅰ時限、金曜日Ⅰ時限☑ 創学館4階No.6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・卒業研究の意義☑ ・卒業研究の進め方☑ ・研究室のこれまでの論文の紹介	・テーマ設定のために課題を探る	60
2	卒業研究のテーマについて	・学生が問題意識や関心を持っているテーマについてディスカッションを行う	・現代社会における問題や課題について、これまで学んできたこと、今後学びたいことなどについてまとめる。	60
3	研究倫理について学ぶ	・研究倫理とは ・研究活動上の不正行為について	・卒業研究を進める上での研究倫理について調べる	60
4	研究手法① 文献研究	・文献などの探し方☑ ・データの収集場所☑ ・新聞記事の切り抜きと辞書の活用	・学会誌（日本社会福祉学会）に目を通し、研究方法について予習する	60
5	研究手法② 文献研究	・参考文献の活用法☑ 参考文献の読み方☑ データのまとめ方	・学会誌(社会福祉学会)に目を通し、参考文献の用い方を予習する	60
6	研究手法③ 文献研究	・文献検索の方法について学ぶ	・文献検索の方法について調べる	60
7	研究方法Ⅳ④ 量的調査	・アンケート調査に関する基本的知識について	・アンケート調査の1つの手法である量的調査についてテキストを読んでおく	60
8	研究方法⑤ 量的調査	・アンケート調査の方法について	・社会福祉学会誌を参考に、量的調査の方法を学ぶ	60
9	研究方法⑥ 質的調査	・面接調査に関する基本的知識	・面接調査の方法についてテキストを読んでおく	60
10	研究方法⑦ 質的調査	・面接調査の方法について☑	・社会福祉学会誌を参考にして、どのようなテーマの研究で面接調査の方法が用いられているかを学ぶ	60
11	テーマの検討	・地域における福祉の問題や課題について学ぶ	・自分の生活する地域や大学のある郡山市における福祉課題を調べておく	60
12	テーマの検討	・地域における福祉の問題や課題の中から関心のあるテーマや問題意識を持っているテーマについてまとめ、発表する	・発表の準備☑ ・質問を受けた内容について調べておく	90
13	先行研究調査	・研究テーマに関する先行研究について調べる	・自己のテーマに関する先行研究を調べる	90
14	研究計画書の作成	・おおよその研究計画を立てる	・先行研究を調べ、その手法を学ぶ	90
15	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究☑ ・随時、進捗状況を報告する	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる☑ ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を整理する	60
17	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる☑ ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を整理する	60
18	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる☑ ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を加えてまとめる	60
19	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる☑ ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を整理する	60
20	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる☑ ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を整理する	60
21	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
22	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
23	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
24	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
25	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
26	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
27	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
28	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
29	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
30	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究☑ ・4年次に向け、研究計画を再検討する☑	・研究計画について見直しを行う	40

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行います。☒ 2年次までに学んだ建築に関する知識を活かし、ゼミ内で実施する各種外部調査活動に参加することで、自身が興味ある卒業研究テーマを決定する。具体的な課題を通して、研究方法やその進め方、各種分析の方法を習得し、論文の書き方を習得する。☒ また、実地課題では現地調査を実施し、調査研究能力だけでなく、社会性やコミュニケーション能力の向上を図ること。☒ 研究の進捗状況や課題に関して、適宜フィードバックを行い、修正・改善点などを示します。☒ ☒ 位置づけ・水準：HL2351			
達成目標	①各種調査活動に参加し、自身が興味を持つテーマを設定する。☒ ②先行研究を調査し、自身のテーマの新規性を把握する。☒ 研究テーマにおいて、自身の研究が「対象」・「視点」・「方法」のうち、どの部分が新しいのかを把握して、研究目的を執筆すること。☒ ③研究倫理を理解し、論文の書き方を習得すること。☒ 単位認定の最低基準は、上記の①と②を遂行し、③の内容の7割を理解していること。☒ ☒ ディプロマポリシーとの関係：論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	提出課題80％、作業姿勢や対応20％	
教科書	資料を配布する。			
参考書	個々に指導する。			
学生への要望	積極的に調査活動をすすめること。関連する様々な論文を読破し、建築に関する問題意識を持つこと。			
オフィスタイム	通年：月曜日 8：50～10：20☒ 木曜日 8：50～10：20☒ 本館1F No.2 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業論文作成のための手引き1	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。☒研究倫理教育) 1.論文とレポート・報告の違いについて☒ 2.論文に必要な新規性を有すには 対象・視点・方法☒	指導内容を配布資料を用いて復習する	30
2	卒業論文作成のための手引き2	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。☒研究倫理教育) 1.先行研究の探し方と要点の把握について	指導内容を配布資料を用いて復習する	60
3	卒業論文作成のための手引き3	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。☒研究倫理教育) 1.文章の書き方について☒ 2.資料の収集方法について	指導内容を配布資料を用いて復習する	60
4	実地課題1	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☒ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査場所を選定するための基礎調査	60
5	実地課題2	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☒ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査場所を選定するための基礎調査	60
6	実地課題3	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☒ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	実地課題4	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☑ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査	120
8	実地課題5	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☑ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	調査成果をまとめる	60
9	実地課題6	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☑ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	調査成果をまとめる	60
10	実地課題7	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☑ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査に関するレジュメとプレゼン資料作成	120
11	実地課題発表	機器を用いて実地課題をビジュアルに発表します。（研究倫理教育）	実地調査に関するレジュメとプレゼン資料作成	120
12	文献・史料課題1	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	実地調査場所を選定するための基礎調査	60
13	文献・史料課題2	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	外部施設で資料調査	120
14	文献・史料課題3	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	外部施設で資料調査	120
15	文献・史料課題4	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる	60
16	文献・史料課題5	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる	60
17	文献・史料課題6	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	文献・史料課題7	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	レジュメとプレゼン資料作成	120
19	文献・資料課題発表	機器を用いて文献・資料課題をビジュアルに発表します。 (研究倫理教育)	レジュメとプレゼン資料作成	120
20	テーマ設定のための基礎調査1	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
21	テーマ設定のための基礎調査2	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
22	テーマ設定のための基礎調査3	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
23	テーマ設定のための基礎調査4	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
24	テーマ設定のための基礎調査5	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	レジュメとプレゼン資料作成	120
25	卒業論文テーマ発表	これまでの調査・検討内容を踏まえ、研究の目的と方法を明確にします。 これから行う卒業研究が対象・方法・視点のうち、どの点に新規性を有すのか、他の研究との比較を通して発表します。 (研究倫理教育)	レジュメとプレゼン資料作成	120
26	先行研究の整理と研究計画の決定1	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
27	先行研究の整理と研究計画の決定2	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
28	先行研究の整理と研究計画の決定3	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
29	先行研究の整理と研究計画の決定4	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
30	先行研究の整理と研究計画の決定5	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	通年			
授業概要	これまでに学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、研究テーマを指導教員と相談の上決定し、自主的に実験・調査を行い、論文としてまとめる基礎力を修得する。レポートは添削・返却しコメントによるフィードバックを行います。☒ 位置付け・水準 HL2351			
達成目標	単位認定の最低基準は、「卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了し、指導内容の7割を理解していること」。 ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」、「倫理観、社会的責任」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース3学年	成績評価 方法	毎週のレポート提出70%、予備調査、分析の進行状態30%	
教科書	適宜、資料配付			
参考書	適宜、紹介する。			
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00☒ 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究に関する概論。☒ 研究テーマの設定についての方向性を明確にする。	卒業研究を進める	60
2	テーマ設定に向けて（1）	研究テーマについての相談。	卒業研究を進める	60
3	テーマ設定に向けて（2）	研究テーマについての相談。	卒業研究を進める	60
4	研究テーマ決定	研究テーマの背景と目的を明確にし、卒研究テーマ（仮）を決定する。	卒業研究を進める	60
5	論文の書き方について（1）	卒業論文の書き方について解説する。☒	卒業研究を進める	60
6	論文の書き方について（2）	卒業論文の書き方について解説する。☒	卒業研究を進める	60
7	論文の書き方について（3）	梗概集等の論文の書き方について解説する。	卒業研究を進める	60
8	既往論文の研究（1）	研究テーマにおける既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める	60
9	既往論文の研究（2）	継続して、既往論文、先行研究について研究する。☒	卒業研究を進める	60
10	既往論文の研究（3）	継続して、既往論文、先行研究について研究する。☒	卒業研究を進める	60
11	研究倫理について	研究倫理について、研究上の注意点について確認する。☒ ☒	卒業研究を進める	60
12	研究方法について（1）	研究テーマに沿って、既往研究の研究方法について研究する。☒	卒業研究を進める	60
13	研究方法について（2）	継続して、研究テーマに沿った既往研究の研究方法について研究する。☒	卒業研究を進める	60
14	研究方法について（3）	研究テーマにおける、研究方法を決定する。☒ ☒	卒業研究を進める	60
15	研究計画（1）	研究テーマに沿った、研究計画を策定する。☒ ☒	卒業研究を進める	60
16	研究計画（2）	継続して、研究テーマに沿った研究計画を策定する。☒ ☒	卒業研究を進める	60
17	研究計画（3）	策定した研究計画の妥当性を検討する。☒ ☒	卒業研究を進める	60
18	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を開始する。	卒業研究を進める	60
19	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
20	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
21	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
22	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
23	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
24	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
25	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
27	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
28	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
29	プレゼンテーション	これまでの、実験及び調査研究結果について、プレゼンテーションを行い、討論する。	卒業研究を進める	60
30	実験及び調査研究の評価	卒業研究Ⅰ全般の、研究結果を評価し、改善等を加える。	卒業研究を進める	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	大泉 由美			
開講期	通年			
授業概要	これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたうえで、先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につける。そして論文執筆方法を習得・体得する。課題発見及び問題解決に関わるレポート等に対して、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準：HL 2 3 5 1			
達成目標	①明確にしたい、または解決したい問題などをとりあげ、研究テーマを決めたか。☒ ②先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につけることができたか。 最低基準は、内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力 ・単位認定の			
受講資格	3年生	成績評価 方法	①課題への取り組み姿勢（自主性・積極性）50% ②研究報告・発表50%	
教科書	必要に応じて資料を配付			
参考書	授業内で随時紹介			
学生への要望	1. 主体性を持って参加すること☒ 2. 途中経過を報告すること			
オフィスタイム	水曜Ⅰ限☒水曜Ⅱ限（創学館4階No.3研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 卒業研究の意義、進め方について 2. 今後のスケジュールの検討☑	課題を見つける	60
2	卒業論文の書き方（1）	・研究林立についての説明 ・卒業論文の書き方についての解説	課題を見つける	60
3	卒業論文の書き方（2）	・文献の探し方、データの収集について	課題を見つける	60
4	卒業論文の書き方（3）	・参考文献の活用方法（1）	課題を見つける	60
5	卒業論文の書き方（4）	・参考文献の活用方法（2）、データのまとめ方	課題を見つける	60
6	研究テーマ設定（1）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
7	研究テーマ設定（2）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
8	研究テーマ設定（3）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
9	研究テーマ設定（4）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
10	研究テーマ設定（5）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
11	論文作成方法を学ぶ（1）	文献調査による調査方法を知る	文献研究方法について関連研究を調べる	60
12	論文作成方法を学ぶ（2）	データ分析による調査方法を知る	データ分析方法について関連研究を調べる	60
13	論文作成方法を学ぶ（3）	質問紙・関係者へのインタビュー方法を知る	質問紙・関係者インタビュー方法についての関連研究を調べる	60
14	論文作成方法を学ぶ（4）	調査方法を選定し、進め方を検討する	論文作成についてまとめる	60
15	中間まとめ	1. 研究テーマの仮報告☑ 2. スケジュール確認☑	論文作成についてまとめる	60
16	研究テーマの決定	1. 研究テーマの決定	論文作成についてまとめる	60
17	資料収集・分析（1）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析☑	収集資料の整理と分析	60
18	資料収集・分析（2）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析☑	収集資料の整理と分析	60
19	資料収集・分析（3）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析☑	収集資料の整理と分析	60
20	資料収集・分析（4）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析☑	収集資料の整理と分析	60
21	資料収集・分析（5）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析☑ 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	資料収集・分析（６）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析 ☑. 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60
23	資料収集・分析（７）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析 ☑. 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60
24	資料収集・分析（８）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析 ☑. 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60
25	資料収集・分析（９）	資料収集（１）～（８）の収集・分析から、論文タイトルを考える	収集資料の整理と分析	60
26	論文制作	1. 執筆のルール☑ 2. 文章表現法☑	研究に必要な資料収集に取り組む。関連書籍10冊以上に目を通す	60
27	論文制作	1. 執筆のルール☑ 2. 文章表現法☑	研究に必要な資料収集に取り組む。関連書籍10冊以上に目を通す	60
28	論文制作	1. 執筆のルール☑ 2. 文章表現法☑	研究に必要な資料収集に取り組む。関連書籍10冊以上に目を通す	60
29	中間報告（１）	1. 論文執筆状況の報告☑ 2. 今後のスケジュール☑	資料収集及び論文の制作に取り組み、卒業研究Ⅱに向けて準備をすすめる	60
30	中間報告（２）	1. 中間報告 2. 研究スケジュールの検討☑	資料収集及び論文の制作に取り組み、卒業研究Ⅱに向けて準備をすすめる	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	ダニエル ホーナー			
開講期	通年			
授業概要	A. The number (ナンバリング) of this subject is HL2351.☑ B. Instructor taught English at Koriyama Women's University Attached High School☑ (郡山女子大学附属高等学校) for 19 years. 郡山開成学園の教員として高校に勤務していました。☑ C. Be an active learner who enthusiastically pursues growth and excellence. ☑ D. Express succinctly research themes and personal career information. ☑ E. Demonstrate comprehension of terminology specific to your career choice. ☑ F. Write terminology and career information in contemporary formats. ☑ G. Express clearly the results of your research in reports and presentations.☑ H. Active learning is substantially utilized in every lesson!☑ FEEDBACK: Educative feedback is frequently given to students on their conduct, homework, quizzes and tests that is positive, constructive and considers the individuality of each student but also the diversity of all of the students.			
達成目標	1. The main objective is to improve all four skills (reading, writing, listening and speaking) pertaining with a focus on persuasive expression of your skills and abilities. ☑ 2. Learn how to self-evaluate all four skills as they relate to careers, and then learn ways to improve your own abilities. ☑ 3. Express concise and correct information about prospective companies and employers.☑ 4. The minimum standard to receive 4 credits for this subject is to achieve 70% or higher on the overall average of these main criteria: attitude, 4 skills in research, documents submitted, research reports and presentations. ☑ 5. The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates "Problem Solving Skills," "Comprehensive Learning Experiences" and "Creative Thinking Skills Development."			
受講資格	大3年	成績評価 方法	1. Participation and Attitude (10%)☑ 2. Demonstration of the Four Skills through Research (40%) ☑ 3. Documents, Research Reports and Presentations (50%)	
教科書	(none)			
参考書	Documents produced by students and instructor, Daniel O. Horner.			
学生への要望	1. Please keep all appointments and research deadlines.☑ 2. For each hour of lecture by professors, students need 2 hours of preparation and review on their own.☑ 3. Be an active learner with very lofty goals.☑ 4. Conduct and continue research on a daily basis. ☑ 5. Stay ahead of schedule; avoid procrastinating!			
オフィスタイム	Office hours are Monday and Wednesday 5th period (16:10 ~ 17:40), ☑ and by appointment, 創学館 4 F No.3 研究室.			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	Guidance	Preliminary Guidance.	Preparation	120
2	Guidance	Second Guidance Session.	Preparation	90
3	Preliminary Research	Discussion of preliminary research.	Preparation	120
4	Preliminary Research	Continued discussion of preliminary research.	Preparation	120
5	Defining Objectives	Define the objectives for the first semester of the year.	Review	90
6	Defining Objectives	Define the objectives for the second semester of the year.	Preparation	120
7	Research Themes	Brainstorm potential research themes to be completed.	Preparation	120
8	Additional Research Themes	Brainstorm more potential research themes to be completed.	Preparation	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	Career Objectives	Correlate research themes to career objectives.	Preparation	120
10	Career Objectives	Continue to correlate research themes to career objectives.	Review	90
11	Career Terminology	Plan the initial research report on career terminology.	Prepare initial research report.	180
12	Additional Career Terminology	Submit the initial research report on career terminology.	Preparation	120
13	Career Parameters	Define in-depth career parameters and related themes.	Preparation	120
14	Career Parameters	Define additional in-depth career parameters and related themes. Write a detailed outline of personal career parameters.	Preparation	150
15	Report on Parameters	Write and the rough draft of report on career parameters.	Prepare second research report.	120
16	Report on Parameters	Submit the final document of the report on career parameters.	Preparation	120
17	Initial Consultation of Four Skills	Have the initial consultation on ways of improving the four main skills needed for career success.	Preparation	120
18	Consultation on Listening Skills	Have the initial consultation on ways of improving listening as related to career choice and success.	Preparation	120
19	Consultation on Speaking Skills	Have the initial consultation on ways of improving speaking as related to career choice and success.	Preparation	120
20	Consultation on Reading Skills	Have the initial consultation on ways of improving reading as related to career choice and success.	Preparation	120
21	Consultation on Writing Skills	Have the initial consultation on ways of improving writing as related to career choice and success.	Preparation	90
22	Report on Four Skills	Submit the rough draft of research conducted on the four skills needed for success in careers.	Prepare the third research report.	120
23	Report on Four Skills	Submit the report on the four skills needed for success in careers.	Preparation	120
24	Current Technologies	Consultation on current technologies and the impact they have on the ever-changing job market.	Preparation	120
25	Research Current Technologies	Conduct research on current technologies that pertain to the student's career choice.	Prepare fourth research report.	120
26	Report on Current Technologies	Report on current technologies that pertain to the student's career choice.	Review	90
27	Consultation on Final Research Report	Consult with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the previous year.	Preparation	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	More Consultation on Final Research Report	Continue consultation with students on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.	Prepare final cumulative research report.	240
29	Final Report and Outline of Presentation	Submit the final research report to the instructor, and submit the outline of the final presentation for review by the instructor.	Study, review and prepare for final presentation.	240
30	Final Research Report and Presentation Practice	Use the final cumulative research report to practice for the final presentation that includes decisive conclusions on the student's career choices.	Review	90

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	安田 純子			
開講期	通年			
授業概要	各自が生活に関して関心を持っていることについて、詳しく調べ、考察していきます。探究することのおもしろさを知って研究を進めます。 ☑ 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑ ☑ 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	目標は、各自が生活に関して関心を持っていることについて、研究を進め、まとめの仕方や発表の仕方を学び、また、文章で表現できるように学んでいきます。 ☑ ☑ 単位認定の最低基準は、関心や問題を見つけ、研究の進め方がある程度把握し、7割以上方向性が示せること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力			
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年	成績評価 方法	研究過程（態度・発表準備等）（60％）、研究論文等の中間のまとめ（40％）	
教科書	特になし（必要に応じて指示する。）			
参考書	各自その都度必要な文献			
学生への要望	積極的に課題を見つけ、真摯に取り組んでほしい。			
オフィスタイム	前期：月曜日と木曜日の13:00~16:30☑ 後期：水曜日と金曜日の13:00~16:30☑ 創学館N o. 1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマを見つける	興味のあるテーマを探す	テーマを見つける	30
2	図書館の使い方	図書館の使い方、資料の探し方	資料の探しかたになれる。	30
3	テーマを見つける	調べてみたいテーマ探し	テーマを見つける	30
4	資料集め	必要な資料の探し方・集め方	必要な資料の探し・集めをやる。	30
5	資料集め	資料を集める	資料を集める	300
6	資料を読み取る	論文に向けて参考となる資料の読み取り	資料を読み取る	300
7	必要資料集め	再び不足資料を探す	不足資料を探す	60
8	資料を読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	90
9	論文構想①	論文構想の大枠を考える。	論文構想の大枠を考える。	60
10	論文構想②	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
11	論文構想③	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
12	論文構想④	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
13	パワーポイントと発表について	発表用パワーポイントと原稿の作成について	発表用パワーポイントの作成の練習	60
14	プレゼンテーションについて	プレゼンテーションについて説明	プレゼンテーションのし方の確認練習	60
15	論文構想⑤	書ける論文について研究倫理等	書ける論文の骨組みを模索する。	30
16	論文の骨組み	論文の骨組みについて考える。	論文の骨組みを考える。	30
17	論文構想⑥	論文のテーマの見直し	論文のテーマをいろいろな角度から考える。	60
18	論文執筆①	論文の書き方	論文の書き方を復習する。	60
19	論文執筆②	論文執筆練習	本論文に向け執筆（練習）する。	240
20	論文執筆③	論文執筆練習	本論文に向け執筆（練習）する。	240
21	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
22	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
23	資料集め（参考文献）	参考文献の読み方	参考文献を読む。	60
24	本論文に向けての追加資料	本論文に向けて足りない資料など	本論文に足りない資料などを集め、読む。	60
25	論文執筆④	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
26	論文執筆⑤	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
27	論文執筆⑥	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
28	論文のテーマ	論文のテーマの方向性についてのまとめと確認	論文のテーマの方向性を確認をする。	60
29	論文テーマ	論文テーマを確認する。	論文のテーマをしぼる。	120
30	卒研全体のまとめ	全体のまとめ	全体を見直し、テーマを再確認する。	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	近内 直美			
開講期	通年			
授業概要	大学での学修の総まとめとして、探究したいテーマをもとに卒論のテーマを決定していく。☒ 課題・レポート提出後、コメントや質疑応答によりフィードバックする。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	①テーマに関する知識を習得する。☒ ②テーマに即した研究の手法を取得し、研究についてふさわしい手法を習得する。☒ 単位認定の最低基準は：「内容の8割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的な思考力			
受講資格	人間生活学科学生	成績評価 方法	課題70%、経過報告・演習等の発表30%	
教科書	特に無し			
参考書	随時紹介			
学生への要望	・社会福祉に関心を持ち、国施策や地方自治と住民の生活との関連性を意識し、課題に気づいてください。☒ ・自主的に学習に取り組み、意欲的に発表を行いながら内容を深めてください。			
オフィスタイム	前期：月曜日Ⅳ時限・水曜日Ⅳ時限、後期：水曜日Ⅰ時限・Ⅱ時限☒ 創学館4階No6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・卒業研究を進めるうえで必要な倫理や研究方法を知る。☑ ・倫理については、講義や論文作成の過程でも適宜確認を行っていく。☑ ・卒業研究の全体像をイメージし、方向性を検討する。☑ ・2回目以降も含め、自己学習による発表と授業における意見交換を行い、双方向性の授業を行う。☑	・卒業研究について、興味のある事例を調べる	30
2	卒業研究のテーマ設定について1	・卒業研究に関連した論文を読む。☑ ・学生が関心を持っているテーマについて関連した情報を得、知識を増やす。	・自己学習を行う☑ ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
3	卒業研究のテーマ設定について2	・研究テーマに関連した課題や検討事項について考える。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
4	論文の書き方について1	・文献などの探し方について学ぶ☑ ・データの収集の仕方について学ぶ	・自己学習を行う☑ ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
5	論文の書き方について2	・参考文献の活用について学ぶ☑ ・データの活用について学ぶ	・自己学習を行う☑ ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
6	論文の書き方について1	・参考文献を活用する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
7	論文の書き方について2	・アンケート調査に関する基本的知識について学ぶ。	・自己学習を行う☑ ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
8	論文の書き方について3	・アンケート調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う☑ ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
9	論文の書き方について4	・アンケート調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
10	論文の書き方について5	・その他調査の方法について学ぶ。☑	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
11	テーマの検討1	・論文のテーマを検討する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
12	テーマの策定2	・論文のテーマを決定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	研究方法の策定	・研究テーマに沿った研究方法を策定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
14	研究計画書の作成 1	・研究計画を検討する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
15	研究計画書の作成 2	・研究計画を策定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
16	既往論文の研究 1	・既往論文、先行研究について研究する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
17	既往論文の研究 2	・既往論文、先行研究について研究する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
18	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。 ・研究内容により学外での調査などを実施する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
19	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。 ・研究内容により学外での調査などを実施する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
20	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
21	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
22	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
23	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
24	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
25	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
26	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
27	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
28	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
29	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
30	研究の実施	・研究の中間評価を行い、改善点を見直す。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修
担当教員	山本 裕詞		
開講期	通年		
授業概要	自らの課題意識をもとに調査研究を進め、論理実証的に結論を導き出し、卒業論文にまとめる。特に、卒業研究Ⅰは、自らの課題意識を明確化することを目的に、先行研究の収集、整理、批判を行う。具体的には、年度末までに自らの課題意識の研究上の位置づけを明らかにして、論文構成を試案する。学生は、個別指導の際に、自らの課題に対する調査研究結果を発表し、それに対する小職からの講評を受け、次回の個別指導までの課題内容をフィードバックする。なお、研究の必要に応じて、小職の中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う。☒ 実務経歴：中高の教員として神奈川県立新羽高等学校、学校法人白根開善学校等で勤務。発達障害者教育の教員としてはフリースクール飛翔中等部等で勤務。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2351		
達成目標	1. 自らの課題意識を、先行研究との関係で位置付ける(課題意識の具体化)。☒ 2. 論理実証的手法を用いて考察を深める(先行研究批判と論理実証性)。☒ 3. 研究の作法を意識し、自律的研究能力の基礎を培う(研究倫理の意識化と遵守)。☒ 4. 4年次の中間報告、最終報告を見通して、伝える技術を経験的に学ぶ(研究テーマの確定と論文構成)。☒ 単位認定の最低基準は、上記1～3の総合的評価が達成度7割以上であること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力		
受講資格	相談により担当となった学生	成績評価 方法	達成目標の達成度の総合的評価☒ 内訳：1. 課題意識の具体化 20％ ☒ 2. 先行研究批評と論理実証性 30％☒ 3. 研究倫理の意識化と遵守 30％☒ 4. 研究テーマ確定と論文構成 20％
教科書	特になし。		
参考書	河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会 2002年		
学生への要望	主体的に取り組むこと。		
オフィスタイム	前期、後期とも学生と相談して決定します。 ☒ 場所：教職課程推進室 ☒ そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	仮テーマの設定と先行研究の抽出 1	仮の研究テーマを設定し、それに関する先行研究を調査収集する。また、収集した先行研究を対象にテキスト批評を行う。	発表用レポートの作成	180
2	興味関心・課題意識の言語化	自らの興味関心・課題意識を言葉で表現することによって、既に理解できていることと、不鮮明なことを意識化する。	レポート	180
3	テキスト批評 1	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	発表用レポートの作成	180
4	テキスト批評 2	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	発表用レポートの作成	180
5	テキスト批評 3	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	発表用レポートの作成	180
6	テキスト批評 4	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	発表用レポート作成	180
7	仮テーマの設定と先行研究の調査 1	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポート	180
8	仮テーマの設定と先行研究の調査 2	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	仮テーマの設定と先行研究の調査 3	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
10	仮テーマの設定と先行研究の調査 4	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
11	仮テーマの設定と先行研究の調査 5	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
12	仮テーマの設定と先行研究の調査 6	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
13	テーマの設定と先行研究の整理 1	先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。	発表用レポートの作成	180
14	テーマの設定と先行研究の整理 2	先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。	発表用レポートの作成	180
15	テーマの設定と先行研究の整理 3	先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。	発表用レポートの作成	180

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修
担当教員	瀬谷 真理子		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ 卒業研究は、大学の学修の集大成として、総合的に学問を捉え、主体的に新たな発想力をもって物事の本質を見極め、学問への探究心を忘れず、専門分野での新たな知見を得られるような人材の育成を目指すことを目的とする。☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ Ⅰ．研究テーマの設定 1、先行研究論文の収集。2、先行調査の分析。3、テーマの設定。Ⅱ．設定テーマを基に、関連書籍、論文などのデーター収集、解析、分析、経過発表、学生間の討論を行う。☑ コメント等によるフィードバックを行う。☑ さらに福島県高等学校での家庭科教員としての実務経験や社会教育に携わってきた実務経験を生かしながら実践的な指導を行います。☑ 〔実務経歴〕福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。☑ 位置づけ・水準 HL2351		
達成目標	〔到達目標〕☑ ①論文調査方法を学び、研究倫理を踏まえ、自分にあった方法を理解する。☑ ②論文の構成を理解する。☑ ③論文の作成ができ、発表することができる。☑ 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考		
受講資格	特になし。	成績評価 方法	①卒研に取り組む姿勢30%、②報告会及び課題提出状況30%、③途中経過状況40%、①～③の総合評価60%以上で単位認定する。
教科書	論文課題に対応し提示。		
参考書	随時案内する。		
学生への要望	1．指定日に必ず出席すること。2．課題を次週までに終わらせる（場合により、話し合いで変更する）。 3．テーマの選定に努力を惜しまず積極的に望む。		
オフィスタイム	家政学館4F 被服学研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1年間の内容と留意事項	課題を見つける	60
2	研究倫理について	研究倫理を学ぶ	「科学の健全な発展のために～誠実な科学者の心得～」を熟読し、考えをまとめる	60
3	研究倫理について	研究倫理を学ぶ	「科学の健全な発展のために～誠実な科学者の心得～」を熟読し、考えをまとめる	60
4	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
5	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
6	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ	先行研究を整理する	60
7	テーマ設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ	先行研究を整理する	60
8	テーマ設定	第2回から第7回までに行った、先行研究分析から、最も興味関心を持ったテーマを取り上げ、書籍収集、先行研究収集等をし、第10回の討論会準備を行う。	資料作成	90
9	テーマ設定	第8回に引き続き、討論会準備を行う。	資料作成	90
10	仮テーマにおける討論会	仮テーマをもとに調査をおこなった内容を発表する。討論会形式とする。	内容を記録	90
11	仮論文テーマにおける討論会	第10回仮テーマにおける討論会をおこない、論文制作が可能か検討。	これまでの発表用内容の確認	60
12	論文テーマ設定	第11回からテーマ選定。第10回において論文テーマの選定に至らなかった場合は、再度調査発表を行い決定する。	これまでの発表用内容から独自のテーマが可能か文献収集する。	60
13	論文作成方法を学ぶ	文献調査による調査方法とは。☑	文献研究について関連研究を調べる	60
14	論文作成方法を学ぶ	データー分析による調査方法とは。	データー分析について関連研究を調べる	60
15	論文作成方法を学ぶ	調査方法を選定し、進め方を決定する。	論文作成についてまとめる	60
16	資料収集	調査方法が決定したのち、論文制作に必要な参考資料等の収集を行う。	授業内容を整理しまとめる	60
17	資料収集	第16回同様に資料等の収集を行う。	収集資料の整理	60
18	資料分析調査	第16回から17回までに収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。	収集資料の整理と分析	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	資料分析調査	第18回同様に、収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。	収集資料の整理と分析	60
20	資料分析調査	第19回までに行った調査分析から、論文タイトル（サブの有る場合は、サブタイトルも考える）、論文の章立てを考える。	論文の目次を考える	60
21	資料分析調査	第20回同様に論文タイトル、章立てを行い指導教員に確認を得る。	論文タイトルと目次を再検討する	60
22	調査及び資料収集	調査方法として、アンケートを希望（必要）とする場合は、アンケート項目の選定を行う。	アンケート方法を調べる	60
23	調査及び資料収集	アンケート内容項目の選定、確認が済み次第、アンケート調査に取り掛かる。	アンケート項目を考える	60
24	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意を払い、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載をすることを徹底する。	先行研究の論文を要約する	60
25	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意を払い、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載をすることを徹底する。	先行研究の論文を要約する	60
26	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意を払い、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載をすることを徹底する。	先行研究の論文を要約する	60
27	論文制作	必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。	授業内容を整理する	60
28	論文制作	必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。	授業内容を整理する	90
29	論文制作	必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。	授業内容を整理する	90
30	論文制作	第29回において、はじめに（序）の添削をおこなった結果を受けて、再度提出した内容の確認をする。以降、春休みを使って資料収集及び論文の制作に取り組み卒業研究Ⅱに向けて準備を整えていく。	序文の作成及び添削後の修正	90

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	研究テーマに関する疑問に対して、調査を実施し考察することで自らの答えを導き出す。☒ 課題や実施報告を元にディスカッションを行い、その都度口頭や添削によるフィードバックを行います。☒ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに社会福祉の課題に対して卒業研究指導を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 位置づけ・水準 DS2462			
達成目標	研究テーマに対しての答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得すること。☒ 1. 研究計画にそってデータを収集し調査、分析を行う。☒ 2. 研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成する。☒ 単位認定の最低基準：研究の意義と倫理について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題70%、発表30%	
教科書	随時、印刷物の配布			
参考書	授業内で適宜紹介する			
学生への要望	諦めないで、研究をやり遂げること。			
オフィスタイム	・水曜日 1時限 ・木曜日 1時限 ☒ ☒ 創学館 4 階 No.1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	調査依頼及び集計	研究倫理教育（調査計画、情報収集等において不備がないか点検する） 調査結果の集計	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
2	調査依頼及び集計	調査結果の集計	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
3	学外調査	調査結果について学外調査実施場所に確認	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
4	学外調査	調査結果について学外調査実施場所に確認	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
5	調査内容のまとめ及び考察	調査結果について文章化する。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
6	調査内容のまとめ及び考察	調査結果について文章化する。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
7	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
8	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
9	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
10	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察を完成させる。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
11	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察を完成させる。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
12	引用文献	引用文献について整理をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
13	事前学習（学外学習）	学外学習の見学先について、特徴を確認する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
14	事前学習（学外学習）	学外学習の見学先について、抱えている課題について確認する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
15	学外学習（8～9月実施）	現場の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
16	学外学習（8～9月実施）	現場の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
17	学外学習（8～9月実施）	現場の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
18	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
20	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
21	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
22	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
23	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
24	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
25	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
26	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
27	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
28	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
29	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
30	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	通年			
授業概要	・卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている			
達成目標	・卒業研究Ⅱでは、10月末の発表会で報告し、2年間の成果として論文をまとめる			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	報告・発表30％、論文70％	
教科書	特になし			
参考書	随時プリントを配布する☑ 適切な論文を適宜紹介する☑ 地域福祉情報、月刊福祉等を参考とする			
学生への要望	・研究計画に沿って、主体性を持って進めてください			
オフィスタイム	前期：月曜日及び金曜日の3時限☑ 、後期：木曜日の1～3時限☑ 創学館4階 No.6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	演習	・テーマに即した内容を調べ、発表し、ディスカッションを行う		0
2	研究計画書の作成	・研究計画書を作成する☑ ・論文の構成を考える		0
3	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う		0
4	論文の作成	・テーマに関連する研究会等に参加する		0
5	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う		0
6	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う		0
7	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる		0
8	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる		0
9	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
10	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
11	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
12	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
13	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
14	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
15	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
16	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
17	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
18	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
19	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
20	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
21	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
22	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成		0
23	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成		0
24	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成		0
25	発表	・卒業研究発表会で発表する		0
26	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0
27	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	論文作成	・卒研発表会での指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0
29	論文作成	・卒研発表会での指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0
30	論文作成	・卒研発表会での指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行います。☒ 研究の意義や目的意識をしっかりと持ち、4年間の集大成としての論文をまとめることにより文章力や分析力を養い、地域の課題などを解決する能力を身に付けることを目的とします。☒ 研究テーマによっては現地に訪れることを推奨し、建物実測調査や聞き取り調査、資料調査などを実施して研究成果をまとめ、調査研究能力だけでなく、社会性やコミュニケーション能力の向上を図ること目指します。☒ 研究の進捗状況や課題に関して、適宜フィードバックを行い、修正・改善点などを示します。☒ ☒ 位置づけ・水準：HL2452			
達成目標	①客観性のある分析と論理的な文章構成を習得し、卒業論文を製作する。☒ ②地域や社会貢献に寄与する研究を実施し、研究成果を地域に公表および還元すること。☒ ③研究倫理を理解し、論文の書き方を習得すること。 単位認定の最低基準は、上記の①と②を遂行し、③の内容の7割を理解していること。☒ ☒ ディプロマポリシーとの関係：論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	建築デザインコース4年生	成績評価 方法	論文完成度80%☒ 研究への取り組み20%	
教科書	適宜、資料を配布する			
参考書	特になし			
学生への要望	研究に対する目的意識や問題意識をもつこと。☒ 論理的に考察する能力や順序立てて説明するプレゼンテーション能力を身につけるよう努力すること。			
オフィスタイム	通年：月曜日8：50～10：20☒ 木曜日8：50～10：20☒ 本館1F No.2 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマ決定	卒業論文のテーマを明確にし、研究活動をはじめると共に、10月の中間発表、1月の本発表にむけた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める	120
2	先行研究の整理1	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
3	先行研究の整理2	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
4	先行研究の整理3	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
5	先行研究の整理4	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
6	先行研究の整理5	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理 プレゼン作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	進捗状況発表1	研究目的を明確にすることを目的に、口頭発表を行う。自身の研究の新規性のある部分について、先行研究と比較しながらまとめ、何をどんな方法で明らかにするのか、研究の骨子となる部分を明瞭にする。また、これまでの進捗状況を整理し、今後の研究計画について発表する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 調査準備	120
8	調査活動1	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査準備	120
9	調査活動2	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 現地調査	120
10	調査活動3	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
11	調査活動4	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
12	調査活動5	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
13	調査活動6	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
14	調査活動7	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析 プレゼン作成	120
15	進捗状況発表2	調査などで得られた情報を整理し、今後の研究計画について発表する。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成	120
16	進捗状況発表3	夏季休暇中に行った内容について発表する。	指導を参考に研究を進める	120
17	プレゼンテーション作成	中間発表会に向けたプレゼンテーションを作成する。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成	120
18	中間発表練習	中間発表に向けた練習を行う。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成	120
19	研究計画の整理1	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める	120
20	研究計画の整理2	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める	120
21	論文の執筆1	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	論文の執筆2	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
23	論文の執筆3	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
24	論文の執筆4	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 プレゼン作成	120
25	進捗状況発表4	これまでの進捗状況について発表する。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
26	論文の執筆5	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
27	論文の執筆6	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
28	論文の執筆7	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習	120
29	発表練習	本発表に向けた発表練習を行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習	120
30	本発表と論文投稿	本発表に向けて、発表データを作成し、投稿にむけて論文を完成させる。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習	120

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究Ⅰで決定した研究テーマについて、これまで学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、自主的に実験・調査研究を行い、論文としてまとめ、プレゼンテーションを行う。研究指導、論文指導では提出したレポート並びに論文について添削しコメントによるフィードバックを行います。☑また、大学で学んだことの集大成であるとともに、実社会での仕事の基礎となる部分も多いので、自主的かつ積極的に取り組むことが必要である。☑位置付け・水準 HL2452			
達成目標	単位認定の最低基準は、「卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了し、指導内容の7割を理解していること」。☑ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」、「倫理観、社会的責任」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース 4 年	成績評価 方法	毎週のレポート提出60％、調査、分析の進行状態20％、研究の完成度20。	
教科書	特に用いない。			
参考書	テーマに沿って随時紹介する。			
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
オフィスタイム	前期：水曜日14:30～16:00☑ 後期：木曜日14:30～16:00☑ 山形：本館3F No.1 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	最終学年に向けて、卒業研究の意義を再確認し、卒業研究Ⅰでの進捗状況の発表を行う	テーマに沿って研究を進める。	60
2	研究計画の妥当性	卒業研究Ⅰでの研究計画について、その妥当性を再検討する。	検討結果を再整理する。	60
3	研究倫理について	研究倫理について、卒業研究Ⅰで確認した研究上の注意点について、学生の研究テーマに沿って再確認する。	再確認した内容を整理する。	60
4	論文構成（1）	論文作成に向けて、論文構成を行う。	卒業研究を進める。	60
5	論文構成（2）	論文構成の妥当性を確認する。	卒業研究を進める。	60
6	実験・調査の継続（1）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
7	実験・調査の継続（2）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
8	実験・調査の継続（3）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
9	実験・調査の継続（4）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
10	実験・調査の継続（5）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
11	実験・調査の継続（6）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
12	実験・調査の継続（7）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
13	実験・調査の継続（8）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
14	実験・調査の継続（9）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
15	中間発表の準備（1）	中間発表に向けて、研究成果の確認と発表準備。	プレゼンテーション準備をする。	90
16	中間発表の準備（2）	プレゼンテーション用の構成を行う。	プレゼンテーション準備をする。	90
17	中間発表の準備（3）	プレゼンテーション内容の確認を行う。	プレゼンテーション準備をする。	90
18	中間発表の準備（4）	中間発表の練習。	プレゼンテーション内容を再確認する。	90
19	実験・調査内容の再確認	中間発表での指摘及び指導に対して、今後の研究内容の追加等について確認する。	卒業研究を進める。	60
20	実験・調査の継続（10）	追加実験及び調査研究の確認を踏まえて、実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
21	実験・調査の継続（11）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
22	実験・調査の継続（12）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
23	実験・調査の継続（13）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
24	実験・調査の継続（14）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
25	実験・調査の継続（15）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
26	プレゼンテーション	実験・調査結果のプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーション結果を論文に反映させる。	90
27	論文の仮提出	卒業研究論文の仮提出。	指摘された内容を再確認する。	60
28	本発表の準備	卒業研究本発表に向けた、発表内容の確認を行う。	本発表練習をする。	60
29	本発表の準備	本発表と論文の仮提出を行う。	本発表練習をする。	90
30	論文提出	卒業研究論文の提出。	本論の内容を再確認する。	60

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	通年			
授業概要	研究の意義及び目的意識を明確に、4年間の集大成としての論文をまとめることで文章力・分析力を養う。☒ レポート及び論文を添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う。位置づけ・水準 HL2452			
達成目標	単位認定の最低基準は以下に示す①～③について、7割達成していること。。☒ ①研究テーマについて、深い知識と論理的思考力を身に付ける。☒ ②問題解決のために、ものの見方・考え方を深める。☒ ③論文作成にあたり、文章力・分析力を養う。☒ ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力・問題解決力」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習経験・創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース4年生	成績評価 方法	①取り組む姿勢20％☒ ②研究報告・発表30％☒ ③論文の完成度50％	
教科書	適宜、資料を提示する。			
参考書	テーマに沿った参考書をその都度提示する。			
学生への要望	先行研究をしっかりと読み、主体的・積極的な姿勢で取り組むこと。			
オフィスタイム	家政学館4階 生活科学研究室☒ 月曜Ⅰ・Ⅱ時限（8：30～12：00）☒ 木曜Ⅰ時限（8：30～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	春季期間の研究経過報告	春季期間の研究経過を確認し、研究テーマ、研究方法、章立て等について再検討する。☒	研究テーマ、研究方法、章立てについて再検討する。	60
2	論文の文体について	論文の文体について、接続詞の使い方等の論文の文体について解説する。グラフや表の表現方法について、再確認する。☒	論文の文体、グラフや表の表現方法について整理する。	60
3	研究データ整理 1	研究データの整理をする。	研究データの整理をする。	60
4	研究データ整理 2	引き続き、研究データの整理をする。	研究データの整理をする。	60
5	研究データ整理 3	引き続き、研究データの整理をする。	研究データの整理をする。	60
6	研究データ整理 4	中間発表に向けて表やグラフ、写真を整理する。	研究データの整理をする。	60
7	研究データ整理 5	引き続き、中間発表に向けて表やグラフ、写真を整理する。	研究データの整理をする。	60
8	論文執筆 1	論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
9	論文執筆 2	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
10	論文執筆 3	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
11	論文執筆 4	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
12	論文執筆 5	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。☒	論文の訂正・確認、執筆する。	180
13	論文執筆 6	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
14	中間発表準備	研究成果の確認と発表に向けての準備を行う。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。	300
15	プレゼンテーションの練習 1	中間発表に向けてプレゼンテーションのテクニックをマスターする。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。	300
16	プレゼンテーションの練習 2	引き続き、中間発表に向けてプレゼンテーションのテクニックをマスターする。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。	300
17	論文執筆 7	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
18	論文執筆 8	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
19	論文執筆 9	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
20	論文執筆 1 0	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
21	論文執筆 1 1	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
22	論文執筆 1 2	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
23	論文執筆 1 3	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
24	論文執筆 1 4	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
25	本発表の準備	本発表の内容と研究成果を確認し、本発表の準備を進める。	本発表に向けて、パワーポイントを作成する。	360
26	プレゼンテーションの練習 3	本発表に向けてプレゼンテーションの準備を進める。	本発表に向けて、パワーポイントを作成する。	360
27	プレゼンテーションの練習 4	本発表に向けてプレゼンテーションを実施する。	本発表に向けて、プレゼンテーションの練習をする。	360
28	本発表	研究テーマについての研究成果を発表する。	本発表に向けてプレゼンテーションの練習をする。	360

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	論文仮提出	執筆した論文を仮提出する。	論文を見直し、誤字・脱字を訂正する。	180
30	論文完成	研究発表後、論文の加筆修正を行い、製本する。	論文を修正する。	300

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	近内 直美			
開講期	通年			
授業概要	・大学での学修の総まとめとして知識の統合化を図り、卒論のテーマを決定し、発表やレポートを作成しながら研究を進める。 ・論文の提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。☒			
達成目標	・テーマに沿って研究方法を学び、研究を進め論文にまとめる。☒ ・単位認定の最低基準は「内容の8割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学修経験・創造的思考力			
受講資格	人間生活学科学生	成績評価 方法	経過報告・演習等の発表30％、論文70％	
教科書	特に無し			
参考書	随時紹介			
学生への要望	・研究テーマを明らかにし自主的に、計画的に論文の作成に取り組んでください。			
オフィスタイム	前期：月曜日Ⅳ時限・水曜日Ⅳ時限、後期：水曜日Ⅰ時限、Ⅱ時限☒ 創学館4階No.6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・研究計画書の見直しを行い、発表に向けた研究計画を策定する。☒ ・卒業研究を進めるうえで必要な倫理や研究方法を振り返る。☒ ・倫理については、講義や論文作成の過程でも適宜確認を行っていく。☒ ・2回目以降も含め、自己学習による発表と授業における意見交換を行い、双方向型授業を行う。☒ ☒	・自主学習を行う☒ ・発表に向けて、研究計画を確認する	60
2	先行研究の資料の収集 1	テーマに即した先行研究を整理する。	・自主学習を行い次回に備える	60
3	先行研究の資料の収集 2	テーマに即した先行研究を整理する。	・自主学習を行い次回に備える	60
4	資料を理解する	テーマに即した先行研究を理解し、卒業研究のテーマに基づきディスカッションを行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
5	資料の収集	論文作成に向けた資料を集める。	・自主学習を行い次回に備える	60
6	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。 (学外における社会資源の収集・調査を含む)	・自主学習を行い次回に備える	60
7	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
8	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
9	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
10	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
11	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
12	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
13	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
14	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
15	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	120
16	論文の作成	社会資源の収集・調査資料の分析を行う。	・自主学習を行い次回に備える	120
17	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い次回に備える	120
18	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い次回に備える	120
19	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い次回に備える	120
20	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い、原稿を修正する	120
21	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い原稿を修正する	120
22	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	・パワーポイントの修正を行う	120
23	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	・パワーポイントの修正を行う	120
24	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	・パワーポイントを作成する	120
25	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	・論文の修正を行う	120
26	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	・論文の修正を行う	120
27	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	・論文を書き上げる	120
28	論文の作成	発表の準備を行う。	・発表の準備を行う	60
29	論文の作成	論文の追加・加筆・修正を行う。	・論文の修正を行う	60
30	論文の提出	論文の追加・加筆・修正を行い最終提出をする。	・自主学習を行い論文を書き上げる	60

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修
担当教員	山本 裕詞		
開講期	通年		
授業概要	自らの課題意識をもとに調査研究を進め、論理実証的に結論を導き出し、卒業論文にまとめる。学生は、個別指導の際に、自らの課題に対する調査研究結果を発表し、それに対する小職からの講評を受け、次回の個別指導までの課題内容をフィードバックする。☒ なお、研究の必要に応じて、中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う。☒ 実務経歴：中高の教員として神奈川県立新羽高等学校、学校法人白根開善学校等で勤務。発達障害者教育の教員としてはフリースクール飛翔中等部等で勤務。☒ ☒ 位置付け・水準 HL2452		
達成目標	1. 自らの課題意識を、先行研究との関係で位置付ける。☒ 2. 論理実証的手法を用いて考察を深める。☒ 3. 中間報告、最終報告を通して、伝える技術を経験的に学ぶ。☒ 4. 卒業論文を、論文執筆の作法に従って作成することで、自律的研究能力の基礎を培う。☒ 単位認定の最低基準は、上記1～4の総合的評価が達成度7割以上であること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力		
受講資格	相談により担当となった学生	成績評価 方法	達成目標の達成度の総合的評価☒ 内訳：1. 研究の位置づけ 20%☒ 2. 論理実証性 30%☒ 3. 中間報告、最終報告 20%☒ 4. 論文の完成度 30%
教科書	特になし。		
参考書	河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会 2002年		
学生への要望	主体的に取り組むこと。		
オフィスタイム	前期、後期とも、学生のみなさんと相談して決定します。☒ 場所：教職課程推進室 ☒ そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマの確定と仮の章立て	学生は、卒業研究Ⅰでの学習を下地にテーマを確定するとともに、仮の章構成を考える。	発表用レポートの作成	180
2	仮の章構成を基にした研究計画を作成	学生は、前回の授業で行った仮の章構成をもとに、研究計画を作成し、説明する。	発表用レポートの作成	180
3	計画にそった研究の実施と経過報告 1	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポートの作成	180
4	計画にそった研究の実施と経過報告 2	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポートの作成	180
5	計画にそった研究の実施と経過報告 3	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポートの作成	180
6	計画にそった研究の実施と経過報告 4	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポート作成	180
7	中間発表の作成	学生は、中間発表に向けて発表資料を作成し、発表内容を言語化する。それによって、達成されつつある研究目的と、残されている課題とを特定する。	発表用レポート	180
8	研究計画の修正	学生は、中間発表の反省を踏まえ、研究計画の修正を行う。修正が必要ないときは、当初の研究計画通りに研究を進める。	発表用レポートの作成	180
9	計画にそった研究の実施と経過報告 5	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポートの作成	180
10	計画にそった研究の実施と経過報告 6	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポートの作成	180
11	計画にそった研究の実施と経過報告 7	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	論文執筆	180
12	計画にそった研究の実施と経過報告 8	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	論文執筆	180
13	最終発表の作成	学生は、最終発表に向けた資料作成と発表原稿の作成を行い、概要を説明する。	最終発表の作成	180
14	卒業論文の仕上げ1	学生は卒業論文を完成させる。残された課題について、説明する。	論文執筆	180
15	卒業論文の仕上げ2	卒業論文を完成させる。学生は、最終発表原稿を作成し、発表練習を行う。	論文執筆	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	安田 純子			
開講期	通年			
授業概要	各自が生活に関して関心を持っていることについて、詳しく調べ、考察していきます。探究することのおもしろさを知って研究を進めます。 ☒ 論文の添削等を通して全体に対するフィードバックを行います。そして、論文の全体を確認して提出します。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2452			
達成目標	目標は☒ 各自が生活に関して関心を持っていることについて、研究を進め、まとめの仕方を学び、発表できるようにし、また、文章で表現できるように仕上げていくこと。 ☒ ☒ 単位認定の最低基準は、自分の研究について発表し、文章で表現して論文に仕上げ,8割以上の完成度を求める。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力			
受講資格	家政学部 人間生活学科 4年	成績評価 方法	研究過程（態度・発表準備等）（60％）、発表（10％）、研究論文等まとめ（30％）	
教科書	特になし（必要に応じて指示する。）			
参考書	各自その都度必要な文献			
学生への要望	積極的に課題を見つけ、真摯に取り組んでほしい。			
オフィスタイム	前期：月曜日と木曜日の13:00~16:30☒ 後期：水曜日と金曜日の13:00~16:30☒ 創学館No. 1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマを見つける	興味のあるテーマを探す	テーマを見つける	30
2	図書館の使い方	図書館の使い方、資料の探し方	資料の探しかたになれる。	30
3	テーマを見つける	調べてみたいテーマ探し	テーマを見つける	30
4	資料集め	必要な資料の探し方・集め方	必要な資料の探し・集めをやる。	30
5	資料集め	資料を集める	資料を集める	300
6	資料を読み取る	論文に向けて参考となる資料の読み取り	資料を読み取る	300
7	必要資料集め	再び不足資料を探す	不足資料を探す	60
8	資料を読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	90
9	論文構想①	論文構想の大枠を考える。	論文構想の大枠を考える。	60
10	論文構想②	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
11	論文構想③	書ける論文のための骨組みの決定	書ける論文のための骨組みの決定する。	60
12	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成①	発表用パワーポイントと原稿の作成する。	60
13	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成②	発表用パワーポイントと原稿の作成する。	60
14	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成③	発表用パワーポイントと原稿の作成する。	60
15	プレゼンテーションのために	プレゼンの練習	プレゼンの練習をする。	30
16	プレゼンテーションのために	プレゼンの練習	プレゼンの練習をする。	30
17	論文要旨集	論文要旨集作成	論文要旨集作成を作成する。	60
18	論文執筆①	論文の書き方	論文の書き方を復習する。	60
19	論文執筆②	論文執筆	論文を執筆する。	240
20	論文執筆③	論文執筆	論文を執筆する。	240
21	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
22	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
23	追加資料集め	足りない資料など	足りない資料などを集める。	60
24	追加資料集め	足りない資料など	足りない資料などを集める。	60
25	論文執筆④	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
26	論文執筆⑤	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
27	論文執筆⑥	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
28	論文のまとめ	まとめと確認	まとめと確認をする。	60
29	論文提出用作成	提出原稿と体裁	体裁を整え提出原稿の仕上げをする。	120
30	卒研全体のまとめ	全体のまとめ	全体を見直し論文を提出する。	60

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修
担当教員	石原 正道		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究の内容は物理・情報に関する研究のみならず、計量文献学・応用統計など非常に多岐に渡ります。卒業研究Ⅱでは具体的な研究テーマの下に研究を進めます。また得られた研究成果をもとに論文を執筆し、発表を行います。テーマによって異なりますが、統計処理・数的な処理(数式の演算)・プログラミングなどを学ぶことになります(建築デザインコース向けの研究では数式は扱うものと考えてください)。☒ 研究内容に対する質疑や論文執筆時における査読等を通じてフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2452		
達成目標	卒業研究では(1)問題を発見する力を養うこと、(2)課題を解決するために、資料を収集し、考察を行い、結論を導く力を得ること、(3)結論を伝達するための、論理的な文章の作成力・発表技術を身につけること、を養成することを目標とします。☒ ☒ 卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰの目標(必要な資料の収集と内容の把握ができること、数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること)に加え、論理的かつ過不足のない文章を記述できること、および、必要な情報を伝えるためのプレゼンテーションができること、を目標とします。☒ ☒ 単位認定の最低基準：内容の8割を理解していること☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」「総合的な学習経験、創造的思考力」		
受講資格	なし。☒ ただし、卒業研究Ⅰの単位を修得済みであることが望ましい。	成績評価 方法	研究を進める上で必要となる基礎的な知識と能力の習得状況により判定します。☒ ☒ 具体的には、☒ (1)必要な資料の収集と内容の把握ができること、☒ (2)数的な処理(プログラミングを含む)および統計処理により適切な推論ができること、☒ (3)論理的かつ過不足のない文章を記述できること、☒ (4)必要な情報を伝えるためのプレゼンテーションができること、☒ を評価対象とします。評価割合は(1)を20%、(2)を30%、(3)を40%、(4)を10%とします。ただし研究テーマによって(1)から(4)で不必要な項目がある場合は、不必要な項目の割合を他の項目へ配分し評価します。この配分は、評価の割合に応じて配分します。たとえば(2)が不要であった場合は、(2)の評価割合を、残りの項目に20:40:10の割合で配分します。
教科書	適宜提示する。		
参考書	木下是雄「理科系の作文技術」中公新書(1981)、酒井聡樹「これからレポート・卒論を書く若者のために」共立出版(2007)		
学生への要望	卒業研究を完了するには自学自習する必要があります。目標を明確にし自学自習を進めてください。		
オフィスタイム	前期 月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室☒ 水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ 後期 水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ 金曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ ☒ 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。☒ アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	詳細な研究テーマの設定	卒業研究Ⅰで明らかとなった問題点などから詳細な研究テーマを設定します(文献等の確認を含む)。	卒業研究Ⅰで調べた資料を整理しておくこと。	60
2	詳細な研究テーマの設定	卒業研究Ⅰで明らかとなった問題点などから詳細な研究テーマを設定します(文献等の確認を含む)。	卒業研究Ⅰで調べた資料を整理しておくこと。	60
3	研究方法の確定	設定したテーマに対し、どのような研究手法が有効であるか検討する。	様々な研究手法を列挙してみること。	120
4	研究方法の確定	設定したテーマに対し、どのような研究手法が有効であるか検討する。	様々な研究手法を列挙してみること。	120
5	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
6	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
8	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
9	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
10	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
11	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
12	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
13	結果の整理	得られている研究結果を整理する。また結果から言及できる内容を抽出する。	研究結果を整理し、得られた結果から分かる事項をまとめること。	120
14	結果の整理	得られている研究結果を整理する。また結果から言及できる内容を抽出する。	研究結果を整理し、得られた結果から分かる事項をまとめること。	120
15	結果の妥当性の検討	得られた結果が研究目的に対し適切なものであるか確認をおこなう。	得られた結果のみで研究目的を達成しているか確認をしておくこと。	60
16	論文執筆の手順	論文の基本的な構成（IMRAD）や論文執筆における注意点（意見と事実の区別など）について学修する。	基本的な文献を読んでおくこと。	120
17	論文執筆の手順	論文の基本的な構成（IMRAD）や論文執筆における注意点（意見と事実の区別など）について学修する。	基本的な文献を読んでおくこと。	120
18	論文執筆	得られている研究結果から結論を導き出し、論文執筆用に整理をする。	研究結果、およびそこから得られると考えられる事項を整理しておくこと。	420
19	論文執筆	序論のための文献整理を行い、導入部分の構成を考える。	これまでに参照した文献を、内容ごとに整理し・分類しておくこと。	420
20	論文執筆	序論のための文献整理を行い、導入部分の構成を考える。	これまでに参照した文献を、内容ごとに整理し・分類しておくこと。	420
21	論文執筆	得られている結果・結論、研究での手法、序論のために整理した内容から、論文の構造を決定する。	方法・結果・結論をリスト化しておくこと。また参考文献類もリスト化しておくこと。	420
22	論文執筆	決定した論文の構造に基づき論文の執筆を行う。また内容の妥当性や整合性を確認する。授業時間内では主に内容の妥当性や整合性を確認する。	執筆は事前に行うこと。	840
23	論文執筆	決定した論文の構造に基づき論文の執筆を行う。また内容の妥当性や整合性を確認する。授業時間内では主に内容の妥当性や整合性を確認する。	執筆は事前に行うこと。	840
24	論文執筆	決定した論文の構造に基づき論文の執筆を行う。また内容の妥当性や整合性を確認する。授業時間内では主に内容の妥当性や整合性を確認する。	執筆は事前に行うこと。	840
25	論文執筆	決定した論文の構造に基づき論文の執筆を行う。また内容の妥当性や整合性を確認する。授業時間内では主に内容の妥当性や整合性を確認する。	執筆は事前に行うこと。	840
26	研究発表の準備	研究の重要な目的・重要な目標・重要な研究結果・重要な結論を抽出する。	論文より目的・目標・結果・結論を抽出しておくこと。	120
27	研究発表の準備	発表内容の整理を行う。導入・方法・結果・結論などの内容を確認をする。	事前に発表内容案を作成しておくこと。	420
28	研究発表の準備	作成した発表用資料をもとに発表練習を行う。発表時間に応じた発表内容等の調整していく。	事前に発表で話すべき内容を整理しておくこと。	240
29	研究発表	規定の時間内で研究発表を行う。	発表時間を超過しないよう十分な練習をしておくこと。	240
30	発表内容における指摘事項への対応	研究発表における指摘事項への回答を明確にし、論文へ回答内容を反映させる。	事前に回答案を作成しておくこと。	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	ダニエル ホーナー			
開講期	通年			
授業概要	A. The number (ナンバリング) of this subject is HL2452.☑ B. Instructor taught English at Koriyama Women's University Attached High School☑ (郡山女子大学附属高等学校) for 19 years. 郡山開成学園の教員として高校に勤務していました。☑ C. Be an active learner who enthusiastically pursues growth and excellence. ☑ D. Express succinctly research themes and personal career information. ☑ D. Demonstrate comprehension of terminology specific to your career choice. ☑ E. Write terminology and career information in contemporary formats. ☑ F. Express clearly the results of your research in reports and presentations.☑ G. Active learning is substantially utilized in every lesson!☑ FEEDBACK: Educative feedback is frequently given to students on their conduct, homework, quizzes and tests that is positive, constructive and considers the individuality of each student but also the diversity of all of the students.			
達成目標	1. The main objective is to improve all four skills (reading, writing, listening and speaking) of language pertaining to your career with a focus on persuasive expression of your skills and abilities. ☑ 2. Learn how to self-evaluate all four skills as they relate to careers, and then learn ways to improve your own abilities. ☑ 3. Express concise and correct information about prospective companies and employers. ☑ 4. Understand how active learning methods can be applied to lifelong learning.☑ 5. The minimum standard to receive 4 credits for this subject is to achieve 70% or higher on the overall average of these main criteria: attitude, 4 skills in research, documents submitted, research reports and presentations. ☑ 6. The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates "Problem Solving Skills," "Comprehensive Learning Experiences" and "Creative Thinking Skills Development."			
受講資格	大4年	成績評価 方法	1. Participation and Attitude (10%)☑ 2. Demonstration of the Four Skills through Research (40%) ☑ 3. Documents, Research Reports and Presentations (50%)	
教科書	(none)			
参考書	Documents produced by students and instructor, Daniel O. Horner.			
学生への要望	1. Please keep all appointments and research deadlines.☑ 2. For each hour of lecture by professors, students need 2 hours of preparation and review on their own.☑ 3. Be an active learner with very lofty goals.☑ 4. Conduct and continue research on a daily basis. ☑ 5. Stay ahead of schedule; avoid procrastinating!			
オフィスタイム	Office hours are Monday and Wednesday 5th Period (16:10 ~ 17:40), ☑ and by appointment, 創学館 4 F No.3 研究室.			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	Guidance	Preliminary guidance and creation of initial plans for the year.	Preparation	120
2	Continued Guidance	Guidance Session No. 2.	Preparation	120
3	Preliminary Research	Discussion of preliminary research.	Preparation	90
4	Preliminary Research	Second session with continued discussion of preliminary research.	Review	120
5	Defining Objectives	Define objectives for the first semester of the year.	Preparation	120
6	Defining Objectives	Second session to define objectives for the second semester of the year.	Preparation	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	Research Themes	Brainstorm potential research themes to be completed during the second semester.	Review	90
8	Additional Research Themes	Brainstorm more potential research themes to be completed during the second semester.	Preparation	120
9	Career Objectives	Correlate research themes to career objectives.	Preparation	120
10	Career Objectives	Second session of correlating research themes to career objectives.	Review	120
11	Career Terminology	Plan the initial research report on career terminology.	Prepare initial research report.	180
12	Additional Career Terminology	Submit the initial research report on career terminology.	Preparation	120
13	Career Parameters	Define in-depth career parameters and themes related to your career.	Review	120
14	Career Parameters☒ Pt. 2	Define additional in-depth career parameters and related themes. Write a detailed outline of personal career parameters.	Review	120
15	Report on Career Parameters	Write the rough draft of report on career parameters.	Prepare second research report.	90
16	Report on Parameters	Submit the final document of the report on career parameters.	Preparation	120
17	Initial Consultation of Four Skills	Have the initial consultation on ways of improving the four main skills needed for career success.	Preparation	90
18	Consultation on Listening Skills	Have the initial consultation on ways of improving listening as related to career choice and success.	Preparation	120
19	Consultation on Speaking Skills	Have the initial consultation on ways of improving speaking as related to career choice and success.	Preparation	90
20	Consultation on Reading Skills	Have the initial consultation on ways of improving reading as related to career choice and success.	Preparation	120
21	Consultation on Writing Skills	Have the initial consultation on ways of improving writing as related to career choice and success.	Review	90
22	Report on Four Skills	Submit the rough draft of research conducted on the four skills needed for success in careers.	Prepare the third research report.	120
23	Report on Four Skills	Submit the report on the four skills needed for success in careers.	Preparation	120
24	Current Technologies	Consultation on current technologies and the impact they have on the ever-changing job market.	Preparation	120
25	Research Current Technologies	Conduct research on current technologies that pertain to the student's career choice.	Preparation	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	Report on Current Technologies	Report on current technologies that pertain to the student's career choice.	Review	90
27	Consultation on Final Research Report	Consult with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.	Preparation	90
28	More Consultation on Final Research Report	Continue consultation with students on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.	Prepare final cumulative research report.	120
29	Final Report and Outline of Presentation	Submit the final research report to the instructor, and submit the outline of the final presentation for review by the instructor.	Preparation	240
30	Final Research Report and Presentation Practice	Use the final cumulative research report to practice for the final presentation that includes decisive conclusions on the student's career choice(s).	Preparation and Practice	240

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	瀬谷 真理子			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい]☑ 卒業研究は、大学での学修の集大成として総合的に学問をみにつめ、そこから、新たに創意工夫しようとする自主的な取り組みが出来るようにすることを目的とする。☑ [授業全体の内容の概要]☑ 3年次の進捗状況から、更に調査分析を進め、中間発表の手法を学ぶ。また、本発表に向けての発表手法や論文の完成を目指す。☑ コメント等によるフィードバックを行う。さらに福島県高等学校での家庭科教員としての実務経験を生かしながら実践的な指導を行う。 〔実務経歴〕福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	[到達目標]☑ ①論文構成を理解し、論文を完成させる。☑ ②PCを活用しての発表方法を学ぶ。 ③発表原稿の作成を通して、表現する力を身につける。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考			
受講資格	上記対象学生	成績評価 方法	①主体的な取り組み状況30％ ②中間・本発表状況 30％ ③論文の完成度 40％ ①～③の総合評価60％以上で合格とする。	
教科書	特になし。論文課題に対応し資料配布。			
参考書	随時紹介。			
学生への要望	論文制作は、主体的な取り組みが重要となる。決められた日程問わず、常に前向きに取り組み、理解が困難な場合などは、次週にまわさず進んで質問できるように努力する。☑			
オフィスタイム	家政学館4F 被服学研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	論文制作	3年次の資料収集及び分析調査結果を踏まえ、論文の作成方法を学ぶ。	3年次の卒業研究指導内容の確認	90
2	論文制作	論文の章立てを行い、執筆をスタートさせる。	調査分析	90
3	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ	調査分析	90
4	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ	調査分析	90
5	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ	調査分析論文執筆	90
6	論文制作	執筆した内容を提出し添削。執筆指導後、執筆を進める。	添削等修正し論文執筆	90
7	論文制作	執筆を進める。随時添削。	論文執筆	90
8	論文制作	途中経過報告会及び討論会	途中経過報告準備及び修正	90
9	論文制作	執筆を進める	論文執筆	90
10	中間報告の内容を決める	中間報告会での報告内容を決める	中間報告内容の検討	90
11	中間報告の準備	目的、方法、結果（途中経過）の記入方法を学ぶ	目的、方法、結果を記入する	90
12	中間報告の準備	第11回で学んだことを活かして、目的、方法、結果（途中経過）を記入提出	目的、方法、結果を記入する。添削後修正する。	90
13	中間報告の準備	第12回に提出した発表原稿の指導内容をもとに、修正後提出	再度作成。添削後修正する。	90
14	中間報告の準備	発表ppの制作方法を学ぶ	パワーポイントの作成	120
15	中間報告の準備	中間報告要旨集の制作方法の提示。発表PPの制作に取り掛かる。	パワーポイントの作成	120
16	中間報告の準備	中間報告要旨集の制作。生活総合コースは、中間発表までにタイトル及びサブタイトルの提出となるので、最終タイトル及びサブタイトルを決定する。	パワーポイントの作成及び発表原稿の作成	120
17	中間発表の準備	タイトル及びサブタイトルの決定。中間報告の原稿及びPP準備。	パワーポイントの作成及び発表原稿の作成	120
18	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。原稿の提出及び添削、修正。来週完成を目指す。	パワーポイントの作成及び発表原稿の作成	120
19	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。ゼミ生同士で発表の練習を行い、より良い発表方法を学んでいく。	パワーポイントの作成及び発表原稿の作成	120
20	発表終了後の反省報告会	中間発表会を終えて、今後の進め方や反省などを学生及び教員間で確認をする。	内容の修正とまとめ	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	論文制作	中間発表会での指摘や指導やアドバイスを受けて、論文修正などを行っていく。	論文執筆	90
22	論文制作	12月上旬をめどに、論文の完成を目指す。	論文執筆	90
23	論文制作	各章ごとに、論文執筆状況を提出し確認を受ける。	添削等修正し論文執筆	90
24	論文制作	論文執筆状況を提出確認完了後、修正に入る。	添削等修正し論文執筆	90
25	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨原稿の制作方法を学び、目的・方法・結果に分けて記入する（提出添削）	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
26	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨原稿の修正。来週完成を目指す。	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
27	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨集原稿の完成を目指す。	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
28	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
29	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
30	論文制作	論文提出方法を学ぶ。	最終確認	90